

九州歴史資料館年報

令和6年度



九州歴史資料館

は じ め に

古くから中国大陆、朝鮮半島などとの対外交流の窓口として重要な役割を果たしてきた九州・福岡県には、先人たちの足跡をたどることができる多彩な文化財が各地に残されています。

当館は、九州全域を視野に入れつつ福岡県ゆかりの文化財の調査・研究・活用等を行う博物館としての機能と、大宰府史跡等の発掘調査・研究及び出土品の管理等を行う埋蔵文化財センターとしての機能を併せ持っています。また、令和3年3月に策定された「福岡県文化財保護大綱」では、県内地域の文化財保護の充実のため、文化財保護課と一体となって、市町村の文化財保護の取り組みへの助言や支援の役割強化を担うことが求められています。

昭和48年に福岡県太宰府市に開館し、平成22年に弥生時代の集落遺跡である三沢遺跡に隣接する現在の地（小郡市三沢）へ移転し、7年度は、開館53年目を迎えます。

3年度から取り組んでいる「古代史研究」では、太古よりアジアの玄関口として機能し続けている福岡を視座に据えた新たな古代史像の構築を目指し、その研究対象を弥生時代や古墳時代にも広げており、研究最終年度の6年度は、集大成の特別展「筑紫君一族史」の実施や、アクロス福岡にて、古代史研究フォーラム「筑紫君磐井の乱の実像に迫る」を開催し、多くの方々に文化財に関する興味や理解を深めていただくことができました。

また、7年度、新たに教育普及班を新設し、これまで以上に学校教育活動との連携を強め、文化財の価値や意義を理解し伝えていく意識を育むための普及・啓発に力を入れてまいります。

この年報では、当館が6年度に実施した調査・研究活動、各種事業の概要を報告します。

今後も当館に求められる役割を全うすべく、職員一丸となって、調査・研究の質の向上や時代や関心に合わせた展示の導入等を行い、魅力ある施設づくりを進めてまいります。引き続き、御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、この年報が多くの方々に御活用いただければ幸いに存じます。

令和7年7月

九州歴史資料館長

吉 田 法 稔

目 次

1 事業概要

(1) 調査・研究	4
(2) 展 示	17
(3) 資料利用	26
(4) 学習支援・博学連携	37
(5) ボランティア	44
(6) 普及・活用事業	47
(7) 重点施策	62
(8) 広報活動	64
(9) 実習・研修	68
(10) 市町村支援	72
(11) 刊行物一覧	77
(12) 交流事業	78
(13) 協議会等	79

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿 革	80
(2) 施設概要	82
(3) 予 算	82
(4) 組織・職員	83
(5) 関係法規	84

3 諸 統 計

(1) 入館者状況	90
(2) 収蔵資料・図書	90

4 日 誌 抄	91
---------	----

1 事業概要

(1) 調査・研究

[学芸調査室学芸研究班]

◎美術工芸資料に関する調査研究

造形遺品を対象として調査研究を進めている。対象としては、古代から中世にかけての仏像や仏画などのいわゆる仏教美術と、近世絵画を中心としながら、それ以外の彫刻、絵画、工芸品も広く意識して扱うように努めている。これらの調査研究を通して、九州や現在の福岡県域が、わが国の歴史の中で、また東アジアの歴史の中で、どのような特色をもち、どのような役割を果たしてきたのか、その一面を明らかにすることを目指している。

6年度は以下の通りの活動を行った。

○寺社所蔵資料の調査研究

造形遺品が集中する場として、寺社が挙げられる。当館では、地域の歴史において中核的な役割を果たしてきた寺社をとり上げ、そこに伝わる造形遺品を中心とした文化財を悉皆的に調査する取り組みを続けている。地域の中核である寺社を考えることを通して、地域の特色を浮かび上がらせ、その地域が果たしてきた役割や周辺地域との関係性などを明らかにしようと試みている。

6年度は、近年取り組んでいる九州北部を中心とする霊山とそこに所在する尊像の調査を続けた。豊前市の求菩提資料館に保管される、求菩提山内に伝わった国玉神社所蔵の諸尊像、糟屋郡須恵町の若杉山の建正寺（佐谷観音堂）の諸尊像のうち、未精査であった重要作例について調査を行い、福岡県内において古仏の集中地として知られる求菩提山と若杉山については、概ね基礎資料を集積することができた。しばし調査を継続してきた九州北部の霊山の尊像については、調査をひとまず一段落させ、調査報告書を刊行した。また、若杉山石井坊伝来の木造不動明王及二童子立像（12世紀）は、長く当館の常設展示で紹介を続けてきた作例であり、九州の平安時代後期を代表する存在として知られてきたが、これまで詳細な調書が公開される機会がなかった。この作例について改めて詳細調査を実施し、当館研究論集にて紹介した。5年度から開始した浮嶽神社所蔵文書の調査も継続している。同文書は幕末から近代にかけてのものであるが、浮嶽周辺における神仏分離前後の様相について、具体的に検討してゆく上で重要となるものである。

3年度に開始した高良山ゆかりの仏教美術作品の調査も佳境に入っている。神仏分離によって山を離れた仏像・仏画等を追跡調査することを通じて、神仏が習合して栄えたありし日の山の姿を蘇らせようと試みているところであり、令和6年度は、久留米市御井町の御井寺を中心に調査を実施した。この寺院は、高良山の座主坊であった御井寺蓮台院の由緒を継承する寺院である。高良山由来と推定される木造阿弥陀如来立像（14世紀）や、蓮台院護摩堂の四明王像（17世紀）、久留米藩お抱え絵師の三谷家による十六羅漢の板戸絵（19世紀）などの作例を確認した。また、元の安置場所を確定させることはできなかったものの、鎌倉時代に遡る木造菩薩形坐像（13世紀）も確認した。年度末には、これまでの成果を企画展「高良山の仏教美術―山麓寺院調査から見えてくる山の



御井寺・木造菩薩形坐像（久留米市）

姿一」にまとめ、図録を刊行した。

また、県や市町村の文化財保護の担当部局と連携しながら、指定文化財の再調査も進めている。6年度は、福岡市の小田観音堂（福寿寺管理）の木造千手観音立像など3軀（県指定有形文化財）と、朝倉郡東峰村の深仙宿行者堂の木造役行者倚像1軀（県指定有形民俗文化財）の調査と写真撮影を行った。その機会に、関係者や市町村の文化財担当者と共に、現在の安置状況を確認し、今後の保存に必要な手立ての検討を行うこともしている。

諫早市と共に行っている市内の寺社における文化財の確認調査等も継続している。その他、地誌をはじめとする各種史資料や、市町村の文化財担当者から得られた情報なども積極的に活用しながら、広範な調査研究を進めている。

○九州に偏在する大陸系彫刻の調査研究

九州に偏在している、中国の明時代以前の彫刻、朝鮮半島渡来の彫刻について、調査と研究を進めている。中国の明時代以前の彫刻については、奈良時代以降の日本の彫刻への影響を考える上で重要な存在でありながら、これまで必ずしも調査が進んでいなかったところを前進させ、より具体的に九州の彫刻への大陸からの影響や、日本彫刻史における大陸からの影響を考える上での有用な基盤を形成するために、調査と研究を進めているものである。調査は木彫像や塑像等にとどまらず、そのほとんどが九州西側に存在する中国渡来石塔である薩摩塔に刻まれた5軀の尊像、またその他の中国渡来石造物までを対象としている。薩摩塔については、福岡市西区今津から新たに見出された須弥壇断片を借用して調査を行い、その成果を当館研究論集にて公にしていたところであったが、7年度はさらに特集展示にて紹介する予定である。なお、薩摩塔をはじめとする渡来石造物に関しては、これまで中国人海商の存在に注目して進めてきたが、彼らと共にあった入宋僧にもあらためて注目し、その博多太宰府周辺における造像活動について調査研究を開始している。もって大陸系彫刻の全容解明に近づいてゆきたい。

○福岡県内の絵画調査と研究

福岡県内の絵画については、近世の作例を中心に調査をしている。6年度は、福岡県の近世絵画史を語る上での重要人物の一人である、齋藤秋圃について情報収集と作例の把握を進めた。齋藤秋圃は大阪新町の幫間から秋月藩のお抱え絵師となり、隠居後は太宰府に住んで町絵師として活躍した人物である。これらの成果は、7年度に企画展に反映させる予定である。

○文化財の保護活動

当館では、現地での保管が困難ないしは危険であり、かつ当面所在地を離れても、地域の信仰文化に深刻な影響を与えることはないと判断される、文化財としての意義をもった仏像や神像、仏画等々をはじめとする文化財について、受け入れを行っている。この際は、緊急避難を受け入れた上で、地元の環境を整えることに協力し、整えば再び地元で保管するということを、理想の形として心がけている。6年度は、調査研究のために借用していた太宰府市個人蔵の薩摩塔1点を返却し、新たに個人蔵の薩摩塔断片1点を調査研究と保護のために受け入れた。

◎考古基準資料調査

○福岡県内近世陶磁器研究

7年度特別展「江戸時代に華ひらいた福岡のやきもの」開催のため、下記の調査を集中的に行った。

- ①上野・釜の口窯出土品調査（北九州市立いのちのたび博物館所蔵）
- ②上野・菜園場窯出土品調査（北九州市立埋蔵文化財センター）

- ③高取・永満寺宅間窯出土品調査（直方市教育委員会）
- ④高取・内ヶ磯窯出土品調査（直方市教育委員会）
- ⑤須恵焼調査（須恵町立久我記念館所蔵）
- ⑥高取焼・須恵焼調査（九州国立博物館蔵、寄託品（田中丸コレクション））
- ⑦朝田焼窯跡出土品など調査（うきは市教育委員会）
- ⑧小石原・釜床窯出土品調査（東峰村教育委員会・甘木歴史資料館）
- ⑨小石原・中野上野原窯出土品調査（東峰村教育委員会）
- ⑩小石原・火口谷窯出土品調査（東峰村教育委員会）
- ⑪小石原・金敷様裏窯産陶製山犬調査（小石原伝統工芸産業会館）
- ⑫久我コレクション調査（福岡県立美術館）
- ⑬高取焼東皿山窯産陶磁器ほか多数調査（財団法人能古博物館）
- ⑭高取、須恵焼調査（福岡市立美術館蔵、寄託品（田中丸コレクション））
- ⑮高取・山田窯産碗調査（嘉麻市教育委員会）
- ⑯朝妻焼窯跡出土品調査（久留米市埋蔵文化財センター）
- ⑰東野亭窯跡出土品調査（久留米市埋蔵文化財センター）
- ⑱上野、高取、須恵、星野、二川焼調査（佐賀県立九州陶磁文化館）

○中世北部九州出土の喫茶関係遺物の研究

館内等に収蔵している中世の遺跡から出土した喫茶関係遺物についての研究を行った。一般的な喫茶の歴史では、古代の団茶、中世の抹茶、近世の煎茶といわれてきた。しかし、発掘事例の増加や歴史学・美術史の研究が進み、近年、喫茶の実相に多様性があることが分かってきた。本研究は中世北部九州特に福岡で喫茶の実相を考えるうえで重要な遺跡について、遺構や出土遺物から喫茶の様相を考えるものである。

◎文書・典籍資料の調査研究

当館では、古代から近現代におよぶ各時代の古文書・典籍資料のほか、出土文字資料や写真・映像資料など、広く記録資料を対象として、福岡県域そして九州の歴史的な役割・特質を明らかにすべく、調査研究活動を行っている。

○出土文字資料の調査研究

6年度は、特別展「筑紫君一族史」の準備として、北九州市長野角屋敷遺跡出土の木簡「郡召税長膳臣澄信」（北九州市所蔵、北九州市指定有形文化財）を調査し、筑紫君磐井の乱に関わった地域豪族の後裔たちの動向を検討した。大宰府の官営工房としての機能も持つ大野城市牛頸窯跡群出土の刻書須恵器甕について、とくに刻書にみえる古代氏族の検討を行い、牛頸窯跡の須恵器生産と地域の豪族や倭王権との関わりを考察した。成果は「文字資料で読み解く牛頸須恵器窯跡と古代氏族」として、大野城心のふるさと館の講演会にて発表した。

○福岡県史編纂史料等の調査研究

福岡県史編纂史料は、平成22年度の当館の移転開館に伴い、新たに収蔵した約15万点の史料群である。移管後は、閲覧・レファレンスのほか、未整理史料の整理を引き続き実施し、一方で展示への活用や調査研究も積極的に行っている。このほか、筑豊工業高校資料、太田静六資料等の館蔵資料についても、引き続き調査研究・整理作業に努めている。

6年度は、常設展示において展示した団琢磨書簡（野田大塊文書）等の調査に加えて、明治29年頃に福岡県内で計画された私鉄敷設構想に関する資料（永江文書）を調査し、その成果は6年度の『九州歴史資料館研究論集』で発表した。

○県内・県外所在資料の調査研究

6年度は、古代史研究事業「筑紫から見た日本形成史の研究」の一環として、『古事記』や『日本書紀』、『筑後国風土記』逸文等にみえる筑紫君に関する史料、筑紫君と同時代にあって、時に敵対的でもあった胸肩君や水沼君、磐井を討った物部麤鹿火や大伴金村に関する史料を検討し、磐井の乱の前後における筑紫君の地域支配の実態と乱後の倭王権の九州支配について解明した。

また、八女郡広川町の石人山古墳や八女市の岩戸山古墳に関する近世の歴史資料や絵画資料を調査し、近世を通じて、石人山古墳が磐井の墓とされてきたが、幕末に久留米藩に仕えた国学者の矢野一貞が岩戸山古墳を磐井の墓とし、第二次世界大戦後に森貞次郎氏が考古学的研究により、改めて岩戸山古墳が磐井の墓であると論証し、通説化したという研究史を追検証した。いずれの成果も、特別展「筑紫君一族史」および古代史研究フォーラム「“筑紫君磐井の乱”の実像に迫る」、古代史研究事業の報告書『筑紫君の多角的研究』において紹介した。

大宰府と多賀城の比較研究では、大宰府観世音寺と同じ伽藍配置を採用するとされる、夏井廃寺や郡山廃寺、多賀城廃寺の現地調査を行い、いわき市考古資料館常設展示や東北歴史博物館等開催の多賀城創建1300年記念特別展において、出土文字史料を中心に実見した。さらに大宰府の宗教政策にかかわる史料・文献の収集のため、国立国会図書館と国立公文書館において寺社縁起などの資料調査を実施した。

福岡県の近世地誌の研究資源化による地域史研究基盤の創設に関する研究の一環として、九州国



本居宣長校訂『訂正古訓古事記』下巻
九州歴史資料館所蔵



『日本書紀』第八冊
九州歴史資料館所蔵



矢野一貞著『筑後将士軍談草稿』八・九
久留米市教育委員会所蔵



「福岡県下五十六鉄道略図」 九州歴史資料館所蔵

立博物館の協力を得ながら、貝原益軒とともに『筑前国続風土記』の編纂に従事した竹田定直による校正本の大野城市心のふるさと館所蔵の30巻本をはじめ、益軒全集所収本（30巻本）、九州歴史資料館（28巻本）、九州国立博物館（30巻本）、国立公文書館（28巻本5件）、宮内庁書陵部（28巻本1件、30巻本3件）、西尾市岩瀬文庫（28巻本）、松浦史料博物館（30巻本）、筑波大学附属図書館（28巻本）、大和文華館（28巻本）、徳島県立図書館（28巻本）国文学研究資料館（28巻本）、早稲田大学図書館（28巻本1件、30巻本1件）の写本を調査し、系統やグルーピングを整理した。

さらに『筑前国続風土記』のフルテキストデータベースの作成に向けて、本文のテキストデータ化を行った。7年度に竹田定直校正本の写真版も参照しつつ、テキストデータの校正を行い、またデータベースシステムの開発も進めて、7年度中に九州歴史資料館ホームページで公開する予定である。

また、令和6年が当館の最寄り駅を擁する西日本鉄道天神大牟田線の前身、九州鉄道（二代目）の開通から100周年を迎えたのを機に、西鉄前身会社に関する文献を調査した。調査は福岡共同公文書館にて、九州鉄道等が当時の福岡県を通して監督官庁に提出した公文書などを対象に行っている。その成果は6年度の特集展示「福岡鉄道遺産ものがたり10～西日本鉄道編～」で発表した。

【学芸調査室文化財科学班】

◎文化財の保存処置

○木製遺物の保存処理

木製遺物の保存処理は、含水率測定や樹種同定などの事前調査、トレハロースによる含浸処置、含浸処置後の余分なトレハロースを除去する表面処理といった工程で行っている。6年度は、2遺跡15点の保存処理を行った。

○金属製遺物の保存処理

金属製遺物の保存処理は、X線CTスキャナや蛍光X線分析装置などの事前調査、土砂や錆を除去するクリーニング、腐食促進因子を除去する脱塩処理、合成樹脂含浸による強化処置といった工程で行っている。6年度は8遺跡86点の保存処理を行った。

○美術工芸・古文書・典籍・歴史資料に対する保存処理

美術工芸・古文書等の保存処置について、現状では文化財の有害生物を対象に、資料への被害状況、劣化状況等の保存状態調査を経て、資料に対して適切な処置を行っている。

6年度は、有害生物の被害がみられたとして、柳川古文書館、県立図書館、太宰府市公文書館、宗像市、九州大学附属図書館附設記録資料館および当館寄贈・借用資料について、処置を行った。

なお、これまでカビ処置のために使用してきた酸化エチレン製剤が、7年3月末に販売終了となることを受け、当館における今後の対策について検討し、薬剤に依らないカビ処置に移行できるよう準備を始めた。

○館内の保存環境整備に関する取り組み

年間を通じて、第一展示室、特別収蔵庫各室の温湿度測定や空調設備の制御状況の確認、特別収蔵庫周辺の有害生物監視を継続的に行った。今後も、文化財に対する有害生物をできる限り軽減させ、適切な環境のもと、保存できるよう測定や監視等の取り組みを継続する。

○各種文化財の保存対策

資料の保存環境を整備するため、平成22年度から関係部署と共に、温湿度等の保存環境調査を行っている。6年度、作業を行ったのは、宗像大社神宝館であり、展示室、収蔵庫内に測定地点を

定めデータログを設置、数カ月おきにデータ収集と定期点検を行った。

また、装飾古墳石室内環境に関する支援は、王塚古墳（桂川町）、竹原古墳（宮若市）の保存環境整備に対応した。調査、支援により、適切な保存環境整備に向けた取り組みの計画・立案に寄与している。

○各種文化財の科学的調査

6年度の外部機関に基づく科学的調査は以下のとおりである。

上記のほか、館蔵資料については随時、科学的調査を実施している。

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
1	粕屋町教育委員会	阿恵官衙遺跡出土土器	X線CTスキャナ	R6. 6. 12
2	長崎県松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土墨書板	赤外線スキャナ	R6. 10. 30
3	大野城市教育委員会	塚原遺跡・村下遺跡出土鉄製品他	X線CTスキャナ	R7. 1. 27
4	熊本県山鹿市教育委員会	湯の口横穴群出土馬具等	X線CTスキャナ	R7. 2. 3

○外部機関への協力・研修など

博物館等の保存施設新築、改築をはじめ、遺物の保存処置、保存環境をはじめとする文化財保存に関する外部機関からの相談・支援依頼に随時対応している。6年度、対応した外部機関は以下のとおりである。

宗像大社、四王寺山勉強会、荏田町教育委員会、九州大学大学文書館、甘木歴史資料館、新県立美術館建設室、長崎県松浦市教育委員会

◎船原古墳出土資料に関する共同研究

平成24年度に発見され、その後、遺物の取り上げ作業やX線CT調査等の支援を行った古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物について、平成26年度から、古賀市教育委員会と当館との間で協定を締結し、科学的調査や保存処置に関する共同研究を開始している。

6年度も引き続き、これまで撮影したCTデータの解析を進め、現状における遺物の形状や数量等を抽出し、出土位置との照合を行い、全容を把握する作業を行った。遺物のクリーニング作業は、鉄製壺鐙、蛇行状鉄器など合計14点を行った。



6年度クリーニングを終えた鉄製壺鐙（左）・金銅製鞍（右）

◎災害による被災文化財救援への対応

令和2年7月豪雨、令和5年7月豪雨により水損した文書の応急的保存処置を行った。

内容は、冷凍保存によるカビ繁殖防止、真空凍結乾燥法による乾燥処置、付着した土砂、カビの

クリーニング、折れ、シワ等を伸ばすフラットニングやカビ、虫害が発生している資料への燻蒸処置である。

6年度は、個人蔵文書群（熊本県）久留米絰関連資料2件の作業を行った、

また、全国歴史民俗博物館協議会を通じて、令和6年能登半島地震・豪雨災害による被災文化財レスキュー活動に、令和6年10月21～25日にかけて1名を派遣した。



処置作業風景

[埋蔵文化財調査室文化財調査班]

文化財調査班の主たる業務は、国や県の機関等が事業主体となる開発事業に関わる発掘調査及び報告書作成である。その他、県内市町村の実施する発掘調査の支援も適宜行っている。また、4年度から3ヶ年間で、「福岡県装飾古墳総合調査」を行い、6年度末にその成果を報告書として刊行した。

◎発掘調査及び報告書作成

発掘調査は、福岡県県土整備部の執行委任を受け、社会資本整備総合交付金事業 県道下深野犀川線（久富古墳群）、久留米筑紫野線道路改良事業（今山向才ノ木遺跡）及び都市計画道路三橋筑紫橋道路線道路改良事業（坂本町遺跡・新外町遺跡）の計3件を実施した。

報告書に関しては、受託事業として3年度に発掘調査を実施した一般国道210号浮羽バイパス（国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所・関戸遺跡）、及び執行委任事業として4・5年度に発掘調査を実施した主要地方道久留米筑紫野線（十郎丸長谷古遺跡第2次調査）の2冊を刊行した。都市計画道路三橋筑紫橋道路線道路改良事業（坂本町遺跡）に関しては、整理作業のみを実施した。

以下、6年度に実施した発掘調査の概要を掲載するが、現在整理中のものも含んでおり、詳細については、刊行予定の報告書で公表する。

○社会資本整備総合交付金事業 県道下深野犀川線

・久富古墳群（みやこ町）

久富古墳群は標高約64mの山林に所在する遺跡で、調査の結果、古墳時代終末期の古墳4基と小石室2基を確認した。今回の調査により京築地域、ひいては周防灘沿岸地域における古墳造営のあり方や葬送儀礼に関する理解を深める結果となった。



久富古墳群（左：空中写真 右：久富1号墳）

○都市計画道路三橋筑紫橋線道路改良事業

・坂本町遺跡・新外町遺跡（柳川市）

坂本町遺跡は柳川城址の北側にある坂本町に位置し、寛政3（1791）年の絵図によると、柳川藩の武家屋敷があった場所に該当する。路線の中央を横切る堀から東側を坂本町、西側を、新外町遺跡と呼称して調査を行った。

坂本町遺跡では、主に江戸時代中期～後期（1700～1900年代）頃の建物跡・土坑43基、溝18条、多数のピット、新外町遺跡では土坑



坂本町遺跡（空中写真）

10基、溝8条、ピット多数等を検出した。

○主要地方道久留米筑紫野線道路改良事業

・今山向オノ木遺跡（久留米市）

今山向オノ木遺跡は、筑後川旧河道とその支流に挟まれた微高地上に所在する遺跡である。

調査の結果、古墳時代～古代、中世の遺構を確認した。検出した遺構は土坑5基、溝14条、ピットである。



坂本町遺跡検出井戸



今山向オノ木遺跡（左：調査区全景 右：空中写真）

6年度文化財調査班実施の発掘調査及び作成報告書一覧

遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	調査期間	調査 内容	調査原因
久富古墳群	京都郡みやこ町犀川 久富	2,560㎡	240611-241107	古墳	道路改良
坂本町遺跡 新外町遺跡	柳川市坂本町 新外町	820㎡ 320㎡	240412-250331	集落	道路改良
今山向オノ木遺跡	久留米市北野町今山	3,000㎡	241120-250327	集落	道路改良

◎福岡県装飾古墳総合調査

本県では、全国でも2番目に多い78基の装飾古墳が所在しており、本県の古墳時代の象徴的存在として知られている。本館では、装飾古墳の歴史的な位置付けや評価、及び適切な保存管理を行うために必要なアーカイブ化を目的として、4年度から県内装飾古墳の総合調査を実施してきた。

最終年度である6年度は、既存の調査成果のとりまとめや補足調査、並びに成果の総括を行った調査の計画や実施内容については、有識者3名からなる「福岡県装飾古墳総合調査指導委員会委員」を6月28日（第5回）、10月18日（第6回）、いずれも九州歴史資料



経塚横穴墓群110号墓前室浮彫（田川市）

館において開催した。6年度末には調査成果をもとに報告書の刊行を行った。

福岡県装飾古墳総合調査指導委員会委員名簿（令和7年3月31日現在）

氏 名	専 門	備 考
重藤 輝行	考古学	佐賀大学芸術地域デザイン学部教授 福岡県文化財保護審議会専門委員
辻田 淳一郎	考古学	九州大学人文科学研究院准教授
河野 一隆	考古学	東京国立博物館学芸研究部長

◎西新町遺跡出土遺物再整理

西新町遺跡は福岡市早良区西新に所在する。修猷館高等学校校舎建て替えに伴う発掘調査の結果、古墳時代初頭を中心とする集落遺跡で、当時の日本列島最大の国際貿易港であったことが明らかとなった。九州歴史資料館では西新町遺跡出土品の一層の有効活用を目的として、4年度から6年度にかけて再整理事業を行った。最終年度となる6年度は、重要性や遺存状態に応じた整理・再収納を完了するとともに、それらの一覧表を作成した。その内の271点については、国の文化審議会文化財分科会が文部科学省に令和7年3月21日に国の重要文化財（考古資料）として答申した。

◎「福岡県内における軍事に関する遺構の基礎的研究
～飛行場を中心に～」

本研究は、北部九州における陸海軍の飛行場及び関連施設（主として「飛行機用掩体」）を研究の素材として取り上げ、分布と現状について文献及び現地踏査により資料を収集し、現存状況を把握した上で基礎的な考察を行ったものである。最終年度となった6年度は一部現地調査の補足調査や文献調査等を行い、調査成果について雑誌等に投稿するとともに、研究の成果をより広く公表するため配布用冊子をまとめた。



筑前町大刀洗北飛行場掩体

◎「古代国家形成期の日本列島における地域社会編成：鉄製武器に着目して」

本研究では、日本列島における古代国家形成期にあたる古墳時代後期・終末期に進行する地域支配制度の転換、及び地域社会編成の実態解明に向け、鉄製武器を中心とした副葬品の地域性・階層性の検討を主軸に据えた考古学的な検討を行う。

6年度は、九州内の自治体において資料調査を実施し、資料に関する基礎的な情報の把握に努めた。7年度には研究の成果をまとめる予定である。



鳥栖市神山古墳出土鉄鏃

【埋蔵文化財調査室大宰府調査班】

大宰府調査班では、大宰府史跡と関連遺跡の調査研究を主な業務として取り組んでいる。6年度は、開発に伴う事前確認調査を2件、令和5年7月に発生した豪雨災害の復旧に係る事前確認調査を1件実施した。

◎大宰府史跡の発掘調査および報告書作成

6年度は、大野城跡や政庁周辺官衙跡の広丸地区にて、開発に伴う事前確認調査や災害復旧に係る調査を行った。

報告書は『大野城跡Ⅰ－総括報告書 遺構編－』を刊行した。

そのほか、大野城跡については、今後総合的な調査を行っていくことにしており、過去の調査の整理作業や基礎資料を得るための踏査等を行った。

詳細は下記のとおりである。

6年度大宰府史跡調査一覧

調査次数	面積（㎡）	調査期間	調査地区
大宰府史跡第254次調査	14.3	2024.6.7	政庁周辺官衙跡・広丸地区
大野城跡第61次調査	8.3	2024.8.27	四王寺県民の森
大野城跡第60-2次調査	54.0	2024.9.17～20	増長天地区
大野城跡踏査	約30,000	2024.4～2025.3	全域

○大宰府史跡第254次調査（政庁周辺官衙跡・広丸地区）

第254次調査は、個人住宅建設に先立つ確認調査で、広丸地区の南寄りに位置する。

調査は1本のトレンチを設定して行った。その結果、地表下0.95m程で河川による自然堆積層を確認し、地表下1.2mで地山に到達した。遺構は確認できず、遺物は土器の小破片が掘削中にわずかに認められたのみであった。



大宰府史跡第254次調査

○大野城跡第61次調査（四王寺県民の森）

第61次調査は、管理棟・研修棟等の改修工事の計画立案に先立って行った確認調査である。

調査は建物周辺に3本のトレンチを設定して行った。その結果、新しい時代の埋め土や自然堆積土を確認したもの、遺物及び遺構は確認できなかった。一帯は昭和時代に、元々斜面であった地形を大きく造成したことが想定された。



大野城跡第61次調査

○大野城跡第60-2次調査（増長天地区）

第60-2次調査は、5年度に災害復旧工事に先立って行った第60次調査のトレンチを含む、工事箇所全域で行った確認調査である。

調査は工事に先立ち、崩落個所を精査し、土塁の土層を観察した。遺物は確認できなかったが、深い谷状地形を埋めるように基礎盛土を行っていることや、その上に版築盛土を行っていることが確認できた。



大野城跡第60-2次調査

○大野城跡踏査（全域）

今後の調査に向け、全域を対象に踏査を行った。主に土塁推定線の現状把握を行い、課題を抽出していった。

◎大宰府史跡調査研究指導委員会

大宰府史跡の調査研究にあたっては、遺跡の性格上、あらゆる分野から総合的に取り組む必要があるため、考古学・歴史学・建築史学・造園学・都市工学・土木工学などの専門家で構成する「大宰府史跡調査研究指導委員会」を設置し、その指導のもと、計画的に調査研究を進めている。

6年度の大宰府史跡調査研究指導委員会は、7月5日（金）に開催し、5年度の事業報告や6年度の事業計画の審議が行われた。

調査研究部会は11月13日（水）に開催し、大野城跡第60-2次調査の成果について報告したほか、大野城跡の報告書の内容及び7年度調査計画についての審議が行われた。



6年度大宰府史跡調査研究指導委員会の様子

大宰府史跡調査研究指導委員会委員名簿

（6年度）

	氏 名	所 属	専 門
委 員 長	佐藤 信	東京大学名誉教授	歴史学
副委員長	山中 章	三重大学名誉教授	考古学
委 員	坂上 康俊	九州大学名誉教授	歴史学
	森 公章	東洋大学教授	歴史学
	増渕 徹	和歌山県立紀伊風土記の丘館長	歴史学
	本中 眞	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	造園学
	亀田 修一	岡山理科大学名誉教授	考古学
	箱崎 和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	尼崎 博正	京都芸術大学名誉教授	造園学
	包清 博之	九州大学名誉教授	造園学
	末次 大輔	宮崎大学教授	土木工学
	森 弘子	元公益財団法人古都大宰府保存協会理事	地元有識者
	重藤 輝行	佐賀大学教授	考古学

◎大宰府史跡調査研究検討会

大宰府史跡は複数の市町にまたがることから、その調査研究に際しては関係する市町等と連携して行う必要があるため、「大宰府史跡調査研究検討会」を設置し、検討及び情報共有を行っている。

6年度の第1回目の検討会は、令和6年6月25日（火）に当館にて開催し、大野城跡の建物構造や、古代山城の門の導線等についての検討を行った。また第2回目の検討会は、令和6年10月30日（水）に大野城跡にて開催し、坂本口土塁の過去の調査の検討等を行った。

◎大宰府史跡出土瓦の整理作業

当館の長年にわたる調査によって出土した大宰府史跡の瓦については、今後の活用に資するべく、使用頻度を考慮した選別や再分類を坂本事務所にて行った。

◎版築技法により構築された土塁の安定機構に関する地盤工学的研究

古代山城の城壁を構成する土塁の形状寸法を現代の安定基準に照らし合わせると“著しく不安定”と判定される。しかし、実際には、築城から1,300年以上を経た現在でも比較的良好な状態を維持していることに着目し、本研究ではこの矛盾に対する科学的な解明を試みている。

方法としては、①全国の古代山城の現地調査、②土塁ミニチュアモデルの製作、③ミニチュアモデルからの土質パラメータ取得、④コンピュータ安定解析による評価（通常時・地震時）、⑤解析結果からの科学的考察、の流れで研究を進めた結果、安定に寄与する一定の成果を得ることができた。



版築ミニチュアモデル
(設置場所：大野城跡)

◎大宰府史跡出土品の重要文化財指定に向けた保存と活用の為の三次元データベースの構築

本研究は、重要文化財大宰府史跡出土品の保存と活用のための三次元データベース作成を目的としたものである。研究の対象となる出土品に関しては軒丸瓦、軒平瓦などの瓦当を中心に写真データの取得に努め、三次元化の作業を行った。撮影したデータはAGISOFT社製のMetaShapeを用いて、三次元化を行っている。



大宰府史跡出土軒丸瓦275A型式
三次元画像

（２）展 示

展示室では、常設展示に加えて、年１回の特別展、年２回程度の企画展を実施している。特別展は、毎年秋に第１展示室の常設展示を全て撤去して行うもので、当館の調査研究の学術成果を紹介する最も大規模な展示である。また、企画展は、現在進行している館の取り組みを紹介するもので、小規模ながら最新の研究動向を反映したものとなっている。また、常設展示の一部として、小さなテーマを設定して資料を紹介する特集展示も実施し、展示に変化をもたせている。

◎常設展示

第１展示室では、「歴史（とき）の宝石箱」をテーマに、旧石器時代から近現代に至る福岡県の歴史を、遺跡からの出土品の他、仏像、古文書、古地図、古絵図等の実物を、概ね時系列に沿って展示することにより、通史的に紹介している。象徴的な資料と向き合うことを通して、福岡県さらには九州の歴史を体感できるよう意図している。文書や絵画資料については、資料の保全のため、また資料の調査研究の活性化やリピーター獲得のために、約２か月ごとに展示替えを行っている。

第２展示室では、大宰府政庁中門の10分の１復元模型を展示する他、九州の大きさや地形、位置や距離を学ぶことができるように、床面の中央に縮尺10万分の１の九州の衛星写真を設置している。

第３展示室では、縦横に棚を連ねたロッカー式のケースに、福岡県内出土の弥生土器や須恵器、軒先瓦などを基本的に時系列に沿って並べ、形や文様、調整等制作技術の移り変わりが理解できる展示を行っている。また引き出し式のケースには、貿易陶磁や国産陶器等の破片資料を展示しており、それら資料の多彩な色や文様、胎土等の様子を観察することができる。

第４展示室では、旧石器時代や縄文時代の集石遺構、弥生時代の小児甕棺墓や銅矛銅戈埋納土坑、古墳時代の編み籠に入った須恵器、奈良時代の地盤強化のための筏状遺構、平安時代の製銅炉他の、現地で保存することができなかった遺構を切り取ってきて保存処理を施して床下のケースに収め、地中の遺跡を覗き込むような形での展示を行っている。

第１展示室、第２展示室においては、常設展示の内容を掘り下げたり、より平易に入門編的に紹介したり、学校の授業と連動させるなどした、特集展示と銘打った展示も行っている。特別展や企画展に比べると小規模で手作りのものではあれ、その分必要に応じ調査研究の進度に応じて臨機的に織り込むことができ、展示に変化をもたらしている。

なお、分かりやすさと親しみやすさを考慮して、キャプションの文字数は少なめに設定しているが、踏み込んだ解説が必要と判断される場合には、観覧者が自由にとることのできる解説シートを作成して、より一層の興味関心に応えられるよう工夫をしている。

＜常設展示「歴史の宝石箱」展示構成＞

第１章 旧石器・縄文時代 狩猟と採集

第２章 弥生時代 稲作とクニ

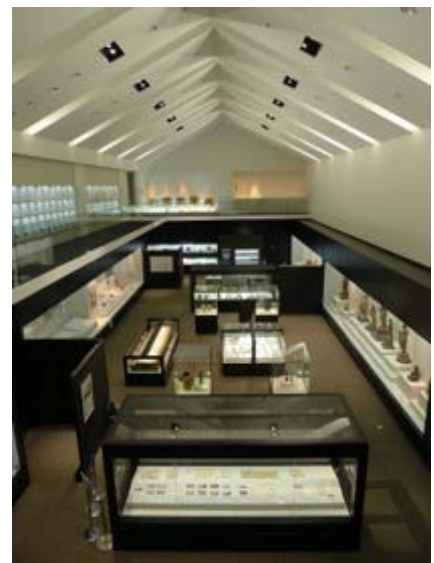
第３章 古墳時代 北部九州の古墳文化

第４章 古代Ⅰ 大宰府史跡

古代Ⅱ 西海道大宰府

古代Ⅲ 仏教美術

第５章 中世Ⅰ その後の大宰府



第１・３展示室

中世Ⅱ 武士と戦乱の世

第6章 近世 「太平の世」の福岡

第7章 近代Ⅰ 「福岡県」の誕生とあゆみ

近代Ⅱ 絵図の世界

◎特集展示

○特集展示「きゅうおにとタイムトラベル 一大昔のくらしと国づくりー」

会期：令和6年3月19日（火）～7月15日（祝・日）

会場：第2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：例年の企画展である。福岡の大昔の人たちはどのような服を着ていたのか、食べ物は何を食べて暮らしていたのか、また日本の国はどのように形作られてのか。そのような大昔の歴史の疑問を、九州歴史資料館のイメージキャラクターである「きゅうおに」とともに縄文・弥生・古墳・奈良の各時代をタイムトラベルしながら探っていく小学生とくに歴史をはじめて学ぶ高学年の子供たちを対象とした展示である。教育普及の観点を重視し、歴史学習をより楽しくできるように、わかりやすくするために実物資料だけではなくレプリカやイラストパネルを多用した。第1展示室では実践しにくかった子供たちへむけての展示を実践でき、さらに親や先生、同級生などと一緒に楽しめる企画でもある。ポスター・チラシをリニューアルした。

○特集展示「やきもの はじめの一步③ やきものの文様」

会期：令和6年7月17日（水）～10月6日（日）

会場：第2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：「やきもの」は私たちの毎日の生活で使用される身近な道具の一つである。特に食器の中で、陶器や磁器の色とりどりの「やきもの」を用いたり、各自がそれぞれの食器があるのは、日本人ならではの文化ともいえる。博物館においても「やきもの」は多く展示しており、当館では縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、三彩、青磁、黒釉陶、白磁、褐釉陶、青白磁など多くの「やきもの」がある。その産地は中国、朝鮮、イスラムなど海外などを含め、九州島内外の国産陶器も多岐にわたる。このように身近に感じることでできる「やきもの」だが、その詳細について知っている人は多くない。そこで、本特集展示は「やきもの」の基礎的な知識を当館の資料を使って、分かりやすく解説することを目的としている。第1回目は、「やきものの種類」をとりあげ、土器、陶器、磁器の違い、器の形とその各部位名称などについて解説した。第2回目は「やきものの色」をテーマに釉薬や絵付けなどについて特集した。今回は、第3回目の最終回で、「やきものの文様」をテーマにして、文様の施し方や文様の意味などをパネルなどの解説を多用し、楽しく理解できる内容とした。

なお、会期中には東洋陶磁学会との共催で東洋陶磁学会50周年記念学会③「陶磁器研究のここが面白い」（パネラー対談・ポスター発表）が開催された。



特集展示「きゅうおにとタイムトラベル」入口バナー



特集展示「やきもののはじめの一步③」ポスター

○特集展示「福岡鉄道遺産ものがたり10～西日本鉄道編～」

会期：令和6年8月6日（火）～9月29日（日）

会場：第1展示室（近代コーナー）

主催：九州歴史資料館

内容：近代の福岡県では、濃密な鉄道網が形成され、戦前から多くの鉄道施設や車両、そして関連文書も形成されてきた。これらの鉄道関連の資料には、今なお「鉄道遺産」として現存しているものもある。これらは、近代福岡県の交通史を物語る貴重な文化遺産であり、当館ではこれまで特集展示およびパネル展「福岡鉄道遺産ものがたり」シリーズとして、9回に渡り県内各地の鉄道遺産を紹介してきた。

シリーズ10回目の本展では、九州歴史資料館の最寄り駅・三国が丘駅を擁し、また令和6年に福岡～久留米間等が開通100周年を迎えた西日本鉄道に関する鉄道遺産を紹介した。今回は特集展示として、文書資料を中心に紹介している。主な展示資料として、西鉄前身会社が発行したパンフレット「筑紫電気軌道株式会社概要」（当館蔵）、大正13年の福岡～久留米開通時の沿線を描いた鳥瞰図「九州鉄道沿線案内」（当館蔵）、開通時に製造された車両の図面「車両竣工図表」（福岡共同公文書館所蔵『軌道許可（九州鉄道）』より）などがある。さらに戦前の駅舎や戦後の軌道車両のパネルも展示した。

なお会期中の8月30日（金）にはギャラリートークを行い、31名の参加があった。



特集展示「福岡鉄道遺産ものがたり10」ポスター



◎特別展「筑紫君一族史」

会期：令和6年10月12日（土）～12月8日（日）

※第2展示室は10月8日（火）から

会場：第1・2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：この特別展は、筑紫君の歴史から日本創成の風景を描く展覧会である。筑紫君の歴史を探る史料は、飛鳥時代～奈良時代にかけて編纂された『古事記』（712年完成）、『日本書紀』（720年完成）を基本文献とし、奈良時代に編纂され、「逸文」として部分的に伝来した『筑後国風土記』等がある。国史における筑紫君に関する最初の記事が527年（筑紫君磐井の乱勃発）で、最後の記事が690年（大伴部博麻の帰国経緯）であることから、史料上では古墳時代後期～飛鳥時代（6・7世紀）、約200年間が「筑紫君の時代」と把握できる。ただし、国史に記された筑紫君はヤマト王権側の主観を反映した姿であり、記事自体も簡略かつ虚実入り交じった内容である。

筑紫君の実像に迫るには、筑紫君自らが築いた古墳や生活残滓となる集落跡等を複合した「遺跡」にも焦点を当てる必要がある。本展では、虚実ある文献史料の分析と物言わぬ考古資料の分析、双方の批判的統合を通じて、筑紫君一族の歴史を読み解いた。

本展は、筑紫君の勃興から、磐井の乱、その後のヤマト王権による九州支配の形成、「日本国」の成立にいたるまでの歴史を、ツクシの視点から捉え直し、筑紫君一族が国家形成過程で果たした

特集展示「福岡鉄道遺産ものがたり10」
展示風景

役割に思いをはせていただき、もって地域における文化財の顕彰と保存の一助になるよう企画した。主な展示資料は以下のとおり。

【第一部 筑紫君一族史】

第一章 甕依姫の時代

『釈日本紀』巻第五（複製） 九州国立博物館所蔵、『山土産』 久留米市立中央図書館所蔵、八女市立山山13号墳出土巫女形埴輪、飯塚市小正西古墳出土巫女形埴輪、大阪府高槻市今城塚古墳出土巫女形埴輪

第二章 有明首長連合の時代

熊本県山鹿市寒原3号墳出土土人骨（模造）・被葬者復顔像 熊本県立装飾古墳館所蔵、江田船山古墳出土象嵌鉄刀（復元品） 九州国立博物館所蔵、伝群馬県藤岡市西平井出土象嵌鉄刀 九州国立博物館所蔵

第三章 筑紫君磐井の時代

『筑紫磐井氏寿蔵の事かき』 九州国立博物館所蔵、『筑後将士軍談』巻之第五十一 篠山神社所蔵、『筑後将士軍談草稿』八九 久留米市教育委員会所蔵、『筑後国柳川原石人図』 個人所蔵、八女市岩戸山古墳出土武人形石製表飾（扁平石人）・鶏形石製表飾・大刀形石製表飾 八女市教育委員会所蔵、大阪府高槻市今城塚古墳出土武人形埴輪・家形埴輪・鶏形埴輪・円筒埴輪・石棺片 高槻市教育委員会所蔵

第四章 筑紫国造の時代

八女市乗場古墳出土円筒埴輪、八女市童男山古墳群出土石製表飾 八女市教育委員会所蔵、福岡市東光寺剣塚古墳出土円筒埴輪・石製品、福岡市比恵遺跡群出土須恵器坏、那珂遺跡出土須恵器・土師器・瓦・軒丸瓦 福岡市埋蔵文化財センター所蔵



特別展「筑紫君一族史」展示風景

第五章 筑紫君薩野馬の時代

『日本書紀』卷第二十七・三十 九州歴史資料館所蔵、広川町正恵・大坪遺跡出土須恵器・平瓦 広川町教育委員会所蔵、水城跡出土墨書土器「水城」 九州歴史資料館所蔵

【第二部 筑紫海の日々】

第一章 筑紫海の赤と黒

みやま市名木野古墳群出土黒色土器・赤色土器 みやま市教育委員会所蔵、熊本県山鹿市チブサン古墳 黒色土器・赤色土器 熊本県山鹿市教育委員会所蔵

第二章 山辺の村

八女市惣津町遺跡出土移動式竈 八女市教育委員会所蔵、広川町割子田遺跡出土須恵器・土師器・石製支脚 広川町教育委員会所蔵

第三章 海辺の村

柳川市蒲江津江頭遺跡出土須恵器・土師器、イヌ 柳川市西蒲池池淵遺跡 九州歴史資料館所蔵秘蔵

総点数：151件710点（重要文化財13件13点、県指定文化財1件1点、市指定文化財6件42点）

入館者数：12,254名

図録：A4版、180頁、頒価1,300円

当館主催・共催イベントは以下のとおりである。

8月10日（土）九歴講座「北部九州の対外交流～筑紫国前史～」坂元雄紀（当館学芸員）

9月14日（土）九歴講座「磐井誕生前夜～石人山古墳を中心に」森井啓次（当館学芸員）

10月12日（土）九歴講座「筑紫君磐井と岩戸山古墳」吉田東明（当館学芸員）

10月20日（日）特別展開催記念茶会 小郡市文化協会裏千家

10月25日（金）夕べのギャラリートーク 小嶋篤（当館学芸員）

10月27日（日）アクロスミュージックキャラバンin 九州歴史資料館

11月 3日（日）記念講演会「継体天皇と筑紫君磐井」篠川賢氏（成城大学名誉教授）

11月 9日（土）九歴講座「筑紫君磐井の乱前後の勢力変遷」秦憲二（当館学芸員）

11月17日（日）文化財めぐり「やめ古墳日和」吉村靖徳（当館副館長）

11月29日（金）夕べのギャラリートーク 酒井芳司（当館学芸員）

11月30日（土）古代史研究フォーラム「“筑紫君磐井の乱”の実像に迫る」

◎企画展

○第70回企画展「遠賀川式土器と弥生文化の広がり」

会期：令和6年12月10日（火）～令和7年3月16日（日）

会場：第2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：弥生文化が日本列島各地に広まっていく様相を示すものとして、「遠賀川式土器」があり、県内のそれらの資料を紹介する展示を行った。

展示は土器のほか、弥生文化を構成する石包丁や柱状片刃石斧等の石器や紡錘車等の土製品、遺跡の写真パネル、また遠賀川式土器及び弥生文化の広がりを示すものとして、青森県の土器や石器

の写真パネルの展示も行った。

これらの展示によって、弥生文化の成立や展開の実態を紹介することができ、日本列島各地に弥生文化が広がっていった様子を多くの方々に知っていただく機会となった。

関連事業として、会期中の12月20日（金）に夕べのギャラリートーク（展示資料解説）を実施した。



企画展「遠賀川式土器と弥生文化の広がり」展示風景

○第71回「高良山の仏教美術－山麓寺院調査から見えてくる山の姿－」

会期：令和7年1月22日（水）～3月23日（日）

会場：第1展示室（近世・近代コーナー）

主催：九州歴史資料館

内容：筑後国一の宮として崇敬を集める高良大社が鎮座する高良山について、神仏分離の際に山を離れた仏教美術を紹介しながら、神仏が習合したかつての山のあり方を考える企画展。高良山麓に位置する寺院の文化財調査の成果の中から、高良山内の寺院に安置されていたことが判明する作例を紹介した。

主な展示品は、高良山の神社と神宮寺の由緒を記した「高良玉垂宮縁起」（1642年、高良大社蔵、重要文化財）や、上宮安置と推定される「板地著色高良太公図」（1627年、国分寺蔵）、上宮の傍らに存在した本地堂の「木造十一面観音立像」（室町時代、福聚寺蔵）、座主坊である御井寺蓮台院の「木造軍荼利及金剛夜叉明王像頭部」（江戸時代、御井寺蔵）、明静院本尊の「木造慈恵大師坐像」（江戸時代、国分寺蔵）、愛宕社青天寺の「愛宕山大権現像」（1656年、吉野右京作、福聚寺蔵）などである。これらを元の安置寺院別にまとめて展示することを通して、失われた山内寺院の様相を視覚的に復元することを試みた。また、元の安置場所は特定できなかったものの、「木造毘沙門天立像」（平安時代後期、国分寺蔵）や、「木造菩薩形坐像」（鎌倉時代、



企画展「高良山の仏教美術－山麓寺院調査から見えてくる山の姿－」ポスター



企画展「高良山の仏教美術－山麓寺院調査から見えてくる山の姿－」展示風景

御井寺蔵)などの古仏も紹介し、山周辺の造像環境の充実を紹介した。さらに、明治時代の寺院の記録や明細帳なども展示し、山の仏像が神仏分離の際にどのように取り扱われ、今日まで伝えられてきたのかを紹介した。

- ・展示点数 30件38点（重要文化財1件1点、県指定文化財2件3点）
- ・入館者数 10,667人
- ・図録 A4版、74頁、頒価700円
- ・関連イベント

1月26日（日）記念講演会「久留米市の文化財と高良山総合調査」穴井綾香氏（久留米市市民文化部文化財保護課）

1月31日（金）タベのギャラリートーク 國生知子（当館学芸員）

2月8日（土）九歴講座「高良山の仏教美術」國生知子（当館学芸員）

1月9日、23日、2月13日、27日、3月6日、20日（すべて木）

九歴ゼミ（全6回）「高良山の仏像探訪—山麓寺院調査の成果と展望—」國生知子（当館学芸員）

◎パネル展

県内各地の多様な文化財を紹介し、また、これまで福岡県が行ってきた調査研究の成果を公開することを目的に、館内各所で写真や図版を用いたパネル展を開催した。

2階の文化情報広場では、当館主催のパネル展を3回開催した。その内訳は、当館職員の研究成果を紹介する展示1回、名誉館長講座の内容と連動した展示1回、世界遺産を紹介する展示1回である。また、筑紫地区社会教育振興協議会文化財部会主催・当館共催で、地域の文化財を紹介する展示を1回開催した。

玄関右側の回廊では、昨年度から継続して、三沢遺跡と県内古墳を紹介するパネル展示を行った。

○パネル展「世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」

会期：令和6年7月2日（火）～9月8日（日）

会場：文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：平成29年度にユネスコ世界遺産に認定された宗像・沖ノ島と関連遺産群（宗像市・福津市）について紹介する展示。沖ノ島でおこなわれた古代祭祀の変遷や、大島や九州本土にも広がる関連遺産群の構成とその意義、現代にまで続く信仰のあり方などを、写真や図版を多く用いて解説。通常は立ち入ることのできない世界遺産の魅力と保護の取り組みについて、分かりやすく紹介した。



パネル展「世界遺産「神宿る島」
宗像・沖ノ島と関連遺産群」展示風景

○パネル展「シルクロードの文化遺産（1）—オアシスの道—」

会期：令和6年9月10日（火）～12月8日（日）

会場：文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：シルクロードはかつて、ユーラシア大陸の東西の間で人・物・文化の交流を担った交通路で

ある。この沿線地域には、多くの遺跡や遺物など、歴史的に重要な文化遺産がある。シルクロードを通った文物や文化には、九州を窓口に日本へと伝わったものもあり、これらの文化遺産は、九州や日本の歴史・文化にも関連するといえる。そしてこのシルクロードの文化遺産については、当館の西谷正名誉館長が長年研究を行い、数多くの写真も撮影している。

本展では、令和6年度～7年度の名誉館長講座のテーマに合わせ、平成28年度に開催した同名の展示を再演した。シルクロードのコースの一つ、オアシスの道に関する文化遺産をテーマとし、特に中華人民共和国新疆ウイグル自治区のトゥルファン付近の文化遺産を主として取り上げた。かつての城跡や壁画を有する石窟群、古墳群の姿などの写真を展示し、加えて現代にこの地域に生きる人々の姿も紹介している。なお、パネル展「シルクロードの文化遺産」シリーズは、7年度に「草原の道」、8年度に「海の道」の開催も予定している。



パネル展「シルクロードの文化遺産（１）
—オアシスの道—」展示風景

○パネル展「古代日本の『西の都』・大宰府」

会期：令和6年12月10日（火）～令和7年3月9日（日）

会場：文化情報広場

主催：「西の都」日本遺産活性化協議会

内容：古代の「西の都」・大宰府は、政治・軍事・宗教・教育などに関わる様々な施設が置かれ、海外や国内各地ともつながる交流都市であり、当時を体感できる数多くの文化財を今に伝えている。これら大宰府及び周辺にある構成文化財を一つのストーリーとしてまとめ、平成27年度に「古代日本の『西の都』～東アジアとの交流拠点～」として日本遺産に登録された。

今回のパネル展は、「西の都」・大宰府に関するストーリーを中心に30の構成文化財について写真や地図を用いて紹介するものであり、開催期間中には本展示に関連したトークイベントも実施して、多くの来館者にご観覧いただいた。



パネル展「古代日本の『西の都』・大宰府」展示風景

○パネル展「筑紫地区文化財写真展 推しの文化財（コ）～大集合！若手職員オススメの文化財～」

会期：令和7年3月11日（火）～3月23日（日）

会場：文化情報広場

主催：筑紫地区社会教育振興協議会文化財部会

共催：九州歴史資料館・九州国立博物館

内容：筑紫地区社会教育振興協議会文化財部会が主催し、当館などが共催する展示。筑紫地区（筑紫野市・太宰府市・大野城市・春日市・那珂川市）の文化財担当者が自治体の枠を超えて文化財を紹介する取り組みで、各自治体と九州国立博物館、当館で巡回展示する。6年度のテーマは、若手の職員がオススメする地域の文化財。有形文化財や史跡、天然記念物などの幅広い分野の文化財について、思い入れのこもったフレッシュな言葉で紹介した。

○パネル展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査最前線2024－2025 科学で探った10年をふりかえる」

会期：令和7年3月25日（火）～6月29日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：文化情報広場

内容：平成25年3月、古賀市に所在する船原古墳に隣接して遺物埋納坑（1号土坑）が発見された。これは、土坑に古墳副葬品が埋納されるというわが国初の発見であった。その副葬品も、わが国初の発見となった、金銅製歩揺付飾金具（雲珠）、ガラス装飾付辻金具・雲珠、国内3例目、九州初の発見である馬冑など貴重な発見が相次いだ。発見後、当館は古賀市教育委員会との共同研究として、遺物の科学的調査や保存処理を進め、それを毎年、公開してきた。

本展は、この企画が10回目を迎えるにあたり、これまで行ってきた科学的調査の主だった成果をレビューし、科学で探った船原古墳の世界をふりかえった。



パネル展「筑紫地区文化財写真展 推しの文化財（コ）～大集合！若手職員オススメの文化財～」展示風景



パネル展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2024－2025」展示風景

(3) 資料利用

本館では、他機関の展示のため所蔵資料の貸出を行っている。考古資料のほか、文書資料、写真資料も貸出しており、6年度においては以下のとおり利用があった。また、他機関や学生による資料調査などの一時利用を受け入れており、平日以外にも、日曜日の閲覧希望も状況に応じて対応している。6年度の実績は考古資料貸出44件、同一時利用30件、写真資料貸出・掲載許可96件、文書・典籍資料貸出5件、同一時利用38件である。

考古資料の短期貸出一覧

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	大野城心のふるさと館	4	大宰府政庁周辺官衙跡出土風字瓦 他	特別展「土器土器！すてきな須恵器ワンダーランド」	R6. 9. 中旬～12. 中旬
2	吉野ヶ里歴史公園	36	広田遺跡出土土器・石製品 他	特別企画展「『よみがえる邪馬台国』『倭人伝のクニを探るVI』」	R6. 9. 月上旬～11. 下旬
3	大分県立埋蔵文化財センター	1	海津横馬場遺跡出土巴形銅器	企画展「デジタル考古学Ⅰ 雄城台遺跡とその時代」	R6. 9. 中旬～12. 下旬
4	久留米市教育委員会	19	鷹取五反田遺跡出土土器 他	くるめの考古資料展「石室を彩る原始絵画」	R6. 9. 中旬～11. 下旬
5	小郡市教育委員会	2	西蒲池池淵遺跡出土ト骨	特別展「マツリ～小郡のまじないに使われた弥生時代の遺物たち～」	R6. 9. 月上旬～12. 下旬
6	八女市教育委員会	17	石櫃山古墳出土埴輪・石製品	企画展「石人山古墳から岩戸山古墳へー久留米市の古墳群ー」	R6. 9. 中旬～12. 中旬
7	糸島市地域振興部文化課	17	西新町遺跡出土石製品 他	研究のため	R6. 11. 中旬～R7. 1. 下旬
8	文化庁	59	西新町遺跡出土土器 他	指定調査および展覧会出品	R7. 1. 中旬～5. 下旬
9	大野城心のふるさと館	4	大宰府条坊跡出土鉄製品 他	特別展「映画『もののけ姫』から学ぶ考古学」	R7. 3. 下旬～7. 月上旬

考古資料の長期貸出一覧（1）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	京都国立博物館	4	永岡遺跡出土甕棺 他	展示等利活用のため	4. 7. 1～7. 6. 30
2	京都国立博物館	1	筑後石人山石棺石膏製模型	展示等利活用のため	4. 7. 1～7. 6. 30
3	大韓民国国立羅州文化財研究所	1	道場山遺跡甕棺	常設展示のため	5. 2. 1～8. 1. 31
4	九州国立博物館	200件	門田遺跡出土細石刃 他	文化交流展示室展示等のため	7. 4. 1～8. 3. 31
5	国立歴史民俗博物館	9	広田遺跡出土浅鉢・深鉢 他	総合展示のため	7. 4. 1～8. 3. 31

考古資料の長期貸出一覧（２）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
6	岩手県立博物館	4	永岡遺跡出土弥生土器、甕棺	展示及び調査研究のため	7.4.1～8.3.31
7	甘木歴史資料館	51件	楠田遺跡出土縄文土器他	常設展示のため	7.4.1～8.3.31
8	求菩提資料館	10	銅製経筒・草花双鳥鏡・蓬莱鏡	常設展示のため	7.4.1～8.3.31
9	老司公民館	6	大宰府史跡出土瓦	展示ケース展示のため	7.4.1～8.3.31
10	古都大宰府保存協会	33	大宰府史跡出土資料	常設展示のため	7.4.1～8.3.31
11	大野城市牛頸ダム記念館	112	牛頸須恵器窯跡出土須恵器、写真パネル	牛頸ダム記念館展示のため	7.4.1～8.3.31
12	筑紫野市歴史博物館	108	剣塚遺跡出土資料 他	筑紫野市歴史博物館展示のため	7.4.1～8.3.31
13	直方市教育委員会	72	内ヶ磯窯跡出土陶器	直方谷尾美術館展示のため	7.4.1～8.3.31
14	古賀市教育委員会	21	水上A遺跡出土縄文土器 他	古賀市歴史資料館展示のため	7.4.1～8.3.31
15	春日市教育委員会	5	伯玄社遺跡出土磨製石鏃 他	奴国の丘歴史資料館展示のため	7.4.1～8.3.31
16	伊都国歴史博物館	246	三雲南小路遺跡出土資料 他	常設展示のため	7.4.1～8.3.31
17	八女市教育委員会	1	真浄寺古墳出土短甲2号	岩戸山歴史資料館展示のため	7.4.1～8.3.31
18	小郡市埋蔵文化財調査センター	一式	津古内畑遺跡出土資料、記録	報告書作成のため	7.4.1～8.3.31
19	筑前町教育委員会	178箱	依井遺跡出土資料 他	筑前町歴史民俗資料館等で展示、報告書作成のため	7.4.1～8.3.31
20	粕屋町歴史資料館	76	駕与丁池遺出土資料 他	粕屋町歴史資料館展示のため	7.4.1～8.3.31
21	香春町教育委員会	84	陣山屋敷遺跡出土資料 他	香春町歴史資料館展示のため	7.4.1～8.3.31
22	みやこ町教育委員会	23	徳永川ノ上遺跡出土資料 他	みやこ町歴史民俗博物館展示のため	7.4.1～8.3.31
23	鞍手町教育委員会	10件	銀冠塚古墳出土資料 他	鞍手町歴史民俗資料館展示のため	7.4.1～8.3.31

考古資料の長期貸出一覧（３）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
24	篠栗町教育委員会	117	高田遺跡出土資料 他	篠栗町中央公民館展示のため	7. 4. 1～8. 3. 31
25	須恵町教育委員会	419	乙植木古墳群出土資料	須恵町立歴史民俗資料館展示のため	7. 4. 1～8. 3. 31
26	福津市教育委員会	一括	津屋崎古墳群出土資料等	福津市歴史資料館展示のため	7. 4. 1～8. 3. 31
27	筑波大学	一括	立明寺古墳群出土資料	大学における教育等に活用するため	7. 4. 1～8. 3. 31
28	太宰府館	9	大宰府史跡出土瓦	太宰府館展示のため	7. 4. 1～8. 3. 31
29	宮城県多賀城跡調査研究所	25	大宰府政庁跡出土磁器	磁器の産地・年代同定する参考資料にするため	7. 4. 1～8. 3. 31
30	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2	永岡遺跡出土甕棺	常設展示のため	6. 9. 1～7. 8. 31
31	栃木県立博物館	2	門田遺跡出土甕棺	常設展示のため	6. 10. 1～7. 9. 30
32	田川市教育委員会	1	伝田川市糴上ノ原遺跡細形銅剣	常設展示のため	7. 4. 1～8. 3. 31
33	粕屋総合庁舎管理事務所、福岡県土整備事務所	20	箱崎遺跡出土資料	庁舎での展示のため	7. 4. 1～8. 3. 31
34	宮若市教育委員会	17	犬鳴遺跡出土資料	宮若市文化財収集・展示・交流センター展示のため	7. 4. 1～8. 3. 31
35	那珂川市教育委員会	5	別所次郎丸遺跡出土土師器	那珂川市中央公民館内文化財展示室での展示のため	7. 4. 21～8. 3. 31

考古資料の一時利用（資料見学等）一覧（１）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	個人	4	若八幡宮古墳出土青銅鏡 他	調査研究のため	6. 4. 17
2	個人	3	花簞2号墳出土鉄器	調査研究のため	6. 5. 31
3	個人	2	柿原古墳出土鉄器	調査研究のため	6. 5. 10
4	大分県立埋蔵文化財センター	1	海津横馬場遺跡出土巴形銅器	展示のための資料調査	6. 5. 22

考古資料の一時利用（資料見学等）一覧（2）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
5	大野城心のふるさと館	5	大宰府政庁周辺官衙遺跡出土風字硯 他	展示のための資料調査	6. 5. 28
6	個人	5	川原庵山9号墳出土鉄器 他	調査研究のため	6. 7. 17
7	吉野ヶ里歴史公園	36	広田遺跡出土土器・石製品 他	展示のための資料調査	6. 7. 18・19
8	個人	1	祇園山古墳1号甕棺墓出土青銅鏡	調査研究のため	6. 7. 23
9	個人	2	深原遺跡出土石器	調査研究のため	6. 7. 21
10	個人	294	山崎遺跡出土縄文土器 他	調査研究のため	6. 7. 26・27
11	個人	10	観世音寺出土石製品	調査研究のため	6. 8. 16
12	個人	52	西新町遺跡出土石製品 およびガラス小玉	調査研究のため	6. 9. 11・12
13	伊都国歴史博物館	8	下原遺跡出土石製品 他	調査研究のため	6. 8. 5
14	個人	31	大宰府政庁周辺官衙遺跡出土土器 他	調査研究のため	6. 8. 26
15	個人	47	矢留堂ノ前遺跡出土土器・石器	調査研究のため	6. 9. 27
16	個人	137	矢留堂ノ前遺跡出土土器	調査研究のため	6. 9. 18・19
17	個人	35	中村石丸遺跡出土縄文土器 他	調査研究のため	6. 9. 11・12
18	個人	8	観世音寺出土新羅仏・土器・石器	調査研究のため	6. 10. 21
19	個人	37	観音山古墳群出土鉄釘 他	調査研究のため	6. 10. 29
20	伊都国歴史博物館	11	西新町遺跡出土石製品 他	調査研究のため	6. 10. 25
21	奈良文化財研究所	12	大宰府跡出土鬼瓦・鴟尾	調査研究のため	6. 10. 23
22	個人	1	大宰府学校院跡出土埴	調査研究のため	6. 12. 13

考古資料の一時利用（資料見学等）一覧（３）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
23	大野城心のふるさと館	6	大宰府条坊跡出土鉄製品 他	展示のための資料調査	7.1.17
24	個人	30	辻垣畠田・長通遺跡出土土器 他	調査研究のため	7.1.20・21
25	個人	一式	上町遺跡出土銅銭 他	調査研究のため	7.2.6・7
26	個人	94	石崎曲り田遺跡出土土器・土製品・石器	調査研究のため	7.3.11
27	浜松市博物館	2	日永遺跡出土広形銅矛・広形銅戈	展示のための資料調査	7.3.1
28	個人	14	大宰府史跡出土土器 他	調査研究のため	7.3.18・20・21
29	個人	16	番塚古墳出土鉄器	調査研究のため	7.3.6
30	佐世保市	一式	門田遺跡出土爪形文土器 他	展示のための資料調査	7.3.17

文書・典籍資料等の長期貸出一覧

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	利用期間
1	筑豊高等学校	223	筑豊工業高校資料	資料室における展示	7.4.1～ 8.3.31
2	福岡県青少年科学館	90	筑豊工業高校資料	常設展示	7.4.1～ 8.3.31
3	九州国立博物館	1	筑豊工業高校資料	常設展示	7.4.1～ 8.3.31
4	福岡県教育庁筑豊教育事務所	7	筑豊工業高校資料	展示のため	7.4.1～ 8.3.31
5	個人	1	金烏の御旗（複製）	展示のため	7.4.1～ 8.3.31

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）一覧（１）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	小郡市教育委員会	3	九州日報・福岡日日新聞	調査研究	6.4.3～ 6.9.26
2	筑紫女学園大学	32	福岡日日新聞	調査研究	6.4.11～ 6.11.9
3	九州大学附属図書館付設記録資料館	35	鎌田（恒）文書・永江文書・戸川（博）文書	調査研究	6.4.18～ 7.1.9

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）一覧（２）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
4	柳川古文書館	32	野田大塊文書・絵はがき	市史編纂	6. 5. 9
5	舞鶴古文書会	15	黒田家文書	調査研究	6. 5. 18～7. 3. 21
6	早稲田大学	38	中尾文書・永江文書・糟屋郡史編纂史料・羽野家文書・石橋文書・山北村庄屋文書	調査研究	6. 5. 30
7	個人	5	野田大塊文書	調査研究	6. 5. 31
8	エール（イエール）大学	4	九州日報・福陵日報・福岡日日新聞（紙焼）	調査研究	6. 6. 19
9	帝京大学文学部・東京都立大学	3	黒田家文書	調査研究	6. 6. 23
10	成蹊大学アジア太平洋研究センター	46	永江文書・野田大塊文書	調査研究	6. 6. 4～6. 6. 5
11	九州大学文学部	12	永江文書・野田大塊文書	調査研究	6. 6. 6
12	九州大学経済学府経済システム専攻	30	中尾文書・山北村庄屋文書・花瀬村庄屋文書・松村（ム）文書	調査研究	6. 6. 8～6. 11. 23
13	宮内庁書陵部編修課	92	黒田家文書	調査研究	6. 7. 14～6. 7. 15
14	個人	34	秋吉文書・後藤健治所蔵資料・福岡日日新聞	調査研究	6. 7. 24
15	個人	8	藤井（甚）文書・福岡藩関係資料	調査研究	6. 8. 4
16	個人	2	福岡藩関係資料	調査研究	6. 8. 12
17	東京工業大学	1	筑豊工業高校資料	調査研究	6. 8. 18
18	個人	19	中尾文書・永江文書・地図・福岡県統計書・福岡県農会報告	調査研究	6. 8. 31
19	筑紫女学園大学	3	労働組合・民憲新聞・大衆事報・日本労農新聞・日本大衆新聞・民衆新聞・工場と鉱山 労働大衆	調査研究	6. 9. 4～7. 1. 11
20	甲南大学経済学部	2	永江文書	調査研究	6. 9. 6
21	個人	3	絵はがき	調査研究	6. 9. 16
22	国土地図株式会社	1	地図	調査研究	6. 10. 1

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）一覧（３）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
23	九州産業大学商学部	21	永江文書・熊谷文書・門司鉄道管理局所蔵資料	調査研究	6. 10. 16～7. 2. 1
24	京都府立大学	3	黒田家文書	調査研究	6. 10. 23
25	九州大学大学院	41	戸川（博）文書	調査研究	6. 10. 26
26	個人	2	糟屋郡史編纂史料・粕屋郡史	調査研究	6. 11. 9
27	個人	7	林（美）文書・花瀬村庄屋文書	調査研究	6. 11. 21
28	個人	19	野田大塊文書	調査研究	6. 12. 21
29	公益財団法人福岡国際育英会	8	永江文書	調査研究	6. 12. 22
30	東京都埋蔵文化財センター	6	松村（ム）文書	調査研究	7. 2. 14
31	立命館大学	247	永江文書・野田大塊文書	調査研究	7. 2. 14～7. 2. 18
32	個人	1	福岡藩関係資料	調査研究	7. 2. 23
33	東京海洋大学生命科学部海洋政策文化学科	6	永江文書	調査研究	7. 2. 27
34	個人	3	福岡藩関係資料	調査研究	7. 3. 11
35	高崎経済大学	1	永江文書・朽木商事	調査研究	7. 3. 12～7. 3. 13
36	九州大学大学院	27	戸川（博）文書・野田大塊文書・絵はがき	調査研究	7. 3. 19
37	福井県立歴史博物館	1	福岡藩関係資料	調査研究	7. 3. 20
38	九州大学附属図書館	22	糟屋郡史編纂史料	調査研究	7. 3. 20

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（１）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
1	日本入試センター	1	大宰府政庁模型	出版物で使用
2	個人	1	皮袋形須恵器	日本考古学会で発表
3	新修宗像市史編集委員会	2	東禅寺梵鐘他	新修宗像市史で使用
4	株式会社KADOKAWA	1	延永ヤヨミ園遺跡出土木簡	河内春人『ユーラシアの中の天平』で使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（２）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
5	新修宗像市史編集委員会	1	八乙女舞写真	『新修宗像市史 くらしと生業』で使用
6	山川出版社	1	大宰府政庁復元模型	大隅清陽著『菅原道真 ー神になった天才詩人ー』で使用
7	平戸市生月町博物館・島の館	6	太田氏古写真 生月民家	企画展「むかしのくらしー古写真と古写真に見える懐かしい道具ー」で使用
8	久留米市教育委員会	2	滑石製小持勾玉他	『小森野・篠山校区の歴史遺産マップ』で使用
9	梓書院	5	三雲南小路遺跡出土甕棺他	書籍で使用
10	飯塚市歴史資料館	1	筑豊工業高校資料	パンフレットで使用
11	個人	2	大宰府史跡出土木簡他	書籍で使用
12	戎光祥出版	5	三雲南小路遺跡出土遺物他	書籍で使用
13	西日本文化協会	2	永江文書他	『西日本文化』で使用
14	ドキュメンタリー ジャパン	2	大宰府政庁跡全景他	『英雄たちの選択』で使用
15	個人	9	野田大塊文書	土木史学会の発表で使用
16	教育出版	1	大宰府政庁復元模型	デジタル教科書で使用
17	太宰府市文化ふれあい館	2	大宰府史跡航空写真	「まるごと太宰府歴史展2024」
18	宮城テレビ	1	大宰府史跡空撮動画	テレビ番組内で使用
19	徳之島町教育委員会	2	大宰府史跡出土木簡	書籍で使用
20	大野城心のふるさと館	3	風字硯他	展示で使用
21	鞍手町教育委員会	2	筑豊工業高校資料	展示で使用
22	岩波書店	2	延永ヤヨミ園遺跡出土墨書土器他	書籍で使用
23	四王寺山勉強会	2	四王寺山経塚群出土経筒	記念誌で使用
24	雄山閣	2	内ヶ磯窯跡全景他	『季刊考古学別冊』で使用
25	吉野ヶ里公園管理センター	1	三雲遺跡出土遺物	展示で使用
26	個人	1	内ヶ磯窯跡出土遺物	陶磁器学会で使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（3）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
27	雄山閣	1	内ヶ磯窯跡出土遺物	書籍で使用
28	新泉社	9	三雲南小路遺跡出土品他	書籍で使用
29	たつの市教育委員会	1	川原庵山8号墳出土品	解説シートで使用
30	吉川弘文館	1	大宰府政庁模型	書籍で使用
31	株式会社グレイル	1	南小路遺跡出土遺物	書籍で使用
32	四王寺山勉強会	1	大宰府羅城の復元図	記念誌で使用
33	吉川弘文館	3	国玉神社経筒	書籍で使用
34	個人	1	大野城跡全景	発表で使用
35	久留米市	7	鷹取五反田遺跡他	展示で使用
36	鞍手町教育委員会	1	筑豊鉦山学校	展示で使用
37	チューエツ	1	水城と大野城	印刷物で使用
38	太宰府市	2	観世音寺出土墨書土器他	展示で使用
39	西日本文化協会	3	博多太宰府図屏風他	「西日本文化」第512号で使用
40	西日本文化協会	1	博多駅絵葉書	「西日本文化」第512号で使用
41	平田家住宅歴史研究会	2	野田大塊文書	印刷物で使用
42	雄山閣	5	宮原坑跡他	『季刊考古学別冊46』で使用
43	伊都国歴史博物館	1	三雲遺跡出土遺物	展示で使用
44	学び舎	8	水城と大野城他	印刷物で使用
45	田川市石炭・歴史博物館	1	目尾炭坑	企画展で使用
46	日本入試センター	1	大宰府政庁模型	出版物で使用
47	FBS	3	王塚古墳	「めんたいワイド」で使用
48	九州テレ・コミュニケーションズ	1	大宰府史跡出土木簡	番組で使用
49	直方市	1	筑豊工業高校資料	広報誌で使用
50	子どもの未来社	1	大宰府政庁復元模型	書籍で使用
51	島根県教育委員会	1	岩戸山古墳出土埴輪	シンポジウムで使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（４）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
52	宮崎県立図書館	2	辞世の偈他	ホームページ上で使用
53	個人	1	博釜連絡船 朝博丸	論文で使用
54	山鹿市文化財保護協会	2	水城跡	会誌で使用
55	北九州市	1	香月村寿命唐戸通舟景	『グラマップ北九州2025』
56	佐賀県立名護屋城博物館	3	大宰府政庁模型他	展示で使用
57	アマゾテルナ	1	大野城跡	番組で使用
58	吉川弘文館	1	大野城跡他	書籍で使用
59	オフィス・ゆう	1	百間石垣	書籍で使用
60	那珂川市教育委員会	1	大宰府政庁復元模型	『元寇750年記念誌』で使用
61	たつの市教育委員会	1	ハサコの宮2号墳出土遺物	展示で使用
62	西日本新聞社	2	観音山古墳群	記事で使用
63	開隆堂出版	2	仁右衛門畑遺跡出土土器	書籍で使用
64	東京書籍	1	王塚古墳	デジタル教科書で使用
65	西日本文化協会	3	朽木商事資料	『西日本文化』第513号で使用
66	甘木歴史資料館	1	英彦山大権現松会之図	企画展で使用
67	直方市石炭記念館	7	筑豊工業高校資料	展示・パンフレットで使用
68	明知大学校	1	竹原古墳	書籍で使用
69	共同通信社	2	観音山古墳群	記事で使用
70	古都大宰府保存協会	3	大宰府政庁跡全景他	記念誌で使用
71	山川出版社	1	大宰府跡出土木簡	教科書で使用
72	株式会社イビソク	1	黒田藩江戸屋敷図他	報告書で使用
73	古都大宰府保存協会	1	齋藤梅圃絵画	『都府楼』で使用
74	エディキューブ	1	大野城跡	『歴史人』で使用
75	ひみつきち	14	大宰府跡他	アプリで使用
76	株式会社かみゆ	1	水城大野城航空写真	書籍で使用
77	太宰府市	4	太宰府口城門他	企画展で使用
78	個人	3	吉塚本町遺跡出土遺物他	JミルクHPで使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（５）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
79	島根県教育委員会	10	筑紫一族史使用画像	ホームページで使用
80	大野城心のふるさと館	4	西蒲池池淵遺跡出土ト骨他	展示で使用
81	汲古書院	1	恵光院十一面観音菩薩坐像	書籍で使用
82	岩戸山歴史文化交流館	4	谷川寺仏像	展示で使用
83	個人	2	大宰府跡出土石帯	論文で使用
84	西日本文化協会	2	永江文書	『西日本文化』第514号で使用
85	九州国立博物館	1	日永遺跡出土銅戈	展示で使用
86	九州国立博物館振興財団	4	大宰府跡調査風景他	展示で使用
87	飯塚市歴史資料館	1	鈴ヶ山2号墳出土遺物	展示で使用
88	飯塚市歴史資料館	1	長畑遺跡遠景	報告書で使用
89	大野城心のふるさと館	2	水城跡	解説パネルで使用
90	筑摩書房	1	西新町遺跡出土土器	書籍で使用
91	塙書房	1	大宰府跡出土木簡	書籍で使用
92	太宰府市	2	博多太宰府図屏風	書籍で使用
93	個人	2	林（美）文書他	科研費成果報告書で使用
94	読売新聞	3	西新町遺跡出土遺物	展示で使用
95	梓書院	5	大宰府跡出土木簡他	書籍で使用
96	福岡市美術館	2	持国天立像他	展示で使用

（４）学習支援・博学連携

◎学習支援活動

○来館学習

6年度の来館学習では、小グループに分かれて職員が引率する館内ツアー形式での学習プログラムを実施した。またエントランスに設置された大型サイネージを活用し、来館学習の際は最初にスライドを使ったオリエンテーションを行った。オリエンテーションでは、集石や経筒の画像を見せて、何に使われたのか子どもたちに予想させたり、文化財の保存・継承の意味を考えさせるめあてを立てたりするなど、学習の意欲を引き出す活動を取り入れた。そうすることで、子どもたちは学習の見通しをもち、学習意欲を高めることができた。それに加えて、「博物館歴史体感ツアー」というプログラム名をつけることで、学習への参加意欲をさらに高めることができた。



来館学習の様子

第1展示室では、自由見学を中心とし、子どもたちが個々に「推し」（お気に入り）をひとつ見つけるという課題を設定して学習活動を実施した。そのような活動を通して、児童・生徒達は、知識だけではなく、感性で文化財と出会うことができた。

第4展示室の遺構展示では、当時の人々の様子を思い浮かべられるよう解説をした。また、表面の触り心地や重さを感じることができるよう実物の土器や石器のハンズオン体験や銅剣・銅矛のレプリカを持ち上げる体験を行った。さらに中庭回廊では、科学を駆使して遺物を分析し、丁寧に修復、整理し、記録する作業についての説明を行った。子どもたちは、興味深そうに見聞きしていた。整理作業室や新収蔵庫、特別収蔵庫の見学を行う「バックヤードツアー」では、児童・生徒はもちろん、引率の先生方にも大変好評であった。今後も当館の埋蔵文化財センターとしての機能も来館学習を通して伝えていきたいと考えている。

学校団体の来館者総数は、以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数（名）
4月 6日（土）	SOALA小郡校	20
6月 5日（水）	のぞみが丘小学校	72
6月 7日（金）	蜷城（ひなしろ）小学校	11
6月 8日（土）	児童発達支援・放課後等デイサービスMORE筒井校	14
6月13日（木）	本郷小学校	51
6月14日（金）	篠栗小学校	82
6月15日（土）	SOALA宇美校	17
6月21日（金）	羽犬塚小学校	135
6月22日（土）	放課後等デイサービス ピース	34
6月28日（金）	両開小学校	30
7月10日（水）	太宰府特別支援学校（高等部）	10
7月11日（木）	三国小学校	183
7月12日（金）	東野小学校	57
7月25日（木）	筑紫コミュニティセンター子供教室	21
8月 6日（火）	チャイルドハート上津クオーレ チャオ	18

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (名)
8月23日 (金)	ウィズ・ユー鳥栖	15
9月28日 (土)	チャイルドハート久留米シエスタ	11
10月18日 (金)	のぞみが丘小学校	93
10月31日 (木)	西都小学校	126
11月12日 (火)	筑紫小学校	21
11月13日 (水)	筑紫小学校	26
11月14日 (木)	筑紫小学校	23
11月15日 (金)	筑紫小学校	25
11月21日 (木) 22日 (金)	NILS 小郡校	132
12月 5日 (木)	味坂保育園	30
12月14日 (土)	発達こどもアカデミー筑紫神社前校	18
2月13日 (木) 14日 (金)	NILS 小郡校	140
2月28日 (金)	久留米学習支援センター	30
2月28日 (金)	西牟田小学校	38
3月 6日 (木)	長峰小学校	63
3月 8日 (土)	放課後デイサービス プラムチャイルド	12
	総数	1,558

○スクールミュージアム事業

スクールミュージアム事業は、福岡県内の公立小学校、中学校、高等学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校を対象として、一般財団法人福岡県教職員互助会、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び当館が合同で実施している。児童・生徒の鑑賞活動や科学体験活動、歴史・考古資料見学・考古学体験活動にかかる合同事業を行うことにより、情操教育、美術教育、科学教育、歴史教育の活性化及び地域文化の振興発展に寄与することを目的としている。



スクールミュージアムの様子

内容は館内の見学に加えてVRでの古墳内部の見学体験や実物の遺物に触れるハンズオン体験を実施している。6年度の実施校と来館者数は以下の通りである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (名)
5月29日 (水)	筑後市立水洗小学校 (6年生)	33
5月30日 (木)	久留米市立南薫小学校 (6年生)	88
6月 7日 (金)	久留米市立山本小学校 (6年生)	37
7月 2日 (火)	筑紫野市立二日市小学校 (6年生)	140
7月 4日 (木)	岡垣町立戸切小学校 (6年生)	13
10月23日 (水)	みやこ町立犀川中学校 (6年生)	33
11月 1日 (金)	福岡県立大川樟風高等学校定時制	34
	総数	378

○中学校職場体験

例年、職場体験では、館内の見学、土器の展開、拓本、図書整理作業など、博物館ならではの様々な業務を体験してもらっている。これらの体験を通して多くの人たちの多様な仕事によって館全体の事業が成り立っていることや、共に働く大切さなどに気づかせ、日常生活における自分の生き方や在り方を考えさせることを目指している。中学生が博物館に行く機会がほとんどないという状況を鑑み、当館の学芸員による展示解説も取り入れている。6年度の参加学校・人数は以下の通りである。



職場体験の様子

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (名)
5月28日 (火) ～29日 (水)	小郡市立大原中学校 (2年生)	10
7月 2日 (火)	筑紫野市立天拝中学校 (2年生)	3
7月 3日 (水) ～ 4日 (木)	筑紫野市立筑紫野中学校 (2年生)	5
9月 3日 (火) ～ 4日 (水)	小郡市立小郡中学校 (2年生)	4
1月22日 (水) ～23日 (木)	大野城市大野中学校	3
1月30日 (木) ～31日 (金)	筑紫野市立筑紫野南中学校	3
2月19日 (水) ～20日 (木)	春日市春日北中学校	7
総数		35

○高校生インターンシップ

高校生インターンシップでは、学芸員や教育普及担当職員の職業体験の機会の提供し、勤労観・職業観を養うとともに職業選択能力伸長の支援を行っている。6年度は高校教育課から委託を受けて行う「福岡県教育庁等高校生インターンシップ」を1回、小郡市の県立三井高等学校が独自で実施するインターンシップを1回実施した。研修内容は学芸員業務体験、文化財整理作業体験、広報普及業務体験等である。太宰府特別支援学校は、分身ロボット「OriHime」を活用して来館の方へ案内を行うテレワーク実習を行った。6年度の研修の参加学校・人数は以下の通りである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (名)
7月17日 (水) ～19日 (金)	福岡県教育庁等高校生インターンシップ	10
10月 2日 (水) ～ 4日 (金)	福岡県立三井高等学校 (2年生)	7
1月21日 (火)、28日 (火)	太宰府特別支援学校高等部 (2～3年)	2
総数		19



高校生インターンシップの様子(左)



テレワーク実習の様子 (右)

○出前授業

出前授業では、学芸員による講義・職業講和、VR出前授業、ハンズオン体験を実施した。VR出前授業では古墳内部に入って自分で歩いて見学する体験や仏像の内部の構造を見ることができるVR体験と同時に、実物の遺物等に触れるハンズオン体験も一緒に行うことで、さらに出前授業の内容の充実度が高まり好評をいただいている。また、STEAM教育に沿ってVRを使った授業も行い、子どもたちの問う力を育む学習も充実させている。今後も「見方・考え方」「問いと思考」を働かせた学習プログラムの改善に努めていきたい。6年度の参加学校・人数は以下の通りである。



出前授業の様子

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数（名）
6月19日（水）	嘉麻市立嘉穂小学校6年生 VR、ハンズオン	50
6月20日（木）	古賀市立青柳小学校6年生 VR、古賀市と共同実施	45
6月25日（火）	筑紫野市立吉木小学校6年生 VR、ハンズオン	48
6月26日（水）	大刀洗町立本郷小学校6年生 VR、ハンズオン	48
7月16日（火）	篠栗町立篠栗小学校 VR、ハンズオン	79
9月11日（水）	春日市立春日西中学校 VR	23
9月12日（木）	筑紫野市立吉木小学校特支 VR	20
9月18日（水）	小郡市立三国小学校歴史クラブ VR	30
10月 2日（水）	古賀市立小野小学校4年生 VR、古賀市と共同実施	62
10月 2日（水）	古賀市立小野小学校6年生 VR、古賀市と共同実施	75
10月 9日（水）	小郡市立三国中学校2年生 進路学習	40
10月10日（木）	春日市立春日中学校2・3年生 VR	16
11月26日（火）	太宰府市立太宰府東中学校 修学旅行	120
12月 3日（火）	門司学園中学校 VR	70
12月 4日（水）	福岡県立香住丘高等学校 日本史講義	60
12月11日（水）	水巻町立水巻南中学校 VR、ハンズオン	108
1月24日（金）	県立福岡特別支援学校 VR、ハンズオン	29
2月17日（月）	大刀洗町立本郷小学校 教科・修学旅行	48
3月 4日（火）	小郡市立三国小学校 VR	29
3月 5日（水）	小郡市立三国小学校 VR	32
3月11日（火）	志免町立志免東中学校 進路学習	150
3月12日（水）	稲築西義務教育学校 VR、ハンズオン	80
3月17日（月）	小郡市立味坂小学校 VR	11
総数		1, 273

○オンライン遠隔授業

学校と九州歴史資料館とをオンラインで繋ぎ、展示室の案内や子供たちからの質問に学芸員が答えるなどオンライン遠隔授業を実施している。学芸員の分かりやすい解説に、子どもたちは興味関心が刺激され知的好奇心を高めることができた。歴史の学びを深めるだけではなく、普段なかなか出会えない学芸員という専門家との繋がりは大変貴重な体験だったと考える。6年度の実施状況は以下の通りである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (名)
7月17日 (水)	大刀洗町立本郷小学校 (6年生) 社会見学	48
11月14日 (木)	春日市立春日東中学校 (1年生)	230
12月18日 (水)	福岡市立内浜小学校 (6年生) 社会見学	158
12月19日 (木)	那珂川市立那珂川南中学校 (6年生)	194
総数		630

○学生歴史クラブ

6年度より、歴史に関心を持つ地域の中・高生を集め、当館を母体とした一つの団体を構成し、月に1回程度の活動を重ね、研究活動や成果発表、ボランティア活動等の社会教育に資する取組として「学生歴史クラブ」を発足した。第1期は7月から募集、9月～10月にかけて面接を行い、中学生13名、高校生12名でスタートした。活動内容は、学芸員の仕事に密着したり発掘体験をしたりするなど体験活動を中心に行った。体験を通して「仲間との出会い」「歴史や文化財との出会い」「専門家との出会い」を楽しむことができた。第2期は2月から募集を行った。6年度の活動内容は以下の通りである。

期 日	活 動 内 容
10月27日 (日)	開講式・博物館展示物講習
11月24日 (日)	古代体験まつりでたくさんの博物館と交流しよう
12月22日 (日)	密着！学芸員の仕事を見せてもらおう
1月26日 (日)	保存修復作業体験
2月 7日 (金)	次年度の取り組み目標についての協議会 (ZOOM)
2月 9日 (日)	発掘体験 (久留米市安武町)
3月30日 (日)	最新保存科学技術の見学・閉講式



開講式の様子



発掘体験の様子

○私の成果展

私の成果展は、これまで取り組んできた「子供たちの学ぶ機会」としての当館の活用からさらに、「学びを発表する機会」を提供し、一般来館者と学校と学芸員をつなぐことで、よりよい学びの提供につなげることを目標とした成果展示である。6年度も九州国立博物館と連携し「全国高等

学校歴史学フォーラム」に参加経験のある福岡県内の高等学校に対し、その研究の成果を発表する場の提供を行った。また、子供を対象とした当館のイベント等の成果物を展示・発表する場の提供も併せて行った。

具体的には、「私の成果展」参加者が郷土や歴史に関する学習の成果をパネル展形式で発表し、当館学芸員による講評やアドバイスをあわせて展示したものである。これを通じて、学校をはじめとする各種団体の歴史や文化に対する興味や学習意欲を引き出すとともに、当館への関心を高めてもらう一助となった。



展示の様子

会期	展示内容
4月 2日（火）～ 8月12日（月）	九歴学びの成果展
8月14日（水）～10月27日（日）	青柳小学校・小野小学校杏葉工作展示、きゅうれき 絵画教室展示
11月 6日（水）～ 1月13日（月）	歴史学フォーラム2024（糸島高校歴史部、むなかた 歴史クラブ）
1月16日（木）～ 4月20日（日）	ボランティア成果展

○教員のための博物館の日2024 in 九州歴史資料館

期日：令和6年8月20日（火）

内容：学校による当館の活用促進を図るために、まずは学校の先生方に「博物館の教育資源」である「ひと・もの・こと」を知ってもらい、博物館を楽しんでもらおうと企画である。この事業は国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会との共催であり、文部科学省の後援を受けている。実施日に関しては例年先生方が参加しやすい夏季休業中に計画をしている。6年度は15名の教員の参加があった。今回は先生方にオンライン遠隔授業を体験して頂くことで、教室からでも歴史や文化財の魅力について学ぶことができることを知っていただくために、オンライン遠隔授業体験を新たに設けた。全体的に体験内容については概ね満足を頂き、授業で当館の活用を検討してくださった先生もいた。実施した内容は以下の通りである。



教員のための博物館の日の様子

<日程>

時 間	内 容	場 所
13:00～13:10	受 付	文化情報広場
13:10～13:30	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:30～14:00	オンライン遠隔授業体験「古賀市歴史資料館より中継」 （1）資料館紹介 （2）船原古墳について	研修室
14:05～15:45	①バックヤードツアー ②遺物解説と実物体験 ③VR体験 ④ギャラリートーク	第4展示室 研修室 新収蔵庫
15:50～16:20	グループ討議 閉会行事（アンケート記入）	研修室

○福岡県教育センターキャリアアップ講座

期日：令和6年10月31日（木）

福岡県教育センターでは、大学等の関係機関が実施する公開講座を、キャリアアップ講座として実施している。3年度から、福岡県教育庁文化財保護課の実施の講座を本館で行うことになった。研修は終日で、小学校の先生や中学校・高等学校の先生などを対象としている。前半は県内の文化財の価値や魅力、博物館と文化財を活用した授業づくりについての講義。後半は当館が提供している体験プログラム等を実際に体験して頂いた。研修を通して、博物館や文化財の魅力を感じたり、効果的に授業や教育活動で活用する手法や手立てを学んだりして頂いた。

実施した内容は以下の通りである。

時間	内容	研修方法
09:30～10:00	開会行事	
10:00～10:50	講話「筑紫君一族史について」 講師：酒井芳司（九州歴史資料館学芸員）	講義
11:00～11:30	オンライン遠隔授業体験「古賀市歴史資料館より中継」 （1）資料館紹介 （2）船原古墳について	講義
	昼食	
12:30～14:30	ワークショップ：文化財に触れる、体験する ①バックヤードツアー ②実物の土器の解説とハンズオン体験 ③展示室見学 ④VRによる古墳内部の見学体験	演習
15:00～15:30	意見交流・アンケート記入・事務連絡	



キャリアアップ講座の様子

このほか、教員研修の場としての活用依頼があり、来館学習の際の館内の案内や出前授業の際のメニューを体験してもらい、利用促進を図った。

期日	学校名	人数（名）
7月24日（水）	小郡市立三国小学校 若年者研修（初任者研修）	4
7月25日（木）	三井郡小学校教育研究会社会科部	15
11月20日（水）	添田町立真木小学校	10
	総数	29

（５）ボランティア

◎九歴ボランティア

移転開館時から設置している当館のボランティア（通称「九歴ボランティア」）は、３年を一期として活動している。６年度は、第５期目の２年目である。５年度に新規ボランティアを追加募集して６年度は、継続ボランティア２６名、新規ボランティア３名、計２９名で活動を開始した。

平常時は、日曜日の古代体験プログラムの実施や館主催の講演会・イベントの運営支援、来館学習や各種団体への対応補助、ボランティア主催のイベントなど、多くの場面で活躍している。古代体験プログラムについて、５年度は４年度に引き続き日曜日のみ開催としている。

○定例研修会

九歴ボランティアとしての知見・識見を高めること、ボランティア間の交流を図ることを目的として、毎月第２土曜日の午前中（１０：００～）に定例研修会を設定している。前半は、先月までの活動報告と今後の予定やイベントにおける役割分担の確認、活動日の調整である。後半は、学びある実践研修として、古代体験にかかわる内容や当館学芸員による展示解説を計画、実施した。

研修会では、２か月先まで見通しを持った情報共有を行うことによって、日々の活動に不安や齟齬が起きないように綿密な打ち合わせを行うことができています。６年度も５年度と同様に、運営を担当する指導主事が中心となり、ボランティアの自主性を尊重し、主体的な活動を促すような研修指導を行ってきた。これにより６年度もボランティアの意見を多く取り入れ、ボランティア自身を中心となって運営する研修会やイベントを実践することができた。

月	研修の内容
４月	新年度の変更点について
５月	きゅうおに展解説技能研修
６月	バックヤード・第４展解説技能研修
７月	第２展解説技能研修
８月	第１展解説技能研修
９月	綿の道具についての研修
１０月	装飾古墳についての研修
１１月	古代体験まつりに向けた着付け講習
１２月	畑じまい
１月	第２展特集展示解説技能研修
２月	第１展特集展示解説技能研修
３月	社会教育と博物館についての研修



研修の様子

○ボランティアバス研修

期 日：令和６年５月８日（木）

訪問先：福岡県八女市周辺の博物館等 参加者計２１名

内 容：今年度の特別展の舞台である福岡県八女市周辺の博物館や史跡の見学を行った。この研修は夏に行う研修であったが、熱中症などの懸念もあり、令和５年度からは春に実施している。岩戸山歴史文化交流館では、解説を聞きながら岩戸山古墳などの貴重な文化財などを見て回り、その後、ボランティアの方々と交流を実施した。ボランティア活動について意見交換や質疑応答などを通して、ボランティアとしてのスキルアップにつながるよい機会になった。午後は、童男山古墳群や上原地区



岩戸山歴史文化交流館の岩戸山古墳見学

の棚田を見学した。

◎ボランティア活動

○古代体験

6年度も、5年度同様に日曜日のみの開催とした。6年度のボランティア活動は、ボランティア一人一人の自主性と主体性をテーマに活動に取り組んでいる。6年度から古代体験に装飾古墳トートバックづくりを追加した。福岡県内の装飾古墳のスタンプをトートバックに押して、オリジナルのトートバックを作成する。この体験は、年代を問わず誰でも体験が可能であり、古代体験だけでなく、イベントなどにも今後活用していく。7年度も引き続き認知度を上げるように周知をしていきたいと考えている。古代体験全体としては5年度と比べて体験者数は増加傾向にある。これは、ボランティア研修を通して積極的に古代体験を勧めたり、また内容の改善を模索したりするボランティアが増えてきているからだといえる。今後、より多くの体験者を獲得し、また満足度の高い体験を提供していくためにも体験内容の工夫や、支援・解説の技能向上など古代体験自体の取捨選択が必要であると考えている。

古代体験の6年度の利用実績は以下のとおりである。※イベントを除く

体験内容	利用者 (名)	前年度比 (名)
土器パズル等	1106	11
古代衣装	87	9
トートバック作り	45	45
変身ミラー	899	161
拓本	165	11
銅剣・銅矛	265	61
ぎっちょう・投壺	438	234
昔の遊び	181	▲64
VR体験	531	125
鑄造体験	330	110
瓦マグネット	177	64
総数	4224	767



古代体験の様子

○ボランティアイベントの開催

3年度から特に力を入れている、九歴ボランティアが主体的に企画・実施する事業である。ボランティア自身が、1000年以上続く伝統的技法を学ぶことを通して、文化財愛護思想の普及を図るとともに、その知識・技術を地域の大人や、子供たちに伝え広めることを目的に、体験講座を設定している。6年度は5月5日（日）に「こども工作体験」、5月22日（水）に「大人組紐講座（基礎編）」、8月17日（土）に「子ども組紐講座」、9月11日（水）に「大人組紐講座（上級編）」、3月2日（日）に「折り雛づくりと組紐ストラップ」を実施した。「こども工作体験」は、こどもの日に合わせて折り紙かぶと・水鉄砲づくりを行い、66名の参加があった。「組紐づくり」については、当館ボランティアの活動にも「組紐グループ」を位置付けており、グループ内で研修を重ねることで、技術力と指導力の向上を図ってきた。令和6年度も、6年度に引き続きボランティアイベントとして開催し、家族単位での体験申し込みが多かった。今後とも、普及活動を継続するとともに、組紐とほかの体験を絡めつつ過去に体験した人々にも改めて楽しんでもらえるような工夫を図り、活動の更なる活性化と来館者増に取り組んでいきたい。全3回の取り組みでは、それぞれ17名、23名、9名の参加があった。「折り雛づくりと組紐ストラップ」は、例年ひな祭りに合わせて

開催しており、6年度は20名の参加となった。

○ボランティア自主活動「綿づくり」

3年度より綿づくりを九歴ボランティアの自主活動と位置づけ、本館の中庭に畑をつくっている。4年度より正式に九歴ボランティアの活動グループとして位置づけ、綿の育成とともに、その時々に応じたイベントを企画・実施してきた。

6年度は、これまでの活動の成果を私の成果展や自主研究交流会で発表するなど、一連の成果のまとめとしての活動を行った。年間を通してはイベントの一環として4月に綿の種をまき、日々の熱心な手入れで順調に成長し、9月には立派な綿が吹いた。成長の様子は、3年から続く本館の新しい魅力のひとつとなり、7月下旬から8月上旬にかけて咲く花も大変好評であった。

また、これまでに収穫した種は10月6日の「白・茶綿の摘み取り体験・手織りコースターづくり」の際のプレゼントや地域の施設へも譲渡され、近隣の社会教育施設や住宅地などで花咲き、綿が吹く姿も見ることができるようになってきた。種まきから芽吹き、刈り取るまでの一連の姿は館内のどこからでも目にすることができ、毎年館の風物詩として定着しつつある。



綿の摘み取り体験の様子

綿の育成に関する活動と、関連イベント

	活動内容	関連イベント
R. 6. 2月	枯れ木の撤去	
3月	天地返し・冬の寒起こし	
4月	土づくり・畝づくり・種まき	綿の種まき体験
5月	水やり・摘芽	
6月	追肥・害虫駆除・支柱立て・敷き藁	
7月	剪定・開花	
8月	結実	綿の見学・紹介（※平日古代体験）
9月	実がはじける	
10月	収穫・天日干し・綿木引き	綿の摘み取り体験（58名）
11月	休耕・畑じまい	
12月	休耕・冬の寒起こし	
R. 7. 1月	休耕	
2月	休耕	ボランティア自主研究交流会
3月	天地返し	私の成果展展示

○ボランティア自主研究交流会

自主的に歴史の研究や調査を行っているボランティア同士の意見交流を通して、見方や考え方を広げ、今後の研究意欲の向上を図ること、また交流を通して得た知識等を今後のボランティア活動を通して、県民や利用者に還元していくことを目的に年一回、ボランティア自主研究交流会を開催している。6年度は、2月18日（火）に開催した。当日は九歴ボランティア9名、外部3名。発表後の質疑応答や、グループディスカッションを行い、研究の内容を深めることができた。



自主研究交流会のポスター

（６）普及・活用事業

◎講座・講演会

○名誉館長講座

内容：西谷正名誉館長を講師とする、第４土曜日等を実施する連続講座である。通常は１年度１テーマで全１２回を行う連続講座であるが、６年度は西谷名誉館長の体調不良による５年度開催分の一部に中止回があったため、上半期は５年度に実施予定であった「筑紫・豊（前）の四つの窓」を引き続き開催した。



名誉館長講座風景

下半期には平成２８年度に実施した「シルクロードの考古学」の再演を行っている。上半期は西谷名誉館長が回復途上であったため、講座時間を半分に短縮するため当初１回分で予定していた内容を２回に分けて行い（４月・５月分は受講者も新型コロナウイルス感染拡大防止のため２分割）、下半期は本来の講座時間に復帰して通常と同一のペースで実施した。なお「シルクロードの考古学」は全１２回シリーズのため、残る６回は７年度の上半期に実施予定である。また従来の座席指定制に代えて指定席・自由席併用制を導入した。予約制の予約方法として、往復はがきに加えて電子申請も引き続き導入した。

開催日、演題、受講者数は次のとおりである。

回	開催日	演 題	受講人数 (名)
上半期：「筑紫・豊（前）の四つの窓」			
第１回	４月２７日	Ⅲ. 有明海（２）－１ いわゆる石人石馬－石製表飾 (Bグループ対象)	74
第２回	５月２５日	Ⅲ. 有明海（２）－２ いわゆる石人石馬－石製表飾 (Bグループ対象)	68
第３回	６月２２日	(３)－１ 筑後の装飾古墳	107
第４回	７月２７日	(３)－２ 筑後の装飾古墳	106
第５回	８月３１日	(４)－１ 大宰府の守り－山城と羅城	136
第６回	９月２８日	(４)－２ 大宰府の守り－山城と羅城	94
下半期：「シルクロードの考古学Ⅰ. オアシスの道」			
第１回	１０月２６日	Ⅰ. オアシスの道(１) ティリア・テペの遺宝	122
第２回	１１月２３日	(２) ガンダーラ文化と北東アジア	110
第３回	１２月２１日	(３) 西域における漢の文化	107
第４回	１月２５日	(４) 西域における唐の文化	109
第５回	２月２２日	(５) 敦煌の遺跡群	117
第６回	３月２２日	(６) 長城地帯の遺跡群	110
総数			1,260

○九歴講座

内容：主に毎月第2土曜日に当館学芸員や福岡県職員の他、市町村教育委員会等の外部講師を招いて実施する講座である。6年度は全12回を予定し、全ての回を予定通り実施、延べ1,704名の方が受講した。6年度は全12回を3つに分け、それぞれ統一テーマを設定して開催した。また5年度に引き続き予約席（指定席）と当日席（自由席）の併用制を導入し、予約席100名、当日席60名を定員とした。予約制の予約方法として、往復はがきに加えて電子申請も引き続き導入した。



九歴講座の様子

開演日、演題、講師、受講者数は次のとおりである。

回	開催日	演題	講師（所属）	受講人数 （名）
テーマ「福岡県の通史」（第1～4回）				
第1回	4月13日	古代大宰府の展開と変容	酒井芳司（九州歴史資料館）	145
第2回	5月11日	中世大宰府と少弐氏	野木雄大（福岡県文化財保護課）	144
第3回	6月 8日	黒田長政の筑前入国と福岡藩	高山英朗（福岡市博物館）	129
第4回	7月13日	福岡県の鉄道史	渡部邦昭（九州歴史資料館）	142
テーマ「筑紫君磐井の乱の実像に迫る」（第5～8回）				
第5回	8月10日	北部九州の対外交流 ～筑紫国前史～	坂元 雄紀（九州歴史資料館）	175
第6回	9月14日	磐井誕生前夜 ～石人山古墳を中心に～	森井 啓次（九州歴史資料館）	184
第7回	10月12日	筑紫君磐井と岩戸山古墳	吉田 東明（九州歴史資料館）	219
第8回	11月 9日	考古資料に見る筑紫君の盛衰	秦 憲二（九州歴史資料館）	176
テーマ「最新の研究成果」（第9～12回）				
第9回	12月14日	福岡藩御抱え絵師・尾形家に みる狩野派の地方展開	日野 綾子（福岡県文化財保護課）	61
第10回	1月11日	福岡県の近世窯業関係遺跡	坂本 真一（九州歴史資料館）	50
第11回	2月 8日	高良山の仏教美術	國生 知子（九州歴史資料館）	129
第12回	3月 8日	九州の古墳のよもやま話	吉村 靖徳（九州歴史資料館）	150
総数				1,704

○九歴ゼミ

内容：第2・第4水曜日の夜18：30～20：00（18：00受付開始）に実施する、当館の学芸員を講師とした連続講座である。7～9月、10～12月、1～3月の年間3期、各期6回ずつ開講するもので、6年度は全ての回を予定通り開催した。引き続き事前予約制・座席指定制を導入している。申

申し込み方法として、往復はがき・電子申請を導入している。

開催期間、演題、講師、各期延べ受講者数は次のとおりである。

期	開催期間	演題	講師	延べ受講 人数（名）
第1期	7月11日～ 9月26日	万葉集を読む ～大宰府の歴史と万葉筑紫歌壇～	松川 博一	356
第2期	10月17日～ 12月19日	大宰府・太宰府天満宮史料を読む ～大宰府の歴史編～	酒井 芳司	281
第3期	1月 9日～ 3月20日	高良山の仏像探訪 ～山麓寺院調査の成果と展望～	國生 知子	242
総数				879

○記念講演会

内容：展示の開催を記念して講演会を実施した。6年度は以下の2回を開催している。九歴講座と同様、予約席（指定席）と当日席（自由席）の併用制を導入し、予約席の予約方法にも、往復はがきに加えて電子申請も導入している。

開催日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。

開催日	演題	講師	受講者数 （名）
11月3日 （日・祝）	特別展記念講演会 「継体天皇と筑紫君磐井」	篠川 賢（成城大学名誉教授）	255
1月26日 （日）	企画展記念講演会 「久留米市の文化財と 高良山総合調査」	穴井綾香（久留米市市民文化 部文化財保護課）	115
総数			370



特別展開催記念講演会「継体天皇と筑紫君磐井」の様子

○タペのギャラリートーク

内容：当館では、他の観覧者の鑑賞の妨げにならないよう、第1展示室での展示解説を差し控え、その代わりに解説シートを無料で配布している。平成24年度からは、学芸員が担当した展示物について解説を行うギャラリートークを実施した。平成28年度までは、一旦閉館したのちに、18：30より再度開館、19：00より20：00までとしていたが、より参加者の層と利便性を再考し、平成29年度から毎月最終金曜日の閉館



ギャラリートークの様子

直後である16:30からの実施とした。6年度は定員を設定せず、事前予約も不要としている。

開催日、内容、講師、受講者数は次のとおりである。なお下記の他に、常設展開催時の第1・3土曜日に、ミュージアムトークも別途開催している。また各種イベントに合わせ、ギャラリートークが開催されたこともある。

回	開催日	内容	講師	受講者数 (名)
第1回	7月26日	特集展示「やきもの・はじめの一步3」	遠藤啓介	9
第2回	8月30日	特集展示「福岡鉄道遺産ものがたり10～西日本鉄道編～」	渡部邦昭	31
第3回	10月25日	特別展「筑紫君一族史（第1回）」	小嶋 篤	22
第4回	11月29日	特別展「筑紫君一族史（第2回）」	酒井芳司	21
第5回	12月20日	企画展「遠賀川式土器と弥生文化の広がり」	宮地聡一郎	10
第6回	1月31日	企画展「高良山の仏教美術」	國生知子	30
参加者数総計				123

○出前講座

内容：内容：当館職員が外部団体等の依頼を受けて館外の会場で実施する講座で、6年度は県民および県内外の文化財関係者等の要請を受けて計58回の講座に赴いた。6年度の実績は以下のとおりである。なお参加者数の一部にはオンラインによる受講者を含んでいる。

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数 (名)
1	4月27日 (土)	くまもと文学・歴史館	木簡が語る大宰府と西海道	熊本県立図書館	松川博一	77
2	6月20日 (金)	文化財保存修復学会	博物館DXがみんなを結ぶ	帝京大学八王子キャンパス	加藤和歳	160
3	7月16日 (火)	のぞみがおか生楽館	おもしろ鉄道のおはなし	のぞみがおか生楽館	渡部邦昭	15
4	7月20日 (土)	宗像市教育委員会	万葉集と海人からみる宗像について	海の道むなかた館	松川博一	62
5	7月24日 (水)	博多地区税関事務連絡協議会	筑紫君磐井とその時代	オリエンタルホテル福岡	小嶋 篤	50
6	7月30日 (火)	サンカルナ二日市	大宰府史跡等について	サンカルナ二日市	宮地聡一郎	43
7	8月27日 (火)	上津校区まちづくり振興会郷土	筑紫君磐井とその時代	コミュニティセンター上津校区会館	吉田東明	18
8	9月7日 (土)	太宰府天満宮社家会	大宰府での菅原道真公	太宰府天満宮文化研究所	松川博一	30
9	9月10日 (火)	大刀洗町公民館講座郷土史学級	筑紫君磐井とその時代	大刀洗町中央公民館	吉村靖徳	40
10	9月12日 (木)	那珂川市教育委員会	国指定史跡安德台遺跡の今後を考える	九州歴史資料館	入佐友一郎	14

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数 (名)
11	9月13日 (金)	飯原公民館高齢者教室	大宰府史跡等について	飯原公民館	坂元 雄紀	30
12	9月17日 (火)	貴賓館ボランティア	筑紫君磐井とその時代	福岡市中央市民センター	吉田 東明	12
13	9月18日 (水)	小郡市	小郡市域の鉄道計画	三国校区コミュニティセンター	渡部 邦昭	11
14	9月20日 (金)	東峰村	小石原焼の歴史	小石原焼伝統産業会館	遠藤 啓介	30
15	9月20日 (金)	図書館総合展運営委員会	筑豊の鉄道史	リブリオ行橋	渡部 邦昭	40
16	9月21日 (土)	奈良文化財研究所	屯倉制と評の成立	福岡市博物館	酒井 芳司	90
17	9月22日 (日)	奈良文化財研究所	律令国家成立期の地域動態	福岡市博物館	酒井 芳司	90
18	9月23日 (月・祝)	公立学校共済組合	福岡県の私鉄について	福岡リーセントホテル	渡部 邦昭	40
19	9月26日 (木)	くすのき会	福岡県の鉄道について	太宰府館	渡部 邦昭	45
20	9月28日 (土)	八女市岩戸山歴史文化交流館	朝倉橋広庭宮と大伴部博麻・チンのウバ塚	八女市岩戸山歴史文化交流館	小田 和利	56
21	9月28日 (土)	柳川市文化協会郷土史部	筑紫君磐井とその時代	柳川市大和生涯学習センター	吉田 東明	20
22	9月29日 (日)	裏千家学校茶道事務局	福岡の茶陶	福岡リーセントホテル	遠藤 啓介	140
23	10月2日 (水)	甘木地区コミュニティ協議会	筑紫君磐井とその時代	甘木地域センターフレアス甘木	小田 和利	26
24	10月5日 (土)	筑紫南コミュニティ運営協議会	アジア太平洋戦争末期の九州の内政と軍政	筑紫南コミュニティセンター	渡部 邦昭	22
25	10月9日 (水)	九州北部税理士会筑紫支部	筑紫君磐井とその時代	福岡共同公文書館	小田 和利	64
26	10月9日 (水)	長住団地自治会	近世福岡県の窯跡について	長住団地集会所	坂本 真一	20
27	10月12日 (土)	大野城心のふるさと館	古代の土器が語る歴史	大野城心のふるさと館	酒井 芳司	103
28	10月13日 (日)	直方市立図書館	高取焼を知ろうー茶碗作り体験と古高取の歴史	直方市立図書館	遠藤 啓介	82
29	10月14日 (月)	香春町教育委員会	筑豊・香春の鉄道史	香春町町民センター	渡部 邦昭	47
30	10月16日 (水)	法政大学	九州歴史資料館の移転整備と収蔵管理	(オンライン)	松川 博一	30

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数 (名)
31	10月17日 (木)	「西の都」日本遺産 活性化協議会	観世音寺宝蔵の諸 仏について	観世音寺	井形 進	15
32	10月19日 (土)	求菩提資料館	求菩提山の仏教美 術～平安時代を中 心に～	求菩提資料館	井形 進	37
33	10月26日 (土)	太宰府市文化ふれあ い館	万葉集ゆかりの地 を訪ねて	太宰府市文化 ふれあい館・ 太宰府市内	松川 博一	12
34	10月27日 (日)	四王寺山勉強会	四王寺山の存在感 ～その歴史と伝承 ～	太宰府市中央 公民館	松川 博一	70
35	11月3日 (日・祝)	太宰府市文化ふれあ い館	西鉄ができるまで	太宰府市文化 ふれあい館	渡部 邦昭	35
36	11月10日 (日)	隠岐の島町歴史文化 交流協議会	隠岐駅鈴の材質調 査から見えてくる もの	隠岐島文化会 館	加藤 和歳	40
37	11月12日 (火)	つくし郷土史会	福岡県の私鉄	筑紫野市歴史 博物館	渡部 邦昭	19
38	11月18日 (月)	九州博物館協議会 福岡県立美術館	大宰府研究と博物 館	福岡市博物館	松川 博一	54
39	11月19日 (火)	九州博物館協議会 福岡県立美術館	大宰府研究と博物 館	大宰府政庁 跡・大宰府展 示館・太宰府 天満宮	松川 博一	34
40	11月28日 (木)	くすのき会	大宰府と菅原道真 ～『菅家後集』を 読む～	太宰府市総合 福祉センター	松川 博一	47
41	12月6日 (金)	古都大宰府保存協会	大宰府政庁周辺官 衙跡について	大宰府展示館 前～大宰府政 庁周辺	小田 和利	32
42	12月21日 (土)	九州国立博物館	「元寇」の記憶と 明治時代の大型銅 像制作	九州国立博物 館	國生 知子	100
43	1月8日 (水)	久留米水曜会	筑紫君磐井とその 時代	リバー	酒井 芳司	30
44	1月9日 (木)	公立学校共済組合	令和の里 太宰府 と万葉集	福岡リーセン トホテル	松川 博一	19
45	1月10日 (金)	J A筑紫 太宰府地 区	大宰府史跡等につ いて	プラム・カル コア太宰府	坂元 雄紀	30
46	1月15日 (水)	久留米水曜会	太平洋戦争末期の 内政と軍政	リバー	渡部 邦昭	35

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数 (名)
47	1月25日 (土)	筑紫南コミュニティ運営協議会	筑紫君磐井について	筑紫南コミュニティセンター	酒井 芳司	40
48	1月26日 (日)	熊本県立装飾古墳館	古代山城の城門構造－九州を中心に－	山鹿市菊鹿公民館	吉田 東明	100
49	2月7日 (金)	耳納山の山城を巡る会	「石垣高尾遺跡」の概要とその価値について	久留米市水縄校区コミュニティセンター	小田 和利	38
50	2月9日 (日)	大野城心のふるさと館	手工業生産からみた森と人びとのかかわり	大野城心のふるさと館	小嶋 篤	50
51	2月16日 (日)	久留米市立中央図書館	筑後地域の鉄道史	久留米市立中央図書館	渡部 邦昭	93
52	2月22日 (土)	八女市岩戸山歴史文化交流館	筑後国の神と仏～高良山麓の仏教美術調査成果を中心に～	八女市岩戸山歴史文化交流館	國生 知子	56
53	2月23日 (日)	国分寺	国分寺の歴史と文化財－高良山との結びつきに注目して－	国分寺（久留米市）	國生 知子	35
54	2月24日 (月)	西の都ワクワクしたいっ隊	西の都と万葉集	九州歴史資料館	松川 博一	102
55	3月2日 (日)	熊本県立装飾古墳館	古代山城の城門構造－九州を中心に－	菊池市泗水公民館	吉田 東明	100
56	3月2日 (日)	伊都国歴史博物館	縄文から弥生へ－弥生のはじまりと糸島－	伊都国歴史博物館	宮地聡一郎	111
57	3月8日 (土)	法政大学	九州歴史資料館の移転整備と文化財の保存・公開	法政大学	松川 博一	150
58	3月8日 (土)	北九州市立自然史・歴史博物館	九州の古墳－その特色と歴史研究－	北九州市立自然史・歴史博物館	小嶋 篤	111
総数						3,102

◎一般来館者対応事業

当館の施設や事業内容を知っていただき、文化財やその保護・保存の重要性をより深く理解していただくために、来館者の展示資料に関する質問や、館外からのレファレンスへの対応のほか、来館者対応事業として館独自のサービスを職員が行っている。

○来館者への施設解説

学校団体以外の一般来館者に対しても、より深く当館を理解していただくために、事前申し込みのあった団体に対しては職員による施設解説を行っている。6年度は、36団体約900名に対して案内を行っている。

○ミュージアムトーク

特別展の開催期間中を除く毎週日曜日に、展示室内にてミュージアムトークを実施した。来館者と学芸員が向き合いながら展示について対話する場で、仏教美術や古文書、工芸品、考古資料、保存科学など、様々な分野のスタッフが、解説や質疑応答を交えながら展示について紹介した。

試みを開始したのは5年度である。従来から、特別展や企画展の時期には、「タベのギャラリートーク」と題して閉館後の静かな展示室で希望者を対象に展示解説を実施していたが、常設展示を紹介する機会が少なかったことから、新たに開催されることとなった。当初は第1・3土曜日に実施していたものの、開催日程が分かりにくいこと、また講座等の別イベントと重なる事例がまま見られたことから、本年は開催日を毎週日曜日とし、バックヤードツアーに続く15時から実施することとした。

6年度の開催計画は40回、うち32回を実施し、計157人の参加があった。1回毎の参加人数は多くはなく、また天候等によっては展示室に来館者おらず実施されない日もあったが、展示品を前に親しく対話する場は貴重であり、参加者からは「話を聞かなければ気づかなかった」など好評の声を得ている。また、話をする学芸員にとっても、来館者の反応に直接触れることのできる有意義な場となっている。

今後も来館者の要望に沿うことを意識しながら、よりよい形を模索してゆきたい。

○バックヤードツアー

本事業は、来館者に公開されていない博物館の裏側、いわゆるバックヤードを紹介するものである。普段見ることのできない発掘調査の出土品の報告書作成、収蔵庫に収蔵されるまでの流れなどを紹介するツアーである。毎週日曜日14時から実施した。特別感のあるツアーであり、参加者にとって非常に満足度の高いものであった。

○発掘新聞

発掘新聞は九州歴史資料館が日頃行っている県内の発掘調査を速報的に紹介するもので、不定期に発行している。館内に掲示している他、九州歴史資料館のホームページ上でも公開している。

○古代衣装変身ミラー

コロナ禍以降、デジタルで古代衣装試着ができるコンテンツを制作し、代替とするとともに館のアミューズメント性を高めたものとして「古代衣装変身ミラー」を導入している。これはインタラクティブサイネージを利用して、デジタル化した古代衣装を試着できるようにしたもので、縄文時



古代衣装変身ミラー



同左使用状況

代の貫頭衣・弥生時代の貫頭衣・古墳時代の胡服・古墳時代の巫女衣装・奈良時代の貴族の衣装・奈良時代の女官の衣装・平安時代の狩衣・平安時代の女房装束の計8種を選択できる。職員がいなくても体験でき、手をかざすだけで操作できるため、多くの来館者が試着映像を楽しんだり、またその姿を写真に収めたりしていた。

運用当初は実際に古代衣装を試着する「古代衣装着付け体験」の代替案として運用を始めたものであるが、5年度から「古代衣装着付け体験」そのものも再開している。それに伴い、「古代衣装変身ミラー」を楽しんだ来館者が、その流れで古代衣装着付け体験を楽しんだり、平日の場合はまた別日に来館して古代衣装着付け体験を楽しんだり、相互に関連付けながら楽しむ機会となっている。撮影回数3,964回、延べ利用回数15,856人（1人当たり2種類試着、2人に1人が撮影するものとして算出）

○来館者環境改善

来館者の満足度を高めるため、周回道を「ラン&ウォーキング」としてワンヘルスと関連付けてリニューアルしたほか、観覧モデルコースのチラシの改善、三沢遺跡等のスマホによる音声ガイドの導入などに取り組んだ。また、当館の新たなシンボルとして鬼瓦モニュメントを設置し、来館者の撮影スポットとしても利用された。コーヒー店は月2回程度出店しており、来館者に好評であった。

◎体験教室・イベント等

○集客イベント

地域に根差した博物館として、近隣住民や今までに来館されたことのない方（通常の営業時間帯に来館できない方）など新たな客層を取り込むために、6年度は特別夜間営業を2回、昼間イベントを1回実施した。イベントでは、通常日曜日に実施しているバックヤードツアーやミュージアムトーク、土器パズル体験等を行った。また、6月は鬼瓦モニュメントの除幕式を行い、11月は「ハロウィン後夜祭」と題してお菓子をもらえる九歴クイズを出題した。初開催の節分イベントでは「鬼」にちなんだ紙芝居やお面づくりコーナー等を設けた。3回とも予想をはるかに上回る来館者があり、大変好評であった。

開催日時	内容	参加者数 (名)
6月 1日（土）16:30～20:30	夜間営業・鬼瓦モニュメント除幕式・ホテル観察会	1,055
11月 2日（土）16:30～20:00	夜間営業・ハロウィン後夜祭・九歴クイズ・生演奏	1,192
2月 2日（日）10:00～15:00	節分イベント・紙芝居・生演奏・古代体験・お面づくり	968
	総数	3,215



6月1日にお披露目された鬼瓦モニュメント



節分イベントでのキッズ向け鬼瓦解説

○キッズミュージアム

当時のくらしの体験を通して、歴史・文化などに対する興味を高め、歴史や文化財を大切にする実践意欲や態度を養うことを目的に毎年実施している小学生向けの体験イベントである。6年度も弓矢体験や竹とんぼづくり、藍染体験を取り入れ、当時のくらしや文化としての藍の歴史を知り、実際の体験活動では来館者の満足度も高かった。また、青少年科学館との共催や九歴脱出ゲームでは、普段体験できない企画で大変満足度が高かった。

6年度の内容は以下の通りである。（引率の家族を含む）

期 日	内 容	参加者
1月18日（土）	科学実験・九歴脱出ゲーム	41名
2月16日（日）	弓矢体験・竹とんぼづくり	44名
3月 9日（日）	藍染体験・九歴脱出ゲーム	100名



青少年科学館サイエンスショーの様子



九歴脱出ゲームの様子



弓矢体験の様子



藍染体験の様子

○古代体験まつり

期日：令和6年11月24日（日）

内容：過去に九歴ボランティアのバス研修で訪問した3つの資料館・博物館（糸島市立伊都国歴史博物館・八女市岩戸山歴史文化交流館・宗像市海の道むなかた館）と近隣の施設（九州国立博物館、小郡市埋蔵文化財調査センター、春日市奴国の丘歴史資料館）に参加を呼びかけ、それぞれの施設が行っている古代体験を実施してもらい、参加者が1日でいろいろな体験ができるイベントを開催した。6年度は来館者数が438名、体験者のべ人数が1917名と、来館者数こそ5年度の半数近くであったが、ほぼすべての来館者に体験を楽しんでもらうことができた。九州歴史資料館の体験とし

ては、通常実施している古代体験のほかに、埋蔵文化調査室による発掘体験を実施した。物価高騰の影響もあり、5年度より瓦マグネット体験については、100円での有料体験としている。



古代体験まつりの様子

○中・高生対象歴史ゼミナール

期日：令和6年7月30日（火）～8月1日（木）

内容：①学芸員の話や、実際に文化財に触れる体験を通して伝統・文化などに対する興味を高め、歴史や文化財を大切にする実践意欲や態度を養うこと。②当館の活用頻度の低い中高生に対して、魅力的な講座を開講することで当館や歴史に関する興味・関心を高め活用頻度の促進を図ることを目的に「中・高生対象歴史ゼミナール」を開催した。どの活動も意欲的に学ぶ生徒の姿が見られ好評だった。また、夏休み中ということで生徒たちが集中して学習に取り組むことができるよう12：00～16：00は自習室を開放した。30名の参加があった。

活動内容は以下の通りである。

期日	活動内容（9：30～12：00）
7月30日（火）	歴史講習①&歴史実習（博物館）
7月31日（水）	歴史講習②&歴史実習（考古）
8月1日（木）	歴史講習③&歴史実習（文化財）



歴史ゼミナールの様子

○きゅうれき絵画教室

期 日：令和6年8月3日（土）・4日（日）

内容：例年夏休みに合わせて、夏休みの宿題や自由研究と関連付けたイベントとして開催してい

る。子ども達は文化財を見ながら、それぞれの特徴や文化的背景について学芸員の話を聞き、中でも気になった文化財をスケッチし、その後美術科教諭の指導の下、思い思いの画材や色で着彩を楽しんだ。描いた作品については、その後2か月間、館内で展示を行った。36名の参加があった。



展示解説の様子



スケッチの様子

◎その他関連機関・団体との共催事業

○桜コンサート

期日：令和6年4月21日（日）10：30～16：00

主催：桜コンサート実行委員会

共催：九州歴史資料館・三国中校区なかよし地域ネット人権のまちづくり推進連絡会

内容：平成28年度から共催で実施しているイベントである。地域のまちづくり協議会が共同で立ち上げた実行委員会が開催するもので、地域の個人や団体の参加型コンサートである。数々の音楽グループの方々が、第4展示室で素晴らしい演奏やパフォーマンスを繰り広げた。第11回となる6年度は、470名以上の来館者を得た。



桜コンサートの様子

○特別展開催記念茶会

期日：令和6年10月20日（日）10：00～15：00

内容：特別展の開催を記念した茶会は、小郡市文化協会裏千家との共催で平成25年度から特別展開催期間中に実施し、連携企画の相乗効果により例年多数の参加者を得ている。6年度は特別展「筑紫君一族史」の開催を記念して企画したもので、合計192名の参加があった。

また、記念茶会と並行して、特別展ギャラリートークを2回開催し、展示をより多くの方に観覧いただく契機とした。加えて昨年度に引き続き1階エントランスにて甘木絞り連絡協議会による甘木絞りの物品販売も行い、イベント性を高めるとともに、地域の伝統工芸の披露も行った。



特別展開催記念茶会の様子



茶会時の特別展ギャラリートークの様子

○アクロスミュージックキャラバンin 九州歴史資料館

期日：令和6年10月27日（日）13：30～15：30

内容：特別展の記念イベントとして位置づけ、公益財団法人アクロス福岡と共催で例年実施している事業で、今年から名称を「アクロスミュージックキャラバンin九州歴史資料館」と改めた。プロのアーティストによる本物の音楽に触れる機会を作ることで、当館に親しみを持っていただくとともに、来館者に特別展をご観覧いただくことで、本県の歴史や文化への興味や理解を深めていただくこと、さらには、文化財保護思想を普及させることを目的としている。

令和6年度は3名の演者を迎え、親しみやすいアニメの曲から定番曲まで大人も子供も楽しめる楽曲が演奏され、参加した聴衆を魅了した。演奏された楽曲は、久石譲「『となりのトトロ』より“さんぽ”」、E.モリコーネ「ニュー・シネマ・パラダイス」、G.フォーレ「夢のあとに」などであった。

コンサートは2部構成で実施し、募集は当日受付で定員は各回100名。参加者は両部合わせて163名であった。



甘木絞り物販の様子



アクロスミュージックキャラバン
in 九州歴史資料館ポスター

日程	プログラム
13：30～14：00	アクロスミュージックキャラバン 第1部
15：00～15：30	アクロスミュージックキャラバン 第2部

◎その他関連機関・団体との共催事業

○三沢遺跡の森を育む会との共同イベント

NPO法人「三沢遺跡の森を育む会」が開催しているイベントにおいて、当館職員が三沢遺跡の案内・解説等を行った。12月のイベントでは、当館職員が「ハゼろうと和ろうそくの歴史」の説明を行った。

開催日	イベント
4月28日（日）	「春の樹木と山野草を楽しむ会」
7月28日（日）	「三沢遺跡の森 生き物探検隊」
10月6日（日）	「秋の樹木と山野草を楽しむ会」
12月8日（日）	「ハゼろうでボタニカル クリスマスキャンドルを作ろう」

○文化財めぐり「やめ古墳日和」

期日：令和6年11月17日（日）

主催：福岡県教育委員会（文化財保護課）

内容：特別展「筑紫君一族史」の関連イベントとして、バスツアー「やめ古墳日和」を企画した。本展は、磐井のみにとどまらず、勃興から終末に至る筑紫君一族の歴史を概観することにより、八女地域を本拠地とした九州北部の大豪族・筑紫君が、日本の古代文化形成の上で大きな役割をはた

したことに思いをはせていただき、地域における文化財の顕彰と保存の一助になることを祈念するものである。

その開催を記念して企画する本イベントは、当該展覧会で出土資料を展示する、八女地域の代表的な古墳について、当館職員が解説しながら現地をめぐり、展示と古墳との結びつきを実感していただいた。このことによって、県民の八女地域の歴史や福岡県の古墳への理解の深化と文化財愛護思想の普及に資するものとすることを目指した。見学した古墳は、久留米市浦山古墳、広川町石人山古墳、弘化谷古墳、八女市岩戸山古墳、童男山古墳である。石人山古墳と弘化谷古墳では、広川町教育委員会の尾崎源太郎氏、岩戸山古墳では八女市岩戸山歴史文化交流館いわいの郷の伊崎俊秋館長、檀佳克氏からも御案内いただいた。34名参加。



文化財めぐり「やめ古墳日和」風景

○全国歴史民俗系博物館協議会

全国歴史民俗系博物館協議会（歴民協）は、平成23年3月11日の東日本大震災をきっかけに設立され、全国を9つのブロックに分け、館長が設立の呼びかけ人となった12館が、各ブロックの幹事館となった。九州ブロックは、九州国立博物館と九州歴史資料館が幹事館を務めている。

歴民協の第10回年次集会は、国立歴史民俗博物館にて、7月4日に幹事館会議、研究集会が開催された。

第10回総会は事前にメール会議にて開催され、事務局から提案された議題は、すべて承認された。また幹事館についても、今年度6年度の幹事館が再任されることも承認された。幹事館会議で、7年度の会議が香川県高松市の香川県立ミュージアムで開催されること、また代表幹事館を同じく香川県立ミュージアムが務めることが承認された。この他、幹事館会議と研究集会をオンラインで開催できないかとの提案があり、これについて議論があった。幹事館会議では実施について議論は持ち越しとなったが、その後、7年度の幹事館会議はオンラインで開催されることが決定した。研究集会は「記憶と記録をつなぐ―歴史継承を担う地域と博物館―」のテーマのもと、基調講演と4本の報告があった。2日目は施設見学であったが、九州歴史資料館での会議のため、欠席し



研究集会風景（基調講演）



西谷大 国立歴史民俗博物館長あいさつ

た。

○九州山岳霊場遺跡研究会

九州山岳霊場遺跡研究会は、九州山岳霊場遺跡研究会が主催し、九州歴史資料館が事務局として共催し、あわせて九州各地の霊山が所在する現地において、地元自治体や寺社、日本山岳修験学会等の共催や後援を得て、毎年8月末に開催されて来た。

第11回九州山岳霊場遺跡研究会「宝満山の古代山岳信仰」を福岡県太宰府市にて、3年10月30日（土）・31日（日）に開催した後（8月に新型コロナウイルスの感染が拡大したため、10月に延期開催）、ほぼ九州の主な霊山を一巡したので、第11回までの研究会を振り返り、その総括として九州の山岳霊場研究の成果と課題について考える第12回研究会を九州歴史資料館研修室にて開催した。

第12回九州山岳霊場遺跡研究会「九州の山岳霊場 成果と課題」

主催：九州山岳霊場遺跡研究会

共催 九州歴史資料館

後援 日本山岳修験学会

期日：令和7年3月16日（日）

参加人数：128名

内容：基調講演「九州山岳霊場遺跡研究会の軌跡」（森 弘子）

研究報告①「山の神仏と海—九州北西部の尊像とそのあり方から—」（井形 進）

研究報告②「考古学からみた九州の山岳霊場—近年の成果を中心に—」（岡寺 良）

研究報告③「縁起の史料批判と九州の霊山の古代」（酒井芳司）

研究報告④「説話・伝承からみた山岳信仰—開聞岳を中心に—」（吉田扶希子）

パネルディスカッション

司会：松川博一 パネラー：國生知子、酒井芳司、岡寺 良、吉田扶希子



九州山岳霊場遺跡研究会風景

（７）重点施策

◎九州歴史資料館古代史研究事業

○全体概要

九州歴史資料館は昭和47年の開館以来、日本古代最大の地方官衙遺跡である大宰府史跡の調査研究などを行い、長きにわたり律令期を中心とした学際的研究をリードしてきた。

3年度からは大宰府史跡を含む「古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～」の前史にあたる古墳時代の研究を企画し、「筑紫君をめぐる古代史」をメインテーマにした第1期「古代史研究」事業を立ち上げ調査研究事業を実施した。

研究成果は重点施策として採択された各種事業を通して積極的に還元し、6年度には「特別展「筑紫君一族史」（10月12日～12月8日）」「古代史研究フォーラム」（11月30日）」「テーマ講座「筑紫君磐井の乱の実像に迫る」（計4回：8～11月）」「古代史研究チャンネル動画制作（計3本：第8～10編）」の各事業を実施した。併せて「西新町遺跡出土品」の再整理を行い、特に重要な271点について令和7年3月21日に国の文化審議会から重要文化財に指定するよう答申を受けた。また、「福岡県装飾古墳総合調査」の調査成果をまとめた報告書「福岡県の装飾古墳」上・下巻を刊行した。

○古代史研究フォーラム

第1期古代史研究事業の総まとめとして開催したフォーラムである。タイトルを「筑紫君磐井の乱の実像に迫る」とし、アクロス福岡イベントホールにて11月30日（土）に開催した。このフォーラムでは、八女地方にかつて実在した豪族“筑紫君磐井”、彼とヤマト王権が激しく戦った“磐井の乱”、さらには、乱が日本の古代国家形成に与えた多大な影響について、最新の研究成果を基に迫っていった。

プログラムとしては、基調講演を柳澤一男氏（宮崎大学名誉教授），研究報告を小嶋篤と酒井芳司（ともに当館）が務め、後半にてトークセッションを行った。トークセッションは、コーディネーターに中村俊介氏（朝日新聞社）と松川博一（当館）を迎え、柳澤氏，小嶋，酒井，小澤太郎氏（久留米市役所）の4名をパネリストとした。小澤氏は、当館が制作した古代史研究チャンネル（Youtube）出演者7名の代表として登壇した。来場者は、当初定員の600名を大幅に超えて900名となり、会場の最大収容人数まで達した。



令和6年度九州歴史資料館古代史研究フォーラムの様子

○古代史研究映像制作

九州歴史資料館の古代史研究への取り組みや古代史のロマンを広く知っていただくため、令和3年度から映像作品の制作を行ってきた。令和6年度は3ケ年の最終年度として、シリーズの完結編と

なる2本と総集編1本、計3本の動画を制作した。作品の制作にあたっては当館職員のほか、大学教員や市町村文化財担当者の協力を得て、「磐井の乱」の実像を視聴者が考察できる内容とした。制作した動画は、Youtube内に設置した「古代史研究チャンネル」にて配信するとともに、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所が運営する「全国文化財総覧」の文化財動画にも登録し広く公開している。

第8篇 筑紫君磐井の乱の実像に迫る (⑧石人山古墳・岩戸山古墳 筑紫国前篇)

出演：小嶋 篤（京都橘大学：収録時は当館所属），酒井芳司（当館）

第9篇 筑紫君磐井の乱の実像に迫る (⑨岩戸山古墳 筑紫国後篇)

出演：小嶋 篤（京都橘大学：収録時は当館所属），酒井芳司（当館）

第10篇 筑紫君磐井の乱の実像に迫る (⑩総集篇)



Youtube古代史研究チャンネルのサムネイル第8編・第9編

○古代史研究報告書作成

令和3年度～6年度にかけて行った古代史研究事業では、古墳時代をテーマに調査研究等を行ったが、その成果については6年度に「九州歴史資料館調査研究・普及活用事業報告書第1集」として、報告書『筑紫君の多角的研究』をまとめた。報告書では、4ヵ年度の目的や経過・取組を整理した上で、第1部を「八女古墳群・八女古窯跡群の研究」、第2部を「筑紫君・筑紫神・筑紫国の研究」とし、新出資料の報告やそれらの歴史的な位置付け、また考古学や文献史学等、多角的な視点による調査研究の成果を収録した。終論として3ヵ年度の取組を振り返り、今後の古代史研究についての展望も行った。

◎文化財データベース

70年ぶりに単独法律改正がなされ令和5年4月1日から施行された「改正博物館法」において、博物館が所蔵する資料のデジタル・アーカイブ化とその公開が追加され、博物館同士が連携・協力し、事業を実施する努力義務規定も盛り込まれた。

これを受け、当館では電子化された収蔵資料のデータベースを9年度までに整備して、HP上で公開することを目標とし、加えて当館の分館に位置付けられている求菩提資料館、甘木歴史資料館、柳川古文書館の各々の館が収蔵する資料の公開も当館が主導して実施することとなった。6年度は、昨年度に引き続き3分館が収蔵する資料の把握とデータベース登録のための項目の整理を行うとともに本館で導入予定のシステムを使用している事例調査を実施して7年度からの入力作業についての準備に努めた。

（８）広報活動

◎一般向け広報

当館では、平成25年度から「広報普及班」を設置し、幅広い手段や媒体を活用して広報活動を行っている。例年、予算上有料広告を用いた大々的な広報は難しく、有料広報は特別展の西鉄駅のポスター掲示のみを実施した。無料広報としては、ホームページやポスター・チラシ、X（旧Twitter）などのSNS媒体はもとより、公共の広報誌や民間のフリーペーパー、インターネット情報サイトなど様々な媒体を活用している。また、近隣施設には直接訪れて広報資料の掲示協力を依頼するなどして展示やイベントの周知を行っており、特に30年度からは近隣の3つの公民館では回覧板に添付してもらうことにしている。こうした周知方法では、展示やイベントの企画内容や対象とする世代に合わせて、毎企画ごとに配布先、周知方法を考慮するなどの工夫もしている。さらに、マスコミ関係には展示等の情報を提供するとともに、取材と情報紹介について依頼を行い、6年度からは旅行業者に次年度展示計画を送付し、団体旅行利用促進に努めている。

また、来館者の利便性を考慮した広報を心がけ、文化情報広場に講座関係のチラシや資料を集めて。当館が展示と講座の情報の発信源となるよう工夫を行っている。

○ホームページ

令和3年5月から、社会教育総合センターのアドレスになっていたURLが<https://kyureki.jp/>に移行した。また、Twitterの運用とともに、速報性が高い情報を発信できるようになった。ホームページでは、展示案内のほかイベントの告知や、講座・講演会の告知、発掘情報や各種資料の案内を掲載しており、6年度はその編集作業を、広報普及班を中心に複数名体制で対応している。特別展や特集展示などのCM動画もホームページ上に掲載している。

子供向けのイベントに関する参加申し込みを、ホームページを介した電子申請方式になっている。これにより、参加者の集計や把握、参加者数が定員に達した際の対応などが大幅に簡素化され、情報の共有も容易になり、職員の負担が軽減された。大人向けの講座・講演会についても、現在は往復はがきと電子申請の併用としている。



ホームページのトップ画面

学校向けの資料やコンテンツも充実しつつあり、ホームページを見て来館を検討する学校や団体が増えてきている。総アクセス数318,374回

○SNS（X（旧Twitter）・Instagram）

当館に関する様々な取り組みを紹介し、館の魅力をPRするために、情報の速報性に特化したX:Twitterでの情報発信をおこなった。投稿内容は、展示・イベントの告知や実績報告、季節の話題などで、「ぼく、きゅうおに」という一人称を用いながら、親しみやすい内容でのリアルタイム発信を心掛けた。また、情報の蓄積や深化に特化したInstagramの投稿もおこなった。投稿内容は、館蔵品や文化財などの写真を中心に解説も添えて発信した。



SNS名	年間投稿数	年間閲覧数 インプレッション	年間 フォロワー	累計 フォロワー
X（旧Twitter）	331	—	622	2683
Instagram	11	—	256	627

なお、平成28年度から運用を開始したTwitterは、6年度末までに2683のフォロワーを獲得。4年度9月から本格運用を開始したInstagramは、6年度末までに627のフォロワーを獲得している。

○YouTube

6年度は秋に実施した古代史研究フォーラムの動画と、古代史研究チャンネル「筑紫君磐井の乱の実像に迫る」シリーズの動画3本を制作し投稿した。今回の作品をもって「筑紫君磐井の乱の実像に迫る」シリーズは完結となった。古代史研究チャンネルの視聴回数は引き続き好調で、6年度制作の3本は公開1か月で3万回再生を超え、全17作品の合計再生回数は20万回を超えている（令和7年5月現在）。公式HPのほかXやInstagramを活用し相互に広報を行った他、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・島根大学附属図書館が運営する「全国文化財総覧」にも掲載し、より多くの視聴に供するよう努めている。

◎他施設等との相互広報

他施設や団体との連携については、県内各市町村の博物館・資料館を紹介することを目的として、各館にご協力いただき統一的な各館の紹介チラシを掲示している。予算の関係で配布はできないものの、当館ホームページや館内で紹介し、県内施設での相互広報などのネットワークの構築を進めている。また、講座での広報資料の共有なども進めている。

○県政PR展示

会期：令和6年10月15日（火）～11月4日（月）

令和7年2月14日（金）～2月24日（月）

会場：福岡県立図書館 1階第1閲覧室

主催：福岡県立図書館

内容：福岡県立図書館では、1階エントランスで各種展示を行っており、県の機関に対してもイベントや施策を紹介する展示を募集している。6年度は、10月に特別展「筑紫君一族史」に係る展示・イベントのお知らせを、12～2月には冬の企画展と開催期間のイベントのお知らせを掲示した。



県政PRの掲示の様子

○よかもんひろば利用広報

会期：令和6年9月9日（月）～9月27日（金）

会場：福岡県庁11階物産観光展示室「福岡よかもんひろば」回廊

主催：物産観光展示室「福岡よかもんひろば」

内容：福岡県観光政策課では、県庁11階物産観光展示室「福岡よかもんひろば」で県内市町村、庁内各課及び各種団体が主催する観光・物産PRイベント等を行っている。6年度は、10月に特別展「筑紫君一族史」に係る展示・イベントのお知らせを掲示した。



よかもん広場回廊での掲示の様子

○アクロス福岡コミュニケーションエリア利用広報

会期：令和6年9月2日（月）～9月8日（日）

主催：公益財団法人 アクロス福岡

内容：アクロス福岡では、コミュニケーションエリアで自治体や文化施設の企画展示やイベントを

実施している。6年度は特別展「筑紫君一族史」と9月から10月にかけてのイベント等の催し物ポスターを掲示した。

○イベント出展広報

復元作業体験の土器パズルやVR体験など各地でイベント出展を行った。また、開催時期に応じたイベントや講座等のチラシ配布やポスター掲示を実施している。6年度に実施した広報は以下の通りである。なお、11月10日に兵庫県立考古博物館「大中遺跡まつり」に、VRと銅矛鑄造体験を出展する予定だったが、荒天のため中止された。



アクロス福岡コミュニケーションエリア掲示の様子

開催日時	場所	イベント名
4月21日（日）	小郡市生涯学習センター	小郡スプリングフェスタ2024
8月25日（日）	小郡市小郡校区コミュニティセンター	だいたいフェスタ
10月 5日（土）	柳川市市民文化会館	やながわトライアルキャンパス事業「城下町発掘体験」
10月20日（日）	小郡市のぞみが丘小学校	地域文化祭
11月10日（日）	篠栗町福岡県立社会教育総合センター	社教センターフェスタ
12月 1日（日）	小郡市あずまコミュニティセンターひまわり館	イベント



イベント出展の様子

◎博学連携・学習支援に向けた広報

博学連携への観点から、広報普及班の在籍教員を中心に学校への広報活動を行っている。従来から行っていた校長会や研修会での当館の教育普及事業の説明や教育委員会を通じた広報資料の配付に加え、ホームページを活用した広報活動に力を入れている。具体的にはウェブ上で、学校の先生方向けに研修会等で配付している事業説明資料を閲覧できるようにした。また、電子申請システムでのお問い合わせ・お申し込みフォームも多く活用して頂いている。今後も効果的な広報活動を図り、多くの学校の活用につなげていきたい。



博学連携広報資料

このほか6年度に行った主な広報は以下のとおりである。

- ・ポスター・チラシの配布：歴史関係施設・団体、企画内容に則した団体、主催・共催や講師派遣先の講演会・講座参加者、他機関の講演会・イベント等、書店等の店舗
- ・県・市の広報媒体への情報掲載：教育福岡・福岡県だより・グラフ福岡・広報おごおりほか
- ・歴史系専門雑誌、イベント情報雑誌への情報掲載：「博物館研究」「古代文化」ほか
- ・情報サイトへの情報提供：イベントバンク・いこーよ ほか
- ・特別展・企画展開催直前のマスコミ向け内覧会の開催など情報提供
- ・県が利用するデジタルサイネージの掲示

なお、館のアピールを行うため、平成29年度から継続して「福岡県観光パスポート（ふくおかよかとこパスポート）」と「ミュージアム周遊パス」に参加した。

「福岡県観光パスポート（ふくおかよかとこパスポート）」は福岡県が、株式会社日本旅行へ委託し、観光客の動向調査及び県内周遊を目的として実施する事業である。「ミュージアム周遊パス」は大規模スポーツ国際大会の開催を契機として、九州各県の美術館・博物館等文化施設への周遊を促進する取り組みで、参加して施設情報を掲載した。

（９）実習・研修

◎博物館実習

内容：６年度は、11大学から16名の実習生を受入れ、８月26日（月）～９月５日（木）の８日間（８月29・30日は台風の影響により中止、９月１日はお休み）で実施した。なお、受入れ大学名及びカリキュラムは、以下のとおりである。

受入大学一覧

大学名	学部名	学科名	実習生数 (名)
九州産業大学	国際文化学部	日本文化学科	1
久留米大学	文学部 経済学部	国際文化学科 文化経済学科	3
立命館大学	文学部	人文学科	1
西南学院大学	法学部 大学院	国際関係法学科 国際文化研究科	2
筑紫女学園大学	文学部	日本語・日本文学科 アジア文化学科	2
愛知県立芸術大学	音楽学部	音楽科	1
佐賀大学	芸術地域デザイン学部	地域デザインコース	2
奈良大学	文学部	史学科	1
長岡造形大学	造形学部	視覚デザイン学科	1
福岡大学	人文学部	文化学科 歴史学科	4
総数			18

博物館実習カリキュラム

日	(曜)	内容 (午前)	内容 (午後)	担当班
第1日	8月26日(月)	オリエンテーション・開講式 西谷正名誉館長講話	講義「学芸員の實務」 館の概要・施設見学	企画推進班 学芸研究班
第2日	27日(火)	考古資料の取り扱い	教育普及①	学芸研究班 広報普及班
第3日	28日(水)	歴史資料の取扱い		学芸研究班
第4日	29日(木)	(台風により中止)		
第5日	30日(金)			
第6日	31日(土)	教育普及②	名誉館長講話受講	広報普及班 企画推進班
第7日	9月2日(月)	美術工芸資料の取り扱い		学芸研究班
第8日	3日(火)	広報普及	図書資料整理	広報普及班 企画推進班
第9日	4日(水)	大宰府史跡の見学	出土遺物の洗浄	大宰府調査班
第10日	5日(木)	博物館の保存環境	実習のまとめ 閉講式	文化財科学班 企画推進班

◎九州歴史資料館文化財研修

本県は、『福岡県文化財保護大綱』を策定し、市町村と県とが連携した文化財保護の充実に取り組んでいる。これに基づく具体的な施策として、市町村の文化財行政担当職員を対象とした研修を福岡県文化財保護課と協働して行っている。本研修の目指すところは、業務遂行上必要な知識や技術を習得し、職員の資質向上を図るとともに職員相互の情報交換の場を設け、市町村と県及び市町村相互の連携による文化財保護を推進していく関係性の創出である。



史跡整備研修の様子

4年度からは、文化財保護行政の体系と仕組みを学ぶための「文化財基礎研修」と各種文化財の業務を行う上で必要な基礎知識及び技術を習得するための部門別の研修を行っている。なお、部門別研修には、毎年開催している研修と隔年毎に開催している研修の他、埋蔵文化財に係る「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」（年7回開催）、「埋蔵文化財安全衛生講習会」を実施している。

6年度に実施した文化財研修は下表のとおりで、総数106名の市町村職員の参加があった。

○文化財基礎研修及び部門別研修

研修名	開催日	場所	内 容		人数 (名)
文化財 基礎研修	7月3日 (水)	当館研修室	講 義	福岡県における文化財保護行政の取り組み	22
				文化財の体系と文化財保護制度の歴史	
				各種文化財の保護と補助制度	
				埋蔵文化財の保護と補助制度	
史跡等整備 基礎研修	8月2日 (金)	当館研修室	講 義	基本計画・基本設計・実施設計・工事・監理の基礎知識	25
				災害復旧・史跡整備の事例・補助助成メニュー	
有形文化財 (建造物) 基礎研修	9月27日 (金)	久山町	講 義 ・ 演 習	登録有形文化財（建造物）の基礎知識	21
				久山町若八幡宮現地見学・神社建築調査の方法	
有形文化財 (美術工芸品) 基礎研修	2月20日 (木)・21 日 (金)	当館研修室	講 義 ・ 演 習	美術工芸品（古文書・書跡典籍）の基礎知識	38
				美術工芸品（古文書・書跡典籍）の保存修理	
				補助助成メニュー	
総数					106

○埋蔵文化財発掘調査基礎研修

平成29年度より、県内市町村文化財担当職員の埋蔵文化財の調査・事務処理の知識および技術の向上を目的として、発掘調査等の実務経験が少ない新採職員等を対象とした基礎研修を実施している。6年度は全7回の講座を実施した。

「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」研修内容

回	開催日	テーマ		種類	内容	参加者数 (名)
1	6月21日 (金)	埋文事務手続き	埋蔵文化財に関する法律	講義	1 文化財保護法・関連法令	18
			埋蔵文化財事務手続き		2 事務手続きの流れ 九州地区基準・県取扱要綱	
					3 事前審査	
					4 試掘確認調査	
					5 埋蔵文化財関連国庫補助事業	
2	7月19日 (金)	発掘調査	事前準備	講義	1 発掘調査着手にかかる諸手続き	15
					2 着手前の現地確認	
					3 調査計画の策定	
					4 作業員の募集と雇用	
					5 安全衛生管理	
		本調査	講義	6 機材搬入		
				7 表土剥ぎ		
				8 遺構検出		
				9 遺構掘り下げ		
				10 図化		
				11 写真撮影		
				12 撤収・埋め戻し～引渡し 終了後の保護法上の手続き等		
		図化実習	実習	13 測量機器の取り扱い		
3	9月20日 (金)	整理・報告書	整理・報告書作成	講義	1 整理作業の流れ	6
				2 文章の作成、編集、入稿、校正		
			実習	3 遺構割付、遺物割付		
4	10月25日 (金)	発掘調査	発掘調査実習	実習	9 遺構検出・掘削の基礎、 図化	6

回	開催日	テーマ		種類	内容	参加者数 (名)
5	11月15日 (金)	整理・ 報告書 作成	実測、写真撮影	実習	4 土器実測	9
				講義・実習	5 写真撮影の方法	
6	12月20日 (金)		拓本、実測	実習	6 拓本	9
				実習	7 石器、金属器等実測	
7	1月17日 (金)		特殊遺物とトレース	講義	8 特殊遺物の見方、トレースの方法	10
		特殊遺物の対応	講義	1 特殊遺物の対応		
		遺物の保存管理		2 遺物の保存処理・科学分析の方法と外注の実際		
延べ参加者計						73

○埋蔵文化財安全衛生講習会

埋蔵文化財安全衛生講習会は、県内市町村を含めた埋蔵文化財発掘調査担当職員等を対象に、労働安全・衛生管理に関する意識を喚起するとともに、知識・技術の習得によって、担当職員の資質向上と埋蔵文化財発掘調査現場の適正な運営等に資することを目的としている。

6年度は「応急手当（普通救命講習）」というテーマで6月12日に開催した。久留米広域消防本部三井消防署三国出張所から職員を招聘し、人工呼吸やAEDの操作方法など、基本的な救命方法を受講した。

(10) 市町村支援

◎文化財保護に係る技術支援

当館では、2年度に策定された『福岡県文化財保護大綱』に基づき、福岡県文化財保護課と連携して市町村への専門的な技術支援を行っている。これは、「九州歴史資料館文化財研修」と一連の施策で、研修で得た知識のみでは解決できない課題を現地での支援により対処するものである。

6年度に市町村より派遣依頼を受けて技術支援等に当館職員を派遣した件数は、73件であった。なお、1件の派遣依頼文書で複数回の支援を行っている事例が多々あることから、派遣実数としては下表より多いのが実情である。

市町村等への技術支援一覧表（派遣依頼文書受理分）

	期 間	依 頼 元	依頼内容	担 当	
				所 属	氏 名
1	4月～3月	柳川市教育委員会	都市計画道路三橋筑紫橋線建設事業に伴う発掘調査の助言	文化財調査班	坂本 真一
2	4月～3月	福津市教育委員会	新原奴山古墳群調査等に係る指導・助言	企画推進班	小田 和利
3	4月～3月	久留米市文化財保護課	高良山総合調査（第5次）御井寺所蔵歴史資料調査	学芸研究班	國生 知子
4	4月13日（土）	国際日本文化研究センター	共同研究（「異文化媒介者たちの比較史」）参加	学芸研究班	井形 進
5	4月18日（木）	桂川町教育委員会	特別史跡王塚古墳石室内設置鋼管支柱の改善に向けた指導	大宰府調査班	宮地聡一郎
6	5月15日（水）・20日（月）	宗像大社	「国宝沖ノ島出土品」保存修理事業に係る修理計画策定協議	文化財科学班	加藤 和歳
7	5月20日（月）	那珂川市教育委員会	那珂川市文化財専門委員会出席	学芸調査室	松川 博一
8	5月20日（月）	久山町委員会	第1回久山町文化財保護審議会出席	学芸研究班	井形 進
9	5月24日（月）	福岡市経済観光文化局	福岡城跡鉄物櫓石垣修復事業に係る現地指導	埋蔵文化財調査室	入佐友一郎
10	5月30日（木）	古都大宰府保存協会	『都府楼56号』第1回編集委員会出席	学芸研究班	井形 進
11	5月31日（金）	桂川町教育委員会	特別史跡王塚古墳石室内鋼管支柱及び照明器具改善に向けた現地調査指導	埋蔵文化財調査室	入佐友一郎
12	6月1日（土）	志免町教育委員会	第1回志免町文化財保護審議会出席	学芸研究班	國生 知子

	期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
				所 属	氏 名
13	6月 4日 (火)	松浦市教育委員会	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会出席	文化財科学班	小林 啓
14	6月11日 (火)	久留米市教育委員会	史跡筑後国府跡整備基本計画の策定に係る指導	埋蔵文化財調査室	入佐友一郎
15	6月25日 (火)	長崎県教育庁学芸文化課	県指定文化財候補（教専寺木造阿弥陀如来立像）の現地調査	学芸研究班	井形 進
16	6月27日 (木)	久山町教育委員会	令和6年度第1回首羅山遺跡調査整備指導委員会出席	学芸研究班	井形 進
17	6月28日 (金)	春日市協働推進部文化財課	令和6年度第1回特別史跡水城跡調査整備会議出席	埋蔵文化財調査室	入佐友一郎
18	7月10日 (水)・8月7日 (水)	諫早市文化振興課	諫早神社木造彫刻詳細調査	学芸研究班	井形 進
19	7月12日 (金)	佐賀県基山町教育委員会	特別史跡基肆城跡保存整備連絡調整会議出席	学芸研究班	入佐友一郎
20	7月18日 (木)	佐賀県基山町教育委員会	第13回基肆城跡保存整備委員会出席	大宰府調査班	宮地聡一郎
				埋蔵文化財調査室	入佐友一郎
21	7月30日 (火)	粕屋町教育委員会	粕屋町史跡等整備検討委員会におけるオブザーバー参加	埋蔵文化財調査室	入佐友一郎
22	7月31日 (水)	宮若市教育委員会社会教育課	国指定史跡竹原古墳現地協議（石室内に発生した担子菌類に関する協議）	文化財科学班	加藤 和歳
23	8月21日 (水)	筑後市教育委員会	第1回筑後市文化財専門委員会出席	企画推進班	小田 和利
24	8月29日 (木)	糸島市地域振興部文化課	第1回糸島市文化財保護委員会への出席	学芸研究班	國生 知子
25	8月30日 (金)	久留米市市教育委員会	史跡筑後国府跡整備基本計画の策定に係る指導助言	埋蔵文化財調査室	入佐友一郎
26	9月 1日 (日)・2日 (月)	長崎県松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土品（隔壁板）の透過X線調査に係る指導・助言	文化財科学班	小林 啓
27	9月 3日 (火)	東峰村教育委員会	天然記念物「東峰村の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没樹木」整備基本計画策定委員会への出席	埋蔵文化財調査室	入佐友一郎

	期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
				所 属	氏 名
28	9月 5日 (木)	直方市教育委員会	国史跡筑豊炭田遺跡群基本設計に係る指導 国史跡筑豊炭田遺跡群基本設計に係る指導	学芸調査室	松川 博一
				埋蔵文化財調査室	入佐友一郎
29	9月 5日 (木)	朝倉市秋月博物館	令和 6 年度朝倉市秋月博物館協議会出席	学芸調査室	松川 博一
30	9月10日 (火)	長崎県教育庁学芸文化課	令和 6 年度第 1 回長崎県文化財保護審議会出席	学芸研究班	井形 進
31	9月17日 (火)	長崎県松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土品（隔壁板）の透過 X 線調査に係る指導・助言	文化財科学班	小林 啓
32	10月 1日 (火)	久留米市教育委員会	史跡筑後国府跡整備基本計画の策定に係る指導	埋蔵文化財調査室	入佐友一郎
33	10月 5日 (土) ・ 6日 (日)	国際日本文化研究センター	共同研究会への参加	学芸研究班	井形 進
34	10月 5日 (土)	東北芸術工科大学	「文化財調査における X 線 C T 活用の実際」の事例報告	文化財科学班	小林 啓
35	10月15日 (火)	福岡市経済観光文化局史跡整備活用課	第 2 回鴻臚館跡整備検討委員会出席	大宰府調査班	宮地聡一郎
				埋蔵文化財調査室	入佐友一郎
36	10月30日 (水)	九州大学大学文書館	展示室の虫害対策に関する指導	文化財科学班	加藤 和歳
37	10月30日 (水)	久留米市文化財保護課	久留米市文化財収蔵資料審議会出席	学芸研究班	國生 知子
38	11月 2日 (土)	兵庫県立考古博物館	「大中遺跡まつり」への古代体験ブース出展	広報普及班	吉浦 貴則 佐久川祐貴
39	11月10日 (日)	福岡県立社会教育総合センター	「社教センターフェスタ」ブース出展等	広報普及班	吉浦 貴則 田中 奨俊 佐久川祐貴
40	11月11日 (月)	粕屋町教育委員会	粕屋町史跡等整備検討委員会オブザーバー参加	埋蔵文化財調査室	入佐友一郎
41	11月15日 (金)	福岡市経済観光文化局文化財活用部史跡整備活用課	令和 6 年度第 1 回国指定史跡比恵遺跡整備基本計画策定検討会への出席	埋蔵文化財調査室	入佐友一郎

	期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
				所 属	氏 名
42	11月21日 (木)	「神宿る島」宗 像・沖ノ島と関 連遺産群保存活 用協議会	国宝沖ノ島出土品X線透過撮影 成果に係る検討会への出席	文化財科学班	加藤 和歳
43	11月27日 (水)	久山町教育委員 会	令和6年度第2回首羅山遺跡調 査整備指導委員会への出席	埋蔵文化財 調査室	入佐友一郎
44	12月10日 (火)	宗教法人 宇佐 神宮	県指定有形文化財南中楼門随神 像の調査	学芸研究班	井形 進 國生 知子
45	12月19日 (木)	直方市教育委員 会	歴史史料保存等事業に関する指 導	学芸調査室 学芸研究班	松川 博一 酒井 芳司
46	12月16日 (月)	八女市教育委員 会	令和6年度第2回八女市岩戸山 歴史文化交流館協議会への出席	学芸調査室	松川 博一
47	12月16日 (月)・ 17日 (火)	甘木歴史資料館	企画展「御利益参詣あさくら 路」の展示助言・協力	学芸研究班	井形 進 國生 知子
48	12月19日 (木)	直方市教育委員 会	令和6年度第1回直方市文化財 等に関する有識者委員会への出 席	学芸調査室	松川 博一
				埋蔵文化財 調査室	入佐友一郎
49	12月20日 (金)	久留米市教育委 員会	史跡筑後国府跡整備基本計画の 策定に係る指導	埋蔵文化財 調査室	入佐友一郎
50	12月26日 (木)	宗像市教育委員 会	令和6年度第1回宗像市文化財 保護審議会への出席	学芸研究班	國生 知子
51	1月19日 (日)	春日市	春日市文化財専門委員会議への 出席	埋蔵文化財 調査室	入佐友一郎
52	1月24日 (金)	大野城市心のふ るさと館	令和6年度第2回大野城心のふ るさと館運営協議会への出席	学芸調査室	松川 博一
53	1月27日 (月)	熊本県美里町教 育委員会	第1回堅志田城跡保存整備検討 委員会出席	埋蔵文化財 調査室	入佐友一郎
54	1月29日 (水)	粕屋町教育委員 会	粕屋町史跡等整備検討委員会に おけるオブザーバー	埋蔵文化財 調査室	入佐友一郎
55	1月31日 (金)	福岡市文化財活 用部史跡整備活 用課	令和6年度第2回比恵遺跡整備 基本計画策定委員会への出席	埋蔵文化財 調査室	入佐友一郎
56	2月 6日 (木)	熊本県美里町教 育委員会	令和6年度第2回堅志田城跡保 存整備検討委員会への出席	埋蔵文化財 調査室	入佐友一郎
57	2月12日 (水)	荏田町教育委員 会	荏田町歴史資料館文化財収蔵庫 等の文化財展示・収蔵施設建設 の事業方針・計画に係る指導 (九歴施設の視察)	学芸調査室	松川 博一
				文化財科学班	加藤 和歳

	期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
				所 属	氏 名
58	2月21日 (金)	大野城市史跡 対策委員会	第2回大野城市史跡対策委員会への出席	埋蔵文化財 調査室	入佐友一郎
59	2月26日 (水)	直方市教育委 員会	令和6年度第2回直方市文化財等に関する有識者委員会への出席	学芸調査室	松川 博一
				埋蔵文化財 調査室	入佐友一郎
60	2月26日 (水)	糸島市地域振 興部文化課	令和6年度第2回糸島市文化財保護委員会への出席	学芸研究班	國生 知子
61	3月11日 (火)	苅田町教育委 員会	「苅田町歴史資料館基本計画（案）」作成等に係る指導（九歴施設の視察）	学芸調査室	松川 博一
				文化財科学班	加藤 和歳
62	3月13日 (木)	久留米市教育 委員会	史跡筑後国府跡整備基本計画策定会議への出席	埋蔵文化財 調査室	入佐友一郎
63	3月19日 (水)	福岡市博物館	福岡市博物館リニューアル事業に対する意見聴取	学芸調査室	松川 博一
64	3月26日 (水)	佐賀県基山町 教育委員会	第14回基肄城跡保存整備委員会への出席	埋蔵文化財 調査室	入佐友一郎
				大宰府調査班	宮地聡一郎
65	3月27日 (木)	那珂川市文化 財専門委員会	令和6年度第3回那珂川市文化財専門委員会への出席	学芸調査室	松川 博一
66	3月28日 (金)	福岡市文化財 活用部史跡整 備活用課	令和6年度第3回国指定史跡比恵遺跡整備基本計画策定検討委員会への出席	埋蔵文化財 調査室	入佐友一郎

(11) 刊行物一覧

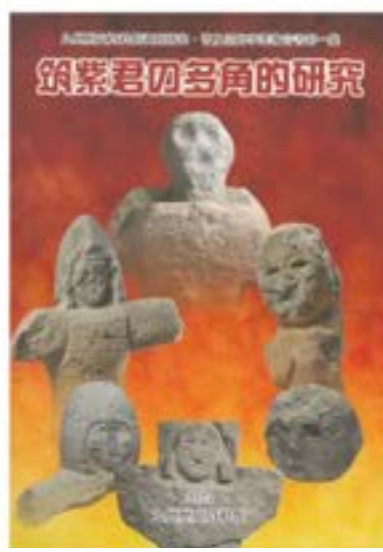
No.	書名	刊行 月
1	『九州歴史資料館研究論集50』	3月
2	『九歴だよりN0. 59』	4月
3	『九歴だよりNo. 60』	10月
4	『特別展 筑紫君一族史』	10月
5	『企画展 高良山の仏教美術』	1月
6	『九州歴史資料館解説シート94 福岡鉄道遺産ものがたり10－西日本鉄道編－』	8月
7	『九州歴史資料館解説シート95 シルクロードの文化遺産（1）－オアシスの道－』	9月
8	『九州歴史資料館解説シート96 船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2025－2026』	3月
9	福岡県文化財調査報告書第287集『十郎丸長谷古遺跡Ⅱ』	3月
10	福岡県文化財調査報告書第288集『福岡県の装飾古墳』	3月
11	国道210号うきはバイパス第27集『関戸遺跡』	3月
12	『大野城跡Ⅰ－総括報告書 遺構編－』	3月
13	九州歴史資料館調査研究・普及活用事業報告書第一集『筑紫君の多角的研究』	3月
14	『西新町遺跡出土品再整理事業報告書』	3月
15	『福岡県の飛行機用掩体』	3月
16	『九州北部の霊山の尊像と交流の諸相の研究-神仏・中央と地方・日中の関わりを中心に-』	3月



特別展「特別展 筑紫君一族史」
図録



企画展「企画展 高良山の仏教美術」
図録



九州歴史資料館調査研究・普及活用
事業報告書第一集『筑紫君の多
角的研究』

(12) 交流事業

◎日韓学術文化交流事業

福岡県教育委員会では、百済・新羅等の調査研究を行っている、韓国国立文化遺産研究院との間で学術交流事業を行っており、5年度には窓口となる国立羅州文化遺産研究所と「日・韓文化交流史に関する共同研究」についての覚書を取り交わし、相互派遣を行うこととしている。

6年度は、国立羅州文化遺産研究所学芸研究室長の蘇裁潤氏を5月22日（水）～6月5日（水）に招聘し、「古代九州地域渡来人の物質文化交流様相研究」というテーマで、福岡県をはじめ九州各地の特に古代瓦の資料を中心に調査を行った。6月4日（火）には、日韓文化交流事業講演会を開催し、蘇裁潤氏に「百済初期瓦と地上建物跡の現状と位相－風納土城を中心に－」と題した発表をいただいた。

また韓国へは、埋蔵文化財調査室の宮地聡一郎を、9月23日（月）～10月3日（水）に派遣した。青銅器時代の土器や支石墓を中心に調査したほか、各地の遺跡や博物館等の視察を行った。9月30日（月）には、国立羅州文化遺産研究所にて「韓半島無文土器系土器の出現と展開に見る弥生時代のはじまり」と題した発表を行った。

(13) 協議会等

◎九州歴史資料館協議会

令和6年8月5日（月）に木川会長 外11名の委員が出席して協議会を開催した。

○協議・報告事項

- 1 報告事項 5年度事業報告 5年度九州歴史資料館自己評価表（実施段階）
- 2 協議事項 6年度事業計画、6年度九州歴史資料館自己評価表（計画段階）

九州歴史資料館協議会委員名簿

令和6年6月1日現在

	氏 名	所 属
(会長)	木川 りか	九州国立博物館博物館科学課長
(副会長)	中野 等	福岡市博物館総館長
委 員	秋永 晃生	小郡市教育委員会教育長
	植野 かおり	公益財団法人立花財団 立花家史料館長
	山野 善郎	有限会社建築史塾Archist代表取締役
	石田 智子	鹿児島大学准教授
	河上 麻由子	大阪大学大学院准教授
	井上 和信	太宰府市教育委員会教育長
	富岡 優子	北九州市立自然史・歴史博物館学芸員
	辻 未央	特定非営利活動法人宇美こども子育てネット・うーみん副代表理事
	角 浩行	前伊都国歴史博物館館長
	馬場 基	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長
	山本 拓	小郡市立三国中学校長
	日高 道子	筑紫野市立吉木小学校長

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿革

昭和43年 7月 1日	大宰府史跡発掘調査指導委員会が発足し、第1回委員会が開催される。
昭和44年 9月 5日	福岡県が、九州歴史資料館設置計画の基本構想を発表
昭和46年 3月 8日	太宰府天満宮が九州歴史資料館・国立博物館用地として社有地約14万㎡を寄贈 福岡県は九州歴史資料館を建設することとし、建設工事に着手
昭和47年 3月	建設工事竣工（落成式）
昭和47年 4月	「福岡県公の施設及び管理に関する条例」に基づき九州歴史資料館設置 「九州歴史資料館組織規則」制定 副館長以下19名発令
昭和47年 5月	鏡山猛、初代館長に就任
昭和47年11月	「九州歴史資料館協議会規則」制定（委員15名を委嘱）
昭和48年 2月	「九州歴史資料館の利用に関する規則」制定
2月24日	九州歴史資料館開館（展示室一般公開開始まる）
昭和49年 8月	求菩提資料館開館
昭和50年 9月 4日	博物館相当施設（相当施設第9号）
昭和53年10月	大宰府史跡発掘調査10周年記念特別展「一甦る遠の朝廷—大宰府」開催
昭和56年 4月	田村圓澄、第二代館長に就任
昭和59年 2月	開館10周年記念特別展「国宝観世音寺鐘・妙心寺鐘とその時代」開催 開館10周年記念シンポジウム「古代の西海道と大宰府」開催
昭和60年 4月 1日	「九州歴史資料館条例」施行 求菩提資料館・甘木歴史資料館・柳川古文書館を分館とする
昭和60年 5月25日	甘木歴史資料館開館
昭和60年10月 1日	柳川古文書館開館
昭和63年 9月	大宰府史跡発掘調査20周年記念特別展「発掘が語る遠の朝廷—大宰府」開催
平成 2年 9月	「とびうめ国体」の本県開催に並行し、特別展「古代の福岡」開催（～11月）
平成 5年 4月	吉久勝美、第三代館長に就任
平成 5年10月	開館20周年記念特別展「日本の鬼瓦」開催
平成 8年 4月	高橋良平、第四代館長に就任
平成 8年12月26日	公開承認施設（第51号）
平成 9年 6月	福岡県教育委員会教育長 光安常喜、九州歴史資料館長に兼務発令
平成10年10月	大宰府史跡発掘調査30周年記念特別展「大宰府復元」開催
平成14年 4月	福岡県教育委員会教育長 森山良一、九州歴史資料館長に兼務発令
平成15年 1月	開館30周年企画展示「大宰府へ、こころが動き、ものが動く」開催
平成15年 8月	特別展「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」開催
平成16年 4月	特別展「大宰府へ、くになが動き、ものが動く」開催
平成18年11月	特別展「観世音寺」開催
平成20年 4月	西谷 正、第七代館長に就任 組織規則の一部改正；課制を廃止し、室・班制とする 小郡市三沢に新九州歴史資料館建設工事着手
平成20年10月	大宰府史跡発掘調査40周年記念事業開催（～12月） 『都府楼』刊行記念講演会、シンポジウム、企画展示など
平成21年 6月	新九州歴史資料館建設工事竣工
平成22年 3月	特集展示「九歴の歩み」開催
平成22年 7月	組織移転（太宰府市→小郡市）

平成22年11月20日	開館記念式典・一般公開開始（21 日～） 開館記念特別展「大宰府ーその栄華と軌跡ー」開催（～ 1 月）
平成22年12月	開館記念シンポジウム「大宰府と西海道ー古代の役所と人々のくらしー」開催
平成23年 2 月	常設展公開開始
平成23年 4 月	文化財調査室（文化財調査班、保存管理班）設置
平成23年 7 月25日	登録博物館（第22号）
平成23年11月	特別展「発掘された日本列島2011」開催（～ 12 月）
平成24年 1 月	移転開館 1 周年記念企画展「北部九州の霊山と経塚」開催（～ 2 月）
平成24年10月	特別展「長崎街道ー世界とつながった道ー」開催（～ 12 月）
平成25年 1 月	企画展「聖地四王寺山」開催（～ 3 月）
平成25年 4 月	荒巻俊彦、第八代館長に就任 学芸調査室に広報普及班設置、学芸普及班は学芸研究班に名称変更、総務室に総務班設置
平成25年 9 月	開館40 周年・移転開館 3 周年記念特別展 「戦国武将の誇りと祈りー九州の覇権のゆくえー」開催（～ 11 月）
平成25年10月	開館40 周年・移転開館 3 周年記念イベント開催
平成26年 1 月	企画展「五卿と志士ー維新前夜の太宰府ー」開催（～ 2 月）
平成26年 4 月	杉光 誠、第九代館長に就任
平成26年 8 月	企画展「黒田官兵衛と城」開催（～ 9 月） 企画展「水城築堤1350 年記念企画展「徹底解説!! 水城のすべて」開催（～ 9 月）
平成26年10月	特別展「福岡の神仏の世界ー北部九州に華ひらいた信仰と造形ー」開催（～ 11 月）
平成26年11月	入館者10万人達成記念式典
平成27年 9 月	企画展「貝原益軒ー大宰府研究の先賢たちー」開催（～ 10 月）
平成27年10月	大野城築城1350 年記念・移転開館 5 周年記念特別展 「四王寺山の1350 年ー大野城から祈りの山へー」開催（～ 12 月）
平成27年10月	移転開館 5 周年記念イベント開催
平成28年 9 月	特別展「八女の名宝」開催（～11月）
平成28年11月	企画展「大宰府の役人と文房具」開催（～ 1 月）
平成29年 8 月	特別展「霊峰英彦山」開催（～ 9 月）
平成29年10月	企画展「福岡県の城」開催（～12月） 企画展「大宰府を語るサイエンス」開催（～12月）
平成30年 2 月	企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」開催（～ 4 月）
平成30年 4 月	特別展「大宰府への道」開催（～ 6 月）
平成30年 6 月	企画展「幕末の城ー近世の沿岸警備と幕末期城郭ー」開催（～ 8 月）
令和元年10月	特別展「久留米ーその歴史と文化ー」（～12月）
令和 2 年 1 月	企画展「太宰府天満宮の境内絵図ーさいふまいの江戸・明治ー」（～ 2 月）
令和 2 年 2 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～ 5 月）
令和 2 年 4 月	吉田法稔、第十代館長に就任
令和 2 年10月	移転開館10周年記念特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」開催（～11月）
令和 2 年11月 8 日	移転開館10周年記念イベント開催（感染症拡大防止のため式典は縮小実施）
令和 2 年12月	企画展「朝鮮通信使と福岡ー福岡県朝鮮通信使総合調査成果展ー」開催（～ 2 月）
令和 3 年 4 月	組織改編により文化財企画推進室を新設し、企画推進班を設置 保存管理班を学芸調査室から文化財企画推進室に移設 文化財調査室を埋蔵文化財調査室に名称変更
令和 3 年 4 月28日	城戸秀明、第十一代館長に就任
令和 3 年 5 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～ 6 月）
令和 3 年 8 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～ 9 月）

令和3年10月	特別展「九州山岳霊場遺宝―海を望む北西部の山々から―」（～12月）
令和4年4月	組織改編により、広報普及班を学芸調査室から文化財企画推進室へ移設 保存管理班を文化財科学班に名称変更し、文化財企画推進室から学芸調査室へ 移設、調査研究班を大宰府調査班へ名称変更
令和4年10月	特別展「京都平野と豊の国の古代」開催（～12月）
令和5年1月	企画展「尾形家三代―探幽に学んだ福岡藩お抱え絵師―」開催（～3月）
令和5年8月	開館50周年記念講演会「歴史の視点から九州 そして日本の未来を考える」開催
令和5年10月	特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」開催（～12月）
令和5年12月	企画展「重要文化財が語る古代大宰府」開催（～3月）
令和6年4月28日	吉田法稔、第十二代館長に就任
令和6年10月	特別展「筑紫君一族史」開催（～12月）
令和7年1月	企画展「高良山の仏教美術」開催（～3月）

（2）施設概要

1) 本館棟	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、地上2階 展示室、図書閲覧室、研修室、会議室、保存科学諸室、文化財整理諸室、 特別収蔵庫、図書収蔵庫、調査研究室、写真室、文化情報広場
2) 一般収蔵庫棟	鉄骨造、地上2階 木器保存処理室・一般収蔵庫
3) 新収蔵庫棟	軽量鉄骨造、地上1階 新収蔵庫
4) 敷地面積	43,438.62㎡
5) 延床面積	13,840.79㎡（本館：9,475.92㎡、一般収蔵庫：2,326.15㎡、新収蔵庫： 2,038.72㎡）
6) 建設費	約36億円（本館・一般収蔵庫）

（3）予算（6年度）

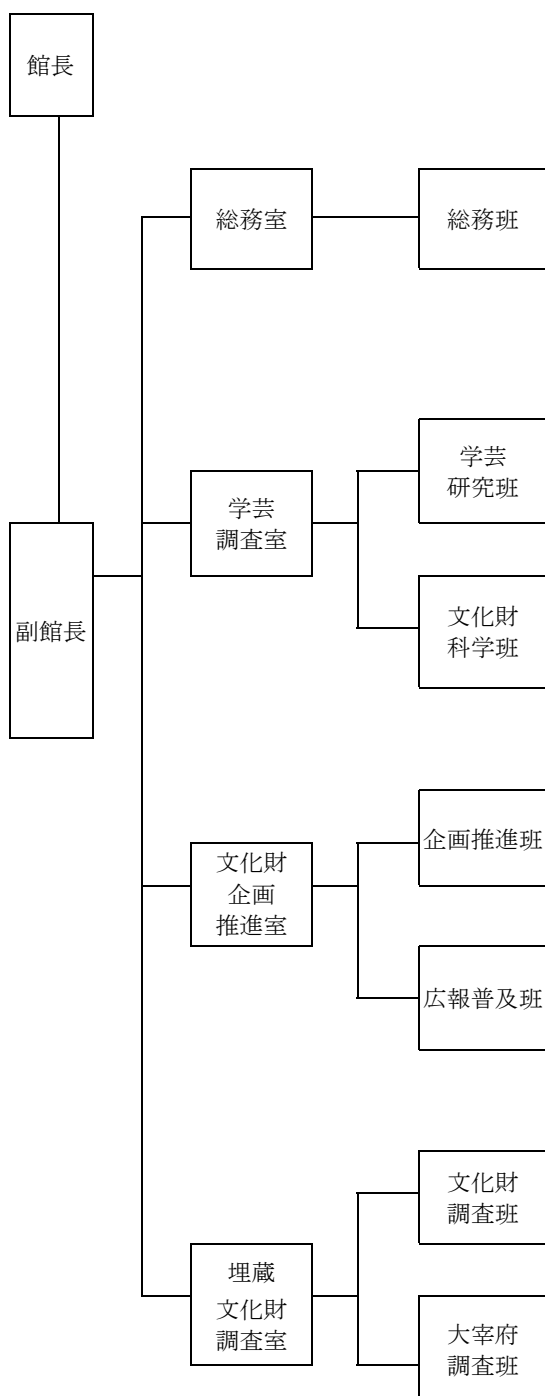
当館の事業費総額は361,032千円で、内訳別にみると次のとおりである。

1	九州歴史資料館費	330,897千円
	九州歴史資料館運営費	138,524千円
	歴史資料調査研究費	1,829千円
	歴史資料等収集整備費	849千円
	九州歴史資料館展示費	1,689千円
	特別展示事業費	9,579千円
	県史史料管理公開事業費	9,187千円
	九州歴史資料館整備費	161,037千円
	古代日本の「西の都」魅力発信費	8,203千円
2	文化財保護費	30,135千円
	大宰府史跡発掘調査費	30,135千円

※受託・執行委任事業は除く

(4) 組織・職員 (令和6年4月28日現在)

①九州歴史資料館



所 属	職 名	氏 名	摘 要
館 長		吉 田 法 稔	
副館長		吉 村 靖 徳	
総務室	企画主幹		山 下 雄 二 総務室長
	総務班	企画主査	岡 本 裕 子 総務班長
		事務主査	徳 永 裕 美
		事務主査	池松 幸一郎
		主事	原 口 美 紀
学芸調査室	企画主幹		松 川 博 一 学芸調査室長
	学芸研究班	参事補佐	井 形 進 学芸研究班長
		参事補佐	酒 井 芳 司
		参事補佐	國 生 知 子
		企画主査	遠 藤 啓 介
	文化財科学班	参事補佐	加 藤 和 歳 文化財科学班長
		企画主査	小 林 啓
文化財企画推進室	企画主幹		秦 憲 二 文化財企画推進室長
	企画推進班	企画主幹	森 井 啓 次 文化財企画推進室長補佐兼企画推進班長
		技術主査	小 田 和 利
		主任技師	渡 部 邦 昭
	広報普及班	指導主事兼企画主査	吉 浦 貴 則 広報普及班長
		指導主事兼事務主査	田 中 奨 俊
		長期研修員	佐久川 祐貴
埋蔵文化財調査室	企画主幹		吉 田 東 明 埋蔵文化財調査室長
	企画主幹		入 佐 友 一 郎 埋蔵文化財調査室長補佐
	文化財調査班	参事補佐	進 村 真 之 文化財調査班長
		企画主査	坂 本 真 一
		技 師	出 見 優 人
	大宰府調査班	参事補佐	宮 地 聡 一 郎 大宰府調査班長
		企画主査	坂 元 雄 紀
		技術主査	小 嶋 篤

②九州歴史資料館研究論集編集委員会

委員長	副館長	吉村 靖徳	委 員	総務室長	山 下 雄 二
委 員	学芸調査室長	松川 博一	委 員	埋蔵文化財調査室長	吉 田 東 明
委 員	文化財企画推進室長	秦 憲 二	事務局長	大宰府調査班長	宮 地 聡 一 郎

(5) 関係法規

○九州歴史資料館条例

昭和60年1月21日福岡県条例第4号)

最終改正 令和5年 福岡県条例第5号

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条の規定に基づき、歴史資料の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、併せてこれを展示し、もって文化財の保護と文化財愛護思想の普及に資するため、歴史資料館を設置する。

(名称及び位置並びに分館の設置)

第2条 歴史資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
九州歴史資料館	小郡市

2 九州歴史資料館に分館を置き、その名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
求菩提資料館	豊前市
甘木歴史資料館	朝倉市
柳川古文書館	柳川市

(利用の承認等)

第3条 福岡県公の施設の設置及び管理に関する条例(昭和39年福岡県条例第5号)第3条から第6条まで及び第9条の規定は、九州歴史資料館の利用の承認等について適用する。この場合において、第4条第1項中「知事若しくは委員会から公の施設の管理に関し委任を受けた者」とあるのは、「指定管理者」と読み替えるものとする。

(九州歴史資料館協議会)

第4条 博物館法(昭和26年法律第285号)第23条第1項の規定に基づき、九州歴史資料館協議会(次項及び第六項において「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下この条において単に「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

3 委員の定数は、15人以内とする。

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 前各項に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(使用料)

第5条 九州歴史資料館を利用する者は、別表第1各表の区分に応じ、当該各表に掲げる金額の使用料を納めなければならない。

2 前項の規定により納付した使用料は、還付しない。ただし、規則で定める場合に該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(手数料)

第6条 資料の複写を依頼しようとする者は、別表第2の区分に応じ、同表に掲げる金額の手数料を納めなければならない。

(使用料又は手数料の減免)

第7条 知事は、規則で定める場合に該当するときは、使用料又は手数料を減額し、又は免除することができる。

(適用除外)

第8条 前3条の規定は、第2条第2項に規定する分館(以下単に「分館」という。)については、適用しない。

(指定管理者による管理)

第9条 分館の管理に関する業務のうち次に掲げるものは、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であって教育委員会が指定する者(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

一 分館の利用の許可に関する業務

二 分館の諸施設の維持及び保守に関する業務

三 前2号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務

(指定管理者の指定の手続)

第10条 指定管理者の指定を受けようとする者は、教育委員会規則で定める申請書に、次に掲げる書類を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

一 事業計画書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会規則で定める書類

2 教育委員会は、前項の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当する者の中から最も適切に分館の管理を行うことができると認めた者を指定管理者として指定するものとする。

一 事業計画の内容が、住民の平等な利用を確保することができるものであること。

二 事業計画の内容が、分館の効用を最大限に発揮させるとともに、効率的な管理ができるものであ

- ること。
- 三 分館の管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基盤を有しているものであること。
- 四 法令並びに関係条例及び規則の規定を遵守し、適正な管理ができるものであること。
- 五 その他教育委員会が分館の設置の目的を達成するために必要と認めるものとして別に定める事項
- 3 教育委員会は、指定管理者の指定をしたとき、及び指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公示するものとする。

(秘密保持義務)

第11条 指定管理者及び分館の管理に関する業務に従事する者(以下「従事者」という。)は、個人情報が適切に保護されるよう配慮するとともに、分館の管理に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、又は指定を取り消され、及び従事者の職務を退いた後においても、同様とする。

(協議)

第12条 この条例に定めるもののほか、管理に要する経費その他必要な事項は、教育委員会と指定管理者が協議して定める。

(規則への委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則(抄)

(施行期日)

この条例は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則 (令和5年 福岡県条例第5号)

(施行期日)

この条例は、令和5年4月1日 から施行する。

別表第1 (第5条関係)

1 九州歴史資料館が主催して展示する歴史資料館の観覧料

区	分	金額 (1回につき)
個人で観覧する場合	一般	210円
	大学生・高校生	150円
20人以上の団体で観覧する場合	一般	150円
	大学生・高校生	100円

備考

- この表において「大学生・高校生」とは、大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部、専修学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。
- この表において「一般」とは、大学生・高校生及び中学生(中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の中学部又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。)以外の者であって、15歳以上の者をいう。

2 展示室の使用料

区	分	金額 (1日につき)
入場料を徴収しない場合	第2展示室	3,510円
	第4展示室	8,500円
入場料を徴収する場合	第2展示室	5,260円
	第4展示室	12,750円

3 会議室及び研修室の使用料

区	分	金額 (1時間につき)
会議室		390円
研修室1		390円
研修室2		390円
研修室3		390円

備考 使用時間に1時間に満たない端数があるときは、当該端数を1時間として計算する。

別表第2 (第6条関係)

区	分	金額 (1枚につき)
電子式複写(白黒)		10円
マイクロフィルムから		10円

○九州歴史資料館の利用、指定管理者の指定等に関する規則

(昭和48年2月20日教育委員会規則第4号)

最終改正 令和6年教育委員会規則第5号

(目的)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。)第13条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の利用、指定管理者の指定等について定めることを目的とする。

(休館日)

第2条 資料館の休館日は、次のとおりとする。

- 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日にあたる場合は、その日後においてその日に最も近い休日でない日

- 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、九州歴史資料館長等(分館にあっては指定管理者。以下「館長等」という。)が必要と認めた場合は、臨時に休館又は開館することができる。ただし、この場合は、館長等がその都度あらかじめ日時を公示しなければならない。

3 前項の規定により、指定管理者が分館を臨時に休館又は開館しようとするときは、あらかじめ教育委

員会の承認を受けるものとする。

(開館時間)

第3条 資料館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館は、午後4時までとする。

2 館長等は、特別の事情があるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。

3 前項の規定により、指定管理者が分館の開館時間を変更しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

(利用の申込)

第4条 資料館(分館を除く。)の展示室、会議室及び研修室を利用しようとする者は、別に定める利用申込書を、事前に九州歴史資料館長に提出しなければならない。

(利用申込の取消又は変更)

第5条 前条の申込みをした者が、利用を中止し、又は利用内容を変更しようとするときは、直ちに九州歴史資料館長にその旨を通知しなければならない。

(利用の承認)

第6条 九州歴史資料館長は、第4条の使用申込が提出されたときは、速やかにこれを審査して使用の承認又は不承認を決定し、申込者に通知しなければならない。

(資料の複写)

第7条 資料の複写を必要とする場合は、九州歴史資料館長が別に定めるところにより、これを依頼することができる。ただし、次の各号の一に該当する場合は、九州歴史資料館長は、複写を認めないことがある。

一 著作権法(昭和45年法律第48号)に違反するおそれがあると認められるとき。

二 資料館の管理上支障があると認められるとき。

三 その他九州歴史資料館長が複写を不相当と認めたとき。

2 前項の複写は、九州歴史資料館に設置された複写機器により行うものとする。

(禁止行為)

第8条 館内(建物内及びその用地内をいう。以下同じ。)においては、次の各号に掲げる行為をしてはならない。

一 面会若しくは寄付の強要、乱暴な言動又はけん悪の情を催す行為

二 示威又はけん騒にわたる行為

三 施設設備等の物件を汚損し、若しくはき損する行為又は館内の美観を損ずる行為

四 通行の妨害となる行為

五 爆発又は引火のおそれがあるものの付近において火気を取り扱う行為

六 指定された場所以外で喫煙する行為

七 その他館内管理上不相当と認められる行為

(違反に対する措置)

第8条の2 館長等は、前条に掲げる禁止行為を行った違反者に対し、違反事項の是正、館内への入場の拒否及び館内からの退去を命じ、又はその他必要な措置をとることができる。

(資料の館外貸出し)

第9条 資料の館外貸出しは、原則として行なわないものとする。ただし、博物館、図書館、学校、官公署、その他館長等が適当と認めたものに対しては、この限りでない。

2 前項ただし書に掲げるものが資料の館外貸出を受けようとする場合は、別に定めるところにより、館長等の許可を受けなければならない。

3 資料の館外貸出しを受けたものは、館長等の指示するところにより、管理に当らなければならない。

4 館外貸出しを受けた資料は、これを他に転貸してはならない。

5 資料の貸出期間は、品目によって館長等がその都度定めるものとする。

(損害の賠償)

第10条 観覧者、利用者又は資料の館外貸出しを受けたものが、自己の責に帰すべき理由により、施設設備、展示品又は資料を損傷し、又は滅失したときは、館長等の指示を受けてこれを原形に復し、又は館長等が定める相当の代価をもって損害を賠償しなければならない。

(寄贈又は寄託)

第11条 資料館は、資料の寄贈又は寄託をうけることができる。

2 資料館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、別に定めるところにより、館長等にその旨申出るものとする。

3 館長等が寄贈又は寄託を受けることを決定した場合は、本人にこの旨を通知するものとする。

(寄贈資料の取扱い)

第12条 寄贈を受けた資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を標記し、永くその篤志を伝えるものとする。

(寄託資料の取扱い)

第13条 寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)の寄託期間は、その都度館長等が寄託者と協議して定めるものとする。

2 寄託資料は、資料館所蔵の資料と同一の取扱いとする。

3 寄託資料は、寄託者の請求又は資料館の都合によりこれを返還することがある。

4 寄託資料が天災その他不可抗力によって滅失又は損傷したときは、資料館は損害賠償の責を負わない。

(申請書及び添付書類)

第14条 条例第10条第1項の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第10条第1項第2号の教育委員会規則で定め

る書類は、次に掲げる書類とする。

- 一 同種の施設の管理及び運営に係る活動実績報告書
- 二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類
(その他)

第15条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、館長等が別に定める。

附 則(抄)

この規則は、昭和48年2月24日から施行する。

附 則 (平成22・6・30教育委員会規則第10号)

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

附 則 (令和6年教育委員会規則第5号)

この規則は、公布の日から施行する。

○九州歴史資料館組織規則

(昭和47年4月1日教育委員会規則第2号)

最終改正 令和5年 教育委員会規則第1号

(趣旨)

館 長	教育長の命を受け、資料館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 理 事	上司の特命に係る事務を処理する。
副 館 長	館長を補佐し、館長が不在のとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
参 事	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
参事補佐	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
企画主幹	上司の命を受け、企画・調整等に関する事務に関し、館長又は副館長を補佐する。
主 幹	上司の命を受け、資料館の事務を処理するとともに、培われた知識、技術、経験を活かし、上司を補佐する。
指導主事	上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
社会教育主事	上司の命を受け、社会教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
企画主査	上司の命を受け、調査、計画立案等の事務を処理する。
指導主査	上司の命を受け、事務を処理するとともに、培われた知識、技術、経験を活かし、職員を指導する。
事務主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、事務を処理する。
技術主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、技術を処理する。 上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項を処理する。

主任主事	上司の命を受け、複雑な事務をつかさどる。
主任技師	上司の命を受け、複雑な技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について複雑な専門的事項をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
技 師	上司の命を受け、技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる。
主任技能員	上司の命に従い、高度な技能を要する労務に従事する。
技 能 員	上司の命に従い、労務に従事する。

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第3条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の組織その他必要な事項を定めるものとする。

(職員の職)

第2条 資料館職員の職として、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

(所掌事務)

第3条 資料館の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 古文書、典籍等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 二 美術工芸品、民俗資料等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 三 古文書、典籍、美術工芸品、民俗資料等の展示及び文化財愛護思想の普及に関すること。
- 四 考古資料の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 五 考古資料の展示に関すること。
- 六 歴史資料の科学的保存処理に関すること。
- 七 史跡の発掘調査及び研究に関すること。
- 八 史跡に関する歴史資料の収集、保管、調査、研究、展示及び整備に関すること。
- 九 公印の管守並びに職員の身分及び服務並びに文書の收受、発送、編集及び保存、公文書の開示等に関すること。
- 十 予算並びに税外諸収入の収入並びに経費の支出並びに物品の出納及び保管並びに現金及び有価証券等の保管に関すること。
- 十一 九州歴史資料館協議会に関すること。
- 十二 職員の研修及び福利厚生に関すること。
- 十三 施設設備の管理に関すること。
- 十四 埋蔵文化財の発掘調査受託事業等の事務に関すること。

十五 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

(補則)

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則 (抄)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (令和5年教育委員会規則第1号)

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館協議会規則

(昭和60年3月30日教育委員会規則第4号)

最終改正 平成24年 教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第4条第1項に規定する九州歴史資料館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長各1名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によるものとし、任期は1年とする。ただし、再選することができる。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第3条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。

2 資料館の館長は、必要と認めるときは、会長に協議会の招集を求めることができる。

(議決)

第4条 協議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き議決することができない。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第5条 協議会の庶務は、九州歴史資料館において処理する。

(補則)

第6条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営及び会議に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則 (抄)

(施行期日等)

1 この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日において九州歴史資料館協議会委員に任命されている者については、別に辞令が発せられない限り改正後の九州歴史資料館

協議会規則(以下「改正後の規則」という。)第四条の規定により任命されたものとみなし、当該委員の期間は改正後の規則第五条の規定による委員の期間に通算する。

附則 (平成24年3月28日教育委員会規則第1号)

(施行期日)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館の使用料及び手数料に関する規則

(平成22年6月30日福岡県規則第30号)

最終改正 令和3年 県規則第26号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。)に規定する九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の使用料及び手数料に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収時期)

第2条 使用料(条例第5条第1項の使用料をいう。以下同じ。)は、資料館の利用の承認の際に徴収する。ただし、国又は地方公共団体が利用する場合にあっては、当該利用の後に徴収することができる。

(使用料の還付)

第3条 条例第5条第2項ただし書の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同項ただし書の規定により還付する使用料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 天災地変その他資料館の利用の承認を受けた者の責めに帰することができない理由で当該利用ができなくなった場合

当該利用に係る使用料の全額

二 前号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合

知事が必要と認める額

(手数料の徴収時期)

第4条 手数料(条例第6条の手数をいう。以下同じ。)は、資料の複写の依頼を受けるときに徴収する。

(使用料及び手数料の減免)

第5条 条例第7条の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額又は免除(「以下「減免」という。)」をする使用料又は手数料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する

- 高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒が教育上の目的のために教職員に引率されて観覧（資料館が主催して展示する歴史資料の観覧をいう。以下同じ。）をする場合 当該観覧に係る観覧料（条例別表第一の一の表の観覧料をいう。以下同じ。）の全額
- 二 学校教育法に規定する幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校又は特別支援学校の幼児、児童又は生徒を教育上の目的のために引率する教職員が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 三 児童福祉施設（児童福祉法（昭和22年法律164号）第7条第1項に規定するものをいう。以下同じ。）に入所又は通所している少年（同法第4条第3号に規定する少年をいう。以下同じ。）が教育上の目的のために児童福祉施設の職員に引率されて観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 四 児童福祉施設に入所又は通所している幼児（同法第4条第2号に規定する幼児をいう。）又は少年を教育上の目的のために引率する児童福祉施設の職員が観覧をする場合 当該観覧料に係る観覧料の全額
- 五 学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 六 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 七 療育手帳制度要綱（昭和48年9月27日厚生省発児第156号）に規定する療育手帳（以下単に「療育手帳」という。）の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 八 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 九 福岡県男女共同参画センター、福岡県人権啓発情報センター及び福岡県総合福祉センターの設置及び管理に関する条例施行規則（平成8年福岡県規則第55号）第9条第5号に規定する身体障害者若しくは身体障がいのある人、療育手帳の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令（昭和25年政令第155号）第6条第3項に規定する1級若しくは2級の精神障害者（以下「障がいのある人」と総称する。）の介護人が当該障がいのある人とともに観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十 65歳以上の者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十一 県又は県教育委員会の主催する行事の用に供するため、入場料を徴収して展示室、会議室又は研修室（以下「展示室等」という。）の使用をする場合 当該使用に係る使用料の50パーセントに相当する額
- 十二 前号の用に供するため、入場料を徴収しないで展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十三 学校教育法第1条に規定する学校が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十四 地方公共団体が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十五 県の機関が資料の複写を依頼する場合 当該複写に係る手数料の全額
- 十六 前各号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合 知事が必要と認める額
- 十七 中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧する場合 当該（減免の申請）
- 第6条 前条第1号から第4号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する引率をする者は、九州歴史資料館観覧料免除申請書（様式第1号）を知事に提出しなければならない。
- 2 前条第5号から第10号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する者（前条第9号に該当する場合にあっては、障がいのある人）は、これらの号に該当することを証明することができる書類を資料館の職員に提示しなければならない。
- 3 前条第11号から第14号までのいずれかに該当する場合の使用料の減免を受けようとする者は、九州歴史資料館使用料減免申請書（様式第2号）を知事に提出しなければならない。
- 4 前条第15号に該当する場合の手数料の免除を受けようとする者は、九州歴史資料館複写手数料免除申請書（様式第3号）を知事に提出しなければならない。
- 5 前条第16号に該当する場合の使用料又は手数料の減免を受けようとする者は、別に指示する方法により申請しなければならない。
- 附 則(抄)
- この規則は、平成22年7月1日から施行する。
- 附 則（令和3年県規則第26号）
- この規則は、公布の日から施行する。

3 諸 統 計

(1) 入館者状況

ア 6年度入館者状況

期 間	開館日数	入館者数	1日平均入館者数
令和6年4月1日から 令和7年3月31日まで	303日	50,781人	168人

イ 過去5年間の入館者推移

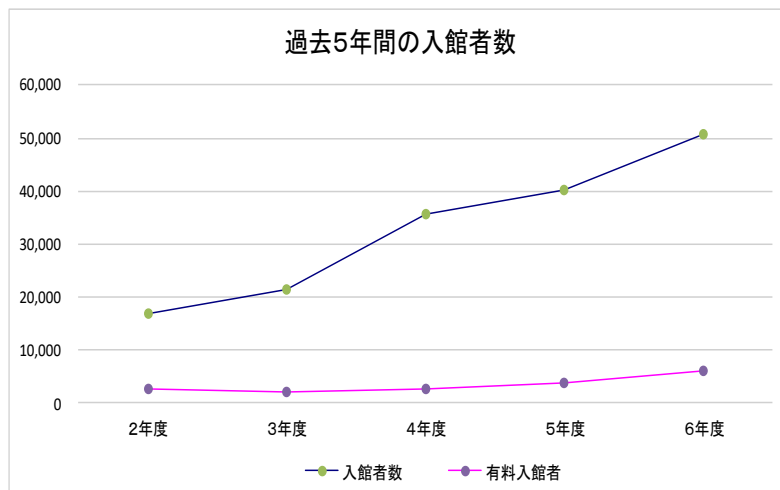
単位・人

年度 区 分	開 館 日 数	合 計 入館者数	合 計 有料入館者数	合 計 入 館 者 内 訳			1日平均 入館者数
				大 人	高大生	中学生以下	
2年度	266	16,939	2,622	15,595	314	1,030	64
3年度	238	21,417	2,044	17,581	429	3,407	90
4年度	306	35,496	2,704	29,678	913	4,905	116
5年度	307	40,269	3,647	34,856	824	4,589	131
6年度	303	50,781	6,009	45,009	880	4,892	168

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、
令和2年は2月28日～5月18日、令和3年は5月11日～6月20日、8月6日～9月13日 臨時閉館

ウ 過去5年間の入館者推移

単位・人



(2) 収蔵資料・図書

< 寄贈等資料 >

考古資料 287,373 点 歴史資料 129,391 点

< 図 書 >

購 入 5,382 冊 寄 贈 185,319 冊

4 日 誌 抄（6年度）

年 月 日	内 容
令和6年	
4月 1日（月）	パネル展「保存科学成果展－船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2022～2023－」（～6月30日（日）） 特集展示「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくり2024－」（～7月15日（月・祝）） 私の成果展「九歴学びの成果展」（～8月12日（月））
4月21日（日）	桜コンサート（共催：桜コンサート実行委員会）
5月 5日（日）	ボランティアイベント「こどもの日イベント こども工作体験」
5月22日（水）	ボランティアイベント「大人組紐講座 基礎編」
6月 1日（土）	ミュージアムナイト①
6月12日（水）	埋蔵文化財安全衛生講習会
7月 2日（火）	パネル展「世界遺産『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」（～9月8日（日））
7月 3日（水）	文化財基礎研修
7月 5日（金）	大宰府史跡調査研究指導委員会
7月17日（水）	特集展示「やきもの はじめの一步！③やきものの文様」（～10月6日（日））
7月19日（金）	第2回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
7月30日（火）	中・高生対象歴史ゼミナール（～8月1日（木））
8月 2日（金）	史跡等整備基礎研修
8月 3日（土）	キッズミュージアム「きゅうれき絵画教室」（～8月4日（日））
8月 5日（月）	九州歴史資料館協議会
8月 6日（火）	特集展示「福岡鉄道遺産ものがたり⑩～西日本鉄道編～」（～9月29日（日））
8月14日（水）	私の成果展「いろんな目でみてみたら」（～10月27日（日））
8月17日（土）	ボランティアイベント「子ども組紐講座」
8月20日（火）	教員のための博物館の日in九歴
8月26日（月）	博物館実習（～9月5日（木））
9月10日（火）	パネル展「シルクロードの文化遺産①～オアシスの道～」（～12月8日（日））
9月11日（水）	ボランティアイベント「大人組紐講座 上級編」
9月20日（金）	第3回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
9月27日（金）	有形文化財（建造物）基礎研修
10月 6日（日）	ボランティアイベント「白・茶綿の摘み取り体験・手織りコースターづくり」
10月12日（土）	特別展「筑紫君一族史」（～12月8日（日））
10月17日（木）	日本遺産古代日本の「西の都」モニターイベント（主催：古代日本の「西の都」日本遺産活性化協議会）
10月20日（日）	特別展開催記念茶会（共催：小郡市文化協会裏千家）
10月25日（金）	第4回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
10月27日（日）	アクロスミュージックキャラバンin九州歴史資料館（共催：アクロス福岡）

年 月 日	内 容
10月31日（木）	教育センターキャリアアップ講座「歴史体験！～身近な文化財を通して地域の歴史や文化に親しむ～」
11月 2日（土）	ミュージアムナイト②
11月3日（日・祝）	特別展開催記念講演会「継体天皇と筑紫君磐井」
11月 6日（水）	私の成果展「全国高等学校歴史学フォーラム2024県内参加校特集展」（～1月13日（月・祝））
11月13日（水）	大宰府史跡調査研究指導委員会調査研究部会
11月15日（金）	第5回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
11月17日（日）	文化財めぐり「やめ古墳日和」
11月24日（日）	古代体験まつり
11月30日（土）	古代史研究フォーラム「筑紫君磐井の乱の実像に迫る」
12月10日（火）	企画展 発掘成果展「遠賀川式土器と弥生文化の広がり」（～3月16日（日））
12月10日（火）	パネル展「日本遺産登録10周年記念 古代日本の『西の都』・大宰府」（～3月9日（日））
12月20日（金）	第6回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
令和7年	
1月16日（木）	私の成果展「九歴ボランティア自主研究成果展」（～4月20日（日））
1月17日（金）	第7回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
1月18日（土）	キッズミュージアム「科学実験・九歴脱出ゲーム」
1月22日（水）	企画展「高良山の仏教美術」（～3月23日（日））
1月26日（日）	企画展開催記念講演会「久留米市の文化財と高良山総合調査」
2月 2日（日）	きゅうれき鬼×福まつり
2月16日（日）	ボランティアイベント「弓矢体験・竹とんぼづくり」
2月18日（火）	ボランティア自主研究交流会
2月20日（木）	有形文化財（美術工芸品）基礎研修（～2月21日（金））
2月26日（水）	文化財安全パトロール
3月 2日（日）	ボランティアイベント「折り雛づくり・組紐ストラップ」
3月 9日（日）	キッズミュージアム「藍染体験・九歴脱出ゲーム」
3月11日（火）	パネル展「筑紫地区文化財写真展ーちくし再発見ー推しの文化財（コ）～大集合！若手職員おススメの文化財～」（～3月23日（日））
3月18日（火）	特集展示「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくり2025ー」（～7月13日（日））
3月25日（火）	パネル展「保存科学成果展ー船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2024～2025ー」（～6月29日（日））

福岡県行政資料	
分類番号 JH	所属コード 2120261
登録年度 7	登録番号 0008

九州歴史資料館年報（令和6年度）

発 行 日 令和7年7月31日
編集・発行 九州歴史資料館
〒818-0068
福岡県小郡市三沢5208-3
T E L 0942-75-9575
F A X 0942-75-7834

ANNUAL BULLETIN

OF

KYUSHU HISTORICAL MESEUM

2024

CONTENTS

Preface

1	2024 Report of Kyushu Historical Museum	
(1)	Survey and Research -----	4
(2)	Exhibition -----	17
(3)	Item Available -----	26
(4)	Study Support/Museum, school Cooperation -----	37
(5)	Volunteer -----	44
(6)	Dissemination/Utilization -----	47
(7)	Priority Measures -----	62
(8)	Public Relations Activities -----	64
(9)	Practice and Training Opportunities -----	68
(10)	Support for Municipalities -----	72
(11)	Published matter -----	77
(12)	Interchange -----	78
(13)	Conference and Meeting Facilities -----	79
2	Organization of Kyushu Historical Museum	
(1)	History -----	80
(2)	Building and Grounds -----	82
(3)	Budget -----	82
(4)	Organization Chart and Staff -----	83
(5)	Rules and Regulations -----	84
3	Statistics of Kyushu Historical Museum	
(1)	Museum Visitors -----	90
(2)	Total Materials and Books -----	90
4	Outline of 2024 Activities -----	91